

平成 17 年度研修事業の概要

(各研修事業別個表)

① 各地域の基幹たる校長・教頭等の教職員に対する学校管理研修

1. 各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修（教職員等中央研修講座）	
第 1 回 校長、教頭等	1
第 2 回 校長、教頭等	3
第 3 回 校長、教頭等	5
第 4 回 校長、教頭等	7
特別研修 校長、教頭等	9
2. 各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修（教職員等中央研修講座）	
第 1 回 中堅教員	11
第 2 回 中堅教員	13
第 3 回 中堅教員	15
第 4 回 中堅教員	17
特別研修 中堅教員	19
3. 各地域の中核となる事務職員の育成を目的とした研修（公立高等学校）	21
4. 各地域の中核となる事務職員の育成を目的とした研修（公立小・中学校）	23
5. 国際的な視野、識見を有する中核的教員を育成するための海外派遣研修（海外派遣）	
(16 日)	25
(2 ヶ月)	27
(3 ヶ月)	29
(6 ヶ月)	31
(12 ヶ月)	33

② 喫緊の重要課題について、地方公共団体が行う研修等の先行段階としてセンターが行う研修

1. 道徳教育を推進するための中核となる指導者の養成を目的とした研修	
中央指導者研修	35
北海道・東北ブロック	37
関東・甲信越ブロック	39
東海・北陸ブロック	41
近畿・中国ブロック	43
ブロック別研修（大阪開催）	45
四国・九州ブロック	47

2. 子どもの体力低下・運動嫌い防止のための指導者の養成を目的とした研修	
東部ブロック	49
中部ブロック	51
西部ブロック	53
3. ITを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修	
指導主事（全国）	55
特殊教育諸学校（全国）	57
北海道・東北（中・高）	59
関東・甲（中・高）	61
関東・甲（小）	64
北陸・信越（小）	66
東海・近畿（中・高）	69
中国・四国（小）	72
九州・沖縄（中・高）	74
4. 環境保全のための教育の推進のための指導者の養成を目的とした研修	
東部ブロック	77
西部ブロック	79
5. 体験活動の円滑な実施を促進するための指導者の養成を目的とした研修	
東部ブロック	81
西部ブロック	84
6. 生徒指導上の諸課題に対応するための指導者の養成を目的とした研修	87
7. キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修	
東日本ブロック（基礎コース）	91
東日本ブロック（応用コース）	93
西日本ブロック（基礎コース）	95
西日本ブロック（応用コース）	97
8. 人権教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修	99
9. 特色ある教育課程を円滑に編成するための指導者の養成を目的とした研修 （カリキュラム・マネジメント研修）	101
10. 指導力不足教員に対応するための指導者の養成を目的とした研修	
東日本ブロック	103
西日本ブロック	105
11. 各地域において組織マネジメント研修を円滑に実施するための指導者の養成を目的とした研修	
第1回	107
第2回	109
第3回	111
12. 児童生徒の国語力向上に向けた教育の推進のための指導者の養成を目的とした研修	
東部ブロック	113
西部ブロック	115
13. 外国語指導助手に対して必要な知識・指導方法等を修得させることを目的とした研修 来日直後オリエンテーション（4月期・A日程・B日程・第2次）	117

再契約予定者研修会（A日程）	121
再契約予定者研修会（B日程）	123
14. 外国人児童生徒等に対する日本語指導のための指導者の養成を目的とした研修	
第1回	125
第2回	127
15. 児童生徒の心身の健康問題に対応するための指導者の養成を目的とした研修	129
16. 健康教育の推進のための指導者の養成を目的とした研修	131
17. 食の指導の充実のための指導者の養成を目的とした研修	133
18. 各地域における学校安全の基盤となる指導者の養成を目的とした研修	135

③ 地方公共団体の共益的事業として委託等により例外的に実施する研修

1. 産業教育、理科教育において指導的立場にある教員の派遣研修 （産業教育・理科教育）	137
2. 産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修	
農業：A-1	142
農業：A-2	144
工業：B-1	146
工業：B-2	148
商業：C-1	150
商業：C-2	152
水産：D-1	154
水産：D-2	156
家庭：E-1	158
家庭：E-2	160
家庭：E-3	162
看護：F-1	164
看護：F-2	166
看護：F-3	168
情報：G-1	170
情報：G-2	172
情報：G-3	174
福祉：H-1	176
福祉：H-2	178
技術：I-1-1	180
技術：I-1-2	182
技術：I-2-1	184
技術：I-2-2	186
技術：I-2-3	188
技術：I-2-4	190

家庭：J－1	192
3. 産業教育に携わる実習助手に対して必要な知識・技術を修得させることを目的とした研修	
農業	194
工業	196

I 研修概要

研 修 名	各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修 (第1回校長・教頭等研修)		
担 当 課 係	研修企画課 調査係		
研 修 目 的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を習得させ、各地域の中核としての教育に取り組む校長、教頭等を育成する。		
受 講 対 象	高等学校校長、高等学校教頭		
開 催 期 日	平成17年 6月20日 (月) ~平成17年 7月 8日 (金)	19日間	
受 講 人 数	計画人数 200 人	受講者数 155 人	参加率 77.5%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター		

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だ った	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	98 63.6	55 35.7	1 0.6	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

- ・ 演習による実践は有効な手段だと思います。今後とも継続をお願いします。
- ・ 参加型形式で、意見交換や他者の考えを聞くことにより、理解が深まった。
- ・ それぞれの先生方の考え方や勤務校の実態がわかるという点で、とても有意義だった。
- ・ グループのメンバーの入れ替えも必要。
- ・ 事前にあらかたの研修内容を知らせていただくと、自分なりの予習ができる気がします。
- ・ 講義と演習がバランスよく配置されていると思う。
- ・ おそらく皆の評価は概ね同じと思いますが、評価の高い講座の設定時間を長くしていただいた方がよいと思います。
- ・ 各班毎の実践研究が非常に充実していて良かった。11人のグループ討議で活発な意見交換ができてよかった。
- ・ 自問自答する機会、他校の事例を知る機会となりました。
- ・ 研修の運営が一番大変な部分だが、スムーズで良かった。

III 研修内容・方法の見直し等

- ・ 専門性の高い講義を充実した。
- ・ 研修講師となるための知識・技術の研修内容を充実した。
- ・ 選択コース数を増やし、受講者のニーズに応えるとともに、専門性を深めた。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度 各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修日程表

第1回校長・教頭等研修(281回)

平成17年6月20日(月)～平成17年7月8日(金)

第1週	6月20日(月)	6月21日(火)	6月22日(水)	6月23日(木)	6月24日(金)	6月25日(土)	6月26日(日)
午前1 8:30～ 9:15	9:30～ 受付	8:30～ 9:20 演習打合せ ①	8:30～ 9:20 演習打合せ ②	8:30～ 9:15 実践研究①	8:30～ 9:15 実践研究②	自由研修	自由研修
午前2 9:30～ 12:15	10:30～12:00 オリエンテーション①	9:30～12:15 国際理解教育 河野健一	9:30～12:00 道徳教育① 藤永芳純	9:30～15:00 学校教育を取り巻く 関係法令①②	9:30～12:15 ★カリキュラム開発と経営 戦略 小島弘道		
午後1 13:30～ 15:00	13:15～13:35 開講式	13:30～15:00 ★地方教育行政制度 (文部科学省職員)	13:00～14:30 道徳教育② 藤永芳純	松崎 勝	13:30～17:00 カリキュラムの編成 と評価 安彦忠彦		
午後2 15:15～ 17:00	15:15～17:00 オリエンテーション②	15:15～17:00 人権尊重の教育 福田 弘	14:45～17:00 教育と法規 菱村幸彦	15:15～17:00 環境教育 三島次郎			
第2週	6月27日(月)	6月28日(火)	6月29日(水)	6月30日(木)	7月1日(金)	7月2日(土)	7月3日(日)
午前1 8:30～ 9:15	8:30～ 9:15 実践研究③	8:30～ 9:15 実践研究④	8:30～ 9:15 実践研究⑤	8:30～ 9:15 実践研究⑥	8:30～ 9:15 実践研究⑦	自由研修	自由研修
午前2 9:30～ 12:15	9:30～12:00 教育課題演習 危機管理①	9:30～12:15 キャリア教育の工夫 改善 三村隆男	9:30～12:15 学習指導と評価 ②梶田正巳	9:30～12:15 研修講師となるための 知識・技術①	9:30～12:15 学校組織マネジメント ④		
午後1 13:30～ 15:00	13:00～15:00 教育課題演習 危機管理②	13:30～17:00 学校の危機管理 ①②	13:30～17:00 生徒指導上の課題 と対応①②	13:15～17:00 学校組織マネジメント ②③	13:30～17:00 学校組織マネジメント ⑤⑥		
午後2 15:15～ 17:00	15:15～17:00 危機管理 伊原正俊	高階玲治	(生徒指導上の 法的対応) 坂田 仰				
第3週	7月4日(月)	7月5日(火)	7月6日(水)	7月7日(木)	7月8日(金)		
午前1 8:30～ 9:15	8:30～ 9:15 実践研究⑧	8:30～ 9:15 実践研究⑨	8:30～ 9:15 実践研究⑩	8:30～ 9:15 実践研究⑪	8:30～ 9:15 実践研究⑫		
午前 9:30～ 12:15	9:40～12:00 学校管理運営演習 ①	9:40～12:00 学校管理運営演習 ④	9:30～12:00 学校管理運営演習 ⑦	9:30～12:15 特別支援教育 飯田雅子	9:30～12:15 ★生徒指導上の課題と対応 國分康孝		
午後1 13:30～ 15:00	13:30～15:00 学校管理運営演習 ②	13:30～15:00 学校管理運営演習⑤	13:15～14:45 地方教育行政制度の改善 (文部科学省職員)	13:30～17:00 総合的な学習の 時間②③	13:15～14:45 学校経営の課題と対応 村上和雄		
午後2 15:15～ 17:00	15:15～17:00 学校管理運営演習 ③	15:15～17:00 学校管理運営演習⑥	15:00～17:00 研修講師となるための 知識・技術②	澁澤文隆	15:00～15:30 閉講式		

I 研修概要

研 修 名	各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修 (第2回校長・教頭等研修)		
担 当 課 係	研修企画課 調査係		
研 修 目 的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を習得させ、各地域の中核としての教育に取り組む校長、教頭等を育成する。		
受 講 対 象	小学校校長、小学校教頭、中学校校長		
開 催 期 日	平成17年 7月11日 (月) ~平成17年 7月29日 (金)	19日間	
受 講 人 数	計画人数 150 人	受講者数 178 人	参加率 118.7%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター		

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	131 74.0	45 25.4	1 0.6	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・文科省の先生の指導が大変わかりやすく、法令だけでなく、大いに役立つ演習であった。最も良い研修になった。 ・学校では、学校の教育目標は掲げるが、職員はその目標に対してどのように取り組めばよいか、はっきりわからないのが現状である。学校組織マネジメントの手法は、何をどうすればよいか具体的に取る方法を提示するので、学校に取り入れられる。 ・学校経営についての新しい分析方法がわかり、有意義であった。 ・少数での話し合いは、全員発言でき、大変有効だった。 ・演習形式の研修は、他地域から参加された先生方のご意見を伺うことができ、大変参考になった。 ・同じ悩みを抱えた学校種別の話し合いの機会ともなり、さまざまな課題について意見交換をすることができ、大変よかった。 ・これだけの研修内容を計画されていることに感謝です。大変なご苦労と拝察します。 ・研修日程や資料等、わかりやすく連絡していただき、研修がとてもスムーズに進みました。 ・班毎の実践研究は、各地域の学校との情報交換ができ、非常に参考となった。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・専門性の高い講義を充実した。 ・研修講師となるための知識・技術の研修内容を充実した。 ・選択コース数を増やし、受講者のニーズに応えるとともに、専門性を深めた。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度 各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修日程表

第2回校長・教頭等研修講座(282回)

平成17年7月11日(月)～平成17年7月29日(金)

第1週	7月11日(月)	7月12日(火)	7月13日(水)	7月14日(木)	7月15日(金)	7月16日(土)	7月17日(日)
午前1 8:30～ 9:30	9:30～ 受付	8:30～ 9:15 演習打合せ	8:30～ 9:15 実践研究①	8:30～ 9:15 実践研究②	8:30～ 9:15 実践研究③	自由研修	自由研修
午前2 9:30～ 12:15	10:30～12:00 オリエンテーション①	9:30～12:15 研修講師となるための 知識・技術①	9:30～12:15 ★教育と法規 伊藤公一	9:30～15:00 学校教育を取り巻く 関係法令①②	9:30～12:15 カリキュラム開発と経営 戦略 葉養正明		
午後1 13:30～ 15:00	13:15～13:35 開講式	13:30～15:00 ★地方教育行財政制度 (文部科学省職員)	13:30～17:00 道徳教育 ①② 小寺正一	石津廣司	13:30～17:00 カリキュラムの編成 と評価 児島邦宏		
午後2 15:15～ 17:00	13:40～14:40 ★教育改革の推進 (文部科学省職員)	15:15～17:00 人権教育 横島 章	15:15～17:00 環境教育 市田則孝				
第2週	7月18日(月)	7月19日(火)	7月20日(水)	7月21日(木)	7月22日(金)	7月23日(土)	7月24日(日)
午前1 8:30～ 9:30	自由研修	8:30～ 9:15 実践研究④	8:30～ 9:15 実践研究⑤	8:30～ 9:15 実践研究⑥	8:30～ 9:15 実践研究⑦	自由研修	自由研修
午前2 9:30～ 12:15		9:30～12:00 教育課題演習 危機管理①	9:30～12:15 学習指導と評価 ②③高階玲治	9:30～12:15 国際理解教育 森本 敏	9:30～12:15 学校組織マネジメント ④		
午後1 13:30～ 15:00		13:00～15:00 教育課題演習 危機管理②	13:30～17:00 生徒指導上の課題 と対応①② (不登校問題への対応)	13:30～17:00 学校組織マネジメント ②③	13:30～17:00 学校組織マネジメント ⑤⑥		
午後2 15:15～ 17:00		15:15～17:00 ★危機管理 田中正博	石隈利紀				
第3週	7月25日(月)	7月26日(火)	7月27日(水)	7月28日(木)	7月29日(金)		
午前1 8:30～ 9:30	8:30～ 9:15 実践研究⑧	8:30～ 9:15 実践研究⑨	8:30～ 9:15 実践研究⑩	8:30～ 9:15 実践研究⑪	8:30～ 9:15 実践研究⑫		
午前 9:30～ 12:15	9:40～12:00 学校管理運営演習 ①	9:40～12:00 学校管理運営演習 ④	9:40～12:00 学校管理運営演習 ⑦	9:30～12:15 キャリア教育の工夫改善 菊池武剋	9:30～12:15 ★特別支援教育 飯田雅子		
午後1 13:30～ 15:00	13:30～15:00 学校管理運営演習 ②	13:30～15:00 学校管理運営演習⑤	13:15～14:45 地方教育行政制度の改善 (文部科学省職員)	13:30～17:00 総合的な学習の 時間②③	13:15～14:45 学校経営の課題と対応 金平敬之助		
午後2 15:15～ 17:00	15:15～17:00 学校管理運営演習 ③	15:15～17:00 学校管理運営演習⑥	15:00～17:00 研修講師となるための 知識・技術②	15:00～17:00 村川雅弘	15:00～15:30 閉講式		

I 研修概要

研 修 名	各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修 (第3回校長・教頭等研修)							
担 当 課 係	研修企画課 調査係							
研 修 目 的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を習得させ、各地域の中核としての教育に取り組む校長、教頭等を育成する。							
受 講 対 象	中学校教頭・指導主事							
開 催 期 日	平成18年 1月16日 (月) ~平成18年 2月 3日 (金)				19日間			
受 講 人 数	計画人数	200	人	受講者数	181	人	参加率	90.5%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答				
人数 (人)	割合 (%)	153	86.0	25	14.0	0	0.0	0	0.0	2

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・きめ細かな指導・運営等良く考えられていてとてもやりやすかった。 ・研修期間中に振り返る時間（自主研修）を設定すると効果が上がるのではないかと思った。 ・研修の最終日について、もう少し終了時間を早めて頂きたい。 ・研修日程は仕方ないとは思いつつも大変ハードだった。 ・指導主事のためのグループでのメリットもあるが、研修の内容により教頭のグループと混合したりして討議ができると良かったと思う。 ・事前に演習課題が用意され、自分の考えを持って望めた事で討議が活発になったと思う。 ・講義形式と演習形式のバランスがとても良くはかられていると思う。 ・事前ビデオの視聴は良いが、もっと簡潔にならないか。 ・スクリーンが見えにくい場合は、横などにもスクリーンを置くなど工夫がほしい。 ・他の地域の話聞くことで大いに参考になった。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・専門性の高い講義を充実した。 ・研修講師となるための知識・技術の研修内容を充実した。 ・選択コース数を増やし、受講者のニーズに応えるとともに、専門性を深めた。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度 各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修日程表

第3回校長・教頭等研修(286回)

平成18年1月16(月)～平成18年2月3(金)

第1週	1月16日(月)	1月17日(火)	1月18日(水)	1月19日(木)	1月20日(金)	1月21日(土)	1月22日(日)
午前1 8:30～ 9:30	9:30～ 受付	8:30～ 9:15 演習打合せ ①	8:30～ 9:15 オリエンテーション③	8:30～ 9:15 オリエンテーション④	8:30～ 9:15 演習打合せ ②	自由研修	自由研修
午前2 9:45～ 12:15	10:30～12:00 オリエンテーション① 13:15～13:35	9:30～12:15 国際理解教育 森本敏	9:30～12:15 教育と法規 若井彌一	9:30～15:00 学校教育を取り巻く 関係法令①②	9:30～12:15 カリキュラム開発と経営戦略 葉養正明		
午後1 13:30～ 15:00	開講式 13:40～14:40 ★教育改革の推進 (文部科学省職員)	13:30～15:00 研修講師となるため の知識・技術①	13:30～17:00 道徳教育 ①② 小寺正一	清水幹裕	13:30～17:00 ★カリキュラムの編成 と評価 児島邦宏		
午後2 15:15～ 17:00	15:15～17:00 オリエンテーション②	15:15～17:00 人権尊重の教育 有村久春		15:15～17:00 環境教育 三島次郎			
第2週	1月23日(月)	1月24日(火)	1月25日(水)	1月26日(木)	1月27日(金)	1月28日(土)	1月29日(日)
午前1 8:30～ 9:30	8:30～ 12:15 教育課題演習 危機管理①	8:30～ 9:15 実践研究①	8:30～ 9:15 実践研究②	8:30～ 9:15 実践研究③	8:30～ 9:15 実践研究④	自由研修	自由研修
午前2 9:45～ 12:15	伊原正俊	9:30～12:15 ★キャリア教育の 工夫改善 鹿嶋研之助	9:30～12:15 学習指導と評価 ②③ 北 俊夫	9:30～12:15 研修講師となるため の知識・技術②	9:30～12:15 学校組織マネジメント ④		
午後1 13:30～ 15:00	13:15～17:00 教育課題演習 危機管理②	13:30～17:00 学校の危機管理 ①② 南 哲	13:30～17:00 生徒指導上の課 題と対応①② (不登校) 丸山隆	13:30～17:00 学校組織マネジメント ②③	13:30～17:00 学校組織マネジメント ⑤⑥		
午後2 15:15～ 17:00	伊原正俊						
第3週	1月30日(月)	1月31日(火)	2月1日(水)	2月2日(木)	2月3日(金)		
午前1 8:30～ 9:30	8:30～ 9:15 実践研究⑤	8:30～ 9:15 実践研究⑥	8:30～ 9:15 実践研究⑦	8:30～ 9:15 オリエンテーション⑤	8:30～ 9:15 実践研究⑧		
午前2 9:45～ 12:15	9:40～12:00 学校管理運営演習 ①	9:40～12:00 学校管理運営演習 ④	9:40～12:00 学校管理運営演習 ⑦	9:30～12:15 特別支援教育 ADHDへの対応 佐々木和義	9:30～12:15 生徒指導上の 課題と対応 河村茂雄		
午後1 13:30～ 15:00	13:30～15:00 学校管理運営演習 ②	13:30～15:00 学校管理運営演習⑤ 15:15～17:00	13:15～14:45 ★地方教育行政制度の改善 (文部科学省職員)	13:30～17:00 総合的な学習の 時間②③	13:15～14:45 学校経営の課題と対応 村上和雄		
午後2 15:15～ 17:00	15:15～17:00 学校管理運営演習 ③	学校管理運営演習⑥	15:00～17:00 地方行財政制度 小熊 浩	中:澁澤文隆 指:奈須正裕	15:00～15:30 閉講式		

I 研修概要

研 修 名	各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修 (第4回校長・教頭等研修)					
担 当 課 係	研修企画課 調査係					
研 修 目 的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を習得させ、各地域の中核としての教育に取り組む校長、教頭等を育成する。					
受 講 対 象	小学校教頭・幼稚園長・指導主事・教育センター指導主事					
開 催 期 日	平成18年 2月13日 (月) ~平成18年 3月 3日 (金)	19日間				
受 講 人 数	計画人数	250 人	受講者数	152 人	参加率	60.8%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だ った	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	123 80.9	29 19.1	0 0.0	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・研修に来るまでの仕事の前倒しで慌ただしい毎日でした。その中で3本の視聴はとてきまなかったです。事前レポートもありましたので、現場の事情からもご配慮頂ければありがたいです。 ・時間を有効に使う事は良く分かるが、余りにテンポが早すぎる。過密スケジュールを少しでも解消して欲しい。 ・現在現場では特別支援教育を推進するためには、管理職への意識の向上が鍵となるといわれ、各地域において理解・推進の取り組みが行われている。もっと現場の意識改革ができるような内容の講師や演習をお願いしたい。 ・学校組織マネジメントでは、各業界で活躍されている企業の社長から、取り組んでこられた事や考えを聞きたいと思った。 ・新しい教育要領、認定こども園の運営、幼児期から学童期への教育の連続性等、最新の情報が聴きたいです。今回幼児教育関係の講師の方は素晴らしかったです。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・専門性の高い講義を充実した。 ・研修講師となるための知識・技術の研修内容を充実した。 ・選択コース数を増やし、受講者のニーズに応えるとともに、専門性を深めた。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度 各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修日程表

第4回校長・教頭等研修講座(287回)

平成18年2月13(月)～平成18年3月3日(金)

第1週	2月13日(月)	2月14日(火)	2月15日(水)	2月16日(木)	2月17日(金)	2月18日(土)	2月19日(日)
午前1 8:30～ 9:30	9:30～ 受付	8:30～ 9:20 演習打合せ ①	8:30～ 9:20 演習打合せ ②	8:30～ 9:15 実践研究①	8:30～ 9:15 実践研究②	自由研修	自由研修
午前2 9:45～ 12:15	10:30～12:00 オリエンテーション① 13:15～13:35 開講式	9:30～12:15 国際理解教育 河野健一	9:30～14:30 道徳教育 ①② 七條正典	9:30～15:00 学校教育を取り巻く 関係法令①② 石津廣司	9:30～12:15 カリキュラム開発と経戦略 ★幼稚園:無藤隆 小・指:蛭田政弘		
午後1 13:30～ 15:00	13:40～14:40 ★教育改革の推進 (文部科学省職員)	13:30～15:00 地方行財政制度 (文部科学省職員)			13:30～17:00 カリキュラムの編成 と評価		
午後2 15:15～ 17:00	15:15～17:00 オリエンテーション②	15:15～17:00 ★人権尊重の教育 横島章	14:45～17:00 教育と法規 菱村幸彦	15:15～17:00 環境教育 サンガ	幼稚園:豊田一秀 小・指:蛭田政弘		
第2週	2月20日(月)	2月21日(火)	2月22日(水)	2月23日(木)	2月24日(金)	2月25日(土)	2月26日(日)
午前1 8:30～ 9:30	8:30～ 9:15 実践研究③	8:30～ 9:15 実践研究④	8:30～ 9:15 実践研究⑤	8:30～ 9:15 実践研究⑥	8:30～ 9:15 実践研究⑦		
午前2 9:45～ 12:15	9:30～12:00 教育課題演習 危機管理①	9:30～12:15 キャリア教育の工夫 改善 渡辺三枝子 ★今後の幼児 教育の在り方 小田 豊	9:30～12:15 学習指導と評価 ②③ 幼稚園:小川博久 小・指:北俊夫	9:30～12:15 生徒指導上の課題 と対応 (児童虐待) 宮本信也	9:30～12:15 学校組織マネジメント ④		
午後1 13:30～ 15:00	13:00～15:00 教育課題演習 危機管理②	13:30～17:00 学校の危機管理 ①② 尾木和英	13:30～17:00 研修講師となるため の知識技術①	13:30～17:00 学校組織マネジメント ②③	13:30～17:00 学校組織マネジメント ⑤⑥		
午後2 15:15～ 17:00	15:15～17:00 危機管理 田中正博						
第3週	2月27日(月)	2月28日(火)	3月1日(水)	3月2日(木)	3月3日(金)		
午前1 8:30～ 9:30	8:30～ 9:15 実践研究⑧	8:30～ 9:15 実践研究⑨	8:30～ 9:15 実践研究⑩	8:30～ 9:15 実践研究⑪	8:30～ 9:15 実践研究⑫		
午前 9:45～ 12:15	9:40～12:00 学校管理運営演習 ①	9:40～12:00 学校管理運営演習 ④	9:40～12:00 学校管理運営演習 ⑦	9:30～12:15 特別支援教育 中井滋	9:30～12:15 生徒指導上の課題と対応 菅野純		
午後1 13:30～ 15:00	13:30～15:00 学校管理運営演習 ②	13:30～15:00 学校管理運営演習⑤ 15:15～17:00 学校管理運営演習⑥	13:15～14:45 地方教育行政制度の改善 (文部科学省職員)	13:30～17:00 総合的な学習の 時間②③	13:15～14:45 学校経営の課題と対応 金平敬之助		
午後2 15:15～ 17:00	15:15～17:00 学校管理運営演習 ③		15:00～17:00 研修講師となるため の知識・技術②	幼稚園:藤崎真知代 小・指:吉崎静夫	15:00～15:30 閉講式		

I 研修概要

研修名	各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修 (特別研修 校長・教頭等)		
担当課係	研修企画課 調査係		
研修目的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を習得させ、各地域の中核としての教育に取り組む校長、教頭等を育成する。		
受講対象	小学校教頭・中学校教頭・指導主事		
開催期日	平成17年11月7日(月)～平成17年11月22日(火)	16日間	
受講人数	計画人数	— 人	受講者数 41 人 参加率 —
開催場所	独立行政法人教員研修センター		

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答
人数(人)	割合(%)	36 87.8	5 12.2	0 0.0	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

- ・単に話を伺うだけでなく、少人数での討議も入れて頂けるとより研修が深まるように思う。
- ・中教審の内容を含めて、タイムリーな話が聞けた。
- ・いろいろな研修の仕方・方法が分かってよかった。
- ・演習と講義のバランスはとてもよかった。
- ・事前に準備しなければいけないものをまとめてテキスト化したり、前回受講した人との情報の受け渡し等があるとより先を見ながら密度の高い研修を受ける事ができたのではないかな。
- ・他県の様子や正しい判断等について、多く聞かせていただくことができ、参考になった。
- ・演習形式により自ら考える施設が身に付いてきたように感じる。
- ・グループでの演習時間がもう少し増えるとさらによかった。
- ・その日の講義や演習の後で、その日の学習を振り返り自己評価・相互評価し合う時間が必要ではないかな。
- ・演習自体も勉強になったが、他県及び他校の様子や情報を聞いて、大変勉強になった。
- ・講義の内容を理解した後、演習形式の研修がある事でより理解が深まった。分かっている事と、使える事は違うと痛感した。

III 研修内容・方法の見直し等

- ・受講機会の拡大を図ることを目的に、日程を短縮した特別研修を実施した。
19日→16日(平成17年11月7日～11月22日)
- ・危機管理として、メディアトレーニング(模擬記者会見など)を導入した。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度 各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修日程表

第289回特別研修

平成17年11月7日(月)～平成17年11月22日(火)

第1週	11月7日(月)	11月8日(火)	11月9日(水)	11月10日(木)	11月11日(金)	11月12日(土)	11月13日(日)
午前1 8:30～ 9:15	9:30～ 受付	8:30～ 9:15 演習打合せ①	8:30～ 9:15 演習打合せ②	8:30～ 9:15 実践研究①	8:30～ 9:15 実践研究②	自由研修	自由研修
午前2 9:30～ 12:15	10:30～12:00 オリエンテーション①	9:30～12:15 地方教育行財政制度 磯田文雄	9:30～14:30 ★人権尊重の教育 森 実	9:30～17:00 学校教育を取り巻く 関係法令 清水幹裕	9:30～12:15 生徒指導上の法的対応 坂田 仰		
午後1 13:30～ 15:00	13:15～13:35 開講式 13:40～14:40 ★教育改革の推進 (文部科学省職員)	13:30～15:00 キャリア教育 三村隆男	14:45～17:00 教育と法規 菱村幸彦	15:15～17:00 特別支援教育 廣瀬由美子	13:30～15:00 総合的な学種の時間 平野朝久		
午後2 15:15～ 17:00	15:15～17:00 オリエンテーション②	15:15～17:00 道徳教育 藤永芳純					
第2週	11月14日(月)	11月15日(火)	11月16日(水)	11月17日(木)	11月18日(金)	11月19日(土)	11月20日(日)
午前1 8:30～ 9:15	8:30～ 9:15 実践研究③	8:30～ 9:15 実践研究④	8:30～ 9:15 実践研究⑤	8:30～ 9:15 実践研究⑥	8:30～ 9:15 実践研究⑦	自由研修	自由研修
午前2 9:30～ 12:15	9:30～12:15 研修講師と なるための知識技術	9:30～12:15 カリキュラム編成と経営戦略 児島邦宏	9:30～17:00 危機管理 メディアトレーニング ②	9:30～17:00 学校組織 マネジメント ①	9:30～17:00 学校組織 マネジメント ②		
午後1 13:30～ 17:00	13:30～15:00 学習指導と評価 加藤幸次	13:30～17:00 危機管理 メディアトレーニング ①	石川慶子	産業能率大学	産業能率大学		
午後2 15:15～ 17:00	15:15～17:00 性非行 内山絢子	石川慶子					
第3週	11月21日(月)	11月22日(火)					
午前1 8:30～ 9:15	8:30～ 9:15 実践研究⑧	8:30～ 9:15 オリエンテーション③					
午前2 9:30～ 12:15	9:40～12:00 学校管理運営演習 ①	9:40～12:00 学校管理運営演習 ④					
午後1 13:30～ 15:00	13:30～15:00 学校管理運営演習 ②	13:30～14:45 学校管理運営演習 ⑤					
午後2 15:15～ 17:00	15:15～17:00 学校管理運営演習 ③	15:00～15:30 閉講式					

I 研修概要

研 修 名	各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修 (第1回中堅教員研修)					
担 当 課 係	研修企画課 調査係					
研 修 目 的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を習得させ、各地域の中核としての教育に取り組む校長、教頭等を育成する。					
受 講 対 象	高等学校教諭					
開 催 期 日	平成17年 5月 9日 (月) ~平成17年 6月 7日 (水)	30日間				
受 講 人 数	計画人数	200 人	受講者数	167 人	参加率	83.5%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	127 77.0	38 23.0	0 0.0	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・演習中の討議や情報交換が有意義でした。是非、この形式を継続してください。 ・所々に各県、各校の実情に即した討議が行えるような機会がちりばめられており、法規の裏づけだけにとどまらず、情報交換もおこなえたことがよかった。 ・組織マネジメントは、今、本校で必要なことで、実践中です。これまで本能的に実践してきたことを体系的に理解できたので、より冷静に進められるだろう。 ・演習形式もいろいろ工夫されており、理解しやすかった。 ・大変よく組み立ててある研修でした。学ぶ事の楽しさを再認識するとともに多くの仲間に出会い、今後の教育活動のエネルギー充電となった研修でした。 ・法令に触れる機会が少なかったので大変有意義だった。 ・資料、演習内容とも工夫と研究がなされている。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・専門性の高い講義を充実した。 ・研修講師となるための知識・技術の研修内容を充実した。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度 各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修日程表

第1回中堅教員研修講座(280回)

平成17年5月9日(月)～平成17年6月7日(火)

第1週	5月9日(月)	5月10日(火)	5月11日(水)	5月12日(木)	5月13日(金)	5月14日(土)	5月15日(日)
午前1 8:30～ 9:30	9:30～ 受付	8:30～9:20 演習打合せ①	8:30～9:20 演習打合せ②	8:30～9:20 演習打合せ③	8:30～9:15 学管事前検討会①		
午前2 9:45～ 12:15	10:30～12:00 オリエンテーション①	9:30～12:15 研修講師となるための知識・技術①	9:30～12:15 教育と法規 若井彌一	9:30～17:00 学校教育を取り巻く関係法令 ①②③ 清水幹裕	9:30～17:00 道徳教育 ①②③ 押谷由夫	自由研修	自由研修
午後1 13:30～ 15:00	13:15～13:35 閉講式 ★教育改革の推進 (文部科学省職員)	13:30～15:00 国際理解教育 平野次郎	13:30～17:00 人権尊重の教育 ①② 森 実				
午後2 15:15～ 17:00	15:15～17:00 オリエンテーション②	15:15～17:00 国際理解教育 多田孝志					
第2週	5月16日(月)	5月17日(火)	5月18日(水)	5月19日(木)	5月20日(金)	5月21日(土)	5月22日(日)
午前1 8:30～ 9:30	8:30～9:15 学管事前検討会②	8:30～9:15 学管事前検討会③	8:30～9:15 実践研究①	8:30～9:15 実践研究②	8:30～9:15 実践研究③		
午前2 9:45～ 12:15	9:30～12:00 教育課題演習 危機管理①	9:30～12:00 教育課題演習 いじめ	9:30～12:00 教育課題演習 性非行	9:30～12:15 不登校への対応 金澤純三	9:30～12:15 地方教育行財政制度 磯田文雄	自由研修	自由研修
午後1 13:30～ 15:00	13:00～15:00 教育課題演習 危機管理②	13:00～15:00 教育課題演習 不登校	13:00～15:00 教育課題演習 薬物乱用	13:30～17:00 ★学校の危機管理 ①② 上地安昭	13:30～17:00 学習指導と評価 ②③ 工藤文三		
午後2 15:15～ 17:00	15:15～17:00 危機管理(マスコミ対応) 田中正博	15:15～17:00 いじめ問題への対応 勝田 顕	15:15～17:00 性非行・薬物乱用 石橋昭良				
第3週	5月23日(月)	5月24日(火)	5月25日(水)	5月26日(木)	5月27日(金)	5月28日(土)	5月29日(日)
午前1 8:30～ 9:30	8:30～9:15 実践研究④	8:30～9:15 実践研究⑤	8:30～9:15 実践研究⑥	8:30～9:15 学管事前検討会④	8:30～9:15 学管事前検討会⑤		
午前 9:45～ 12:15	9:30～12:15 カリキュラム開発と経営戦略 蛭田政弘	9:30～17:00 特色あるカリキュラム編成 <選択演習> 情報教育:鈴木克明 健康教育:野津有司 ボランティア教育:長沼豊	9:30～12:15 カリキュラムの管理と評価 ★八尾坂修	9:30～12:00 組織マネジメント ②	9:30～12:15 組織マネジメント ⑤小島弘道	自由研修	自由研修
午後1 13:30～ 15:00	13:30～17:00 カリキュラム編成の実践 蛭田政弘		13:30～17:00 総合的な学習の時間 吉崎静夫	13:00～17:00 組織マネジメント ③④	13:30～15:00 組織マネジメント ⑥		
午後2 15:15～ 17:00					15:15～17:00 出会い系サイト 下田博次		
第4週	5月30日(月)	5月31日(火)	6月1日(水)	6月2日(木)	6月3日(金)	6月4日(土)	6月5日(日)
午前1 8:30～ 9:30	8:30～9:15 実践研究⑦	8:30～9:15 実践研究⑧	8:30～9:15 実践研究⑨	8:30～9:15 実践研究⑩	8:30～9:15 実践研究⑪		
午前 9:45～ 12:15	9:40～12:00 学校管理運営演習 ①	9:40～12:00 学校管理運営演習 ④	9:40～12:00 学校管理運営演習 ⑦	9:40～12:00 学校管理運営演習 ⑩	9:30～12:15 研修講師となるための知識・技術②	自由研修	自由研修
午後1 13:30～ 15:00	13:30～15:00 学校管理運営演習 ②	13:30～15:00 学校管理運営演習 ⑤	13:30～15:00 学校管理運営演習 ⑧	13:15～14:45 ★地方教育行政制度の改善 (文部科学省職員)	13:30～17:00 環境教育 ①② ★市川智史		
午後2 15:15～ 17:00	15:15～17:00 学校管理運営演習 ③	15:15～17:00 学校管理運営演習 ⑥	15:15～17:00 学校管理運営演習 ⑨	15:00～17:00 特別支援教育① 大南英明			
第5週	6月6日(月)	6月7日(火)					
午前1 8:30～ 9:30	8:30～9:15 実践研究⑫	8:30～9:15 実践研究⑬					
午前2 9:45～ 12:15	9:30～12:15 生徒指導上の課題と対応 諸富祥彦	9:30～12:15 特別支援教育② 上林靖子					
午後1 13:30～ 15:00	13:30～17:00 キャリア教育の工夫改善 ①② 鹿嶋研之助	13:15～14:45 学校経営の課題と対応 童門冬二					
午後2 15:15～ 17:00		15:00～15:30 閉講式					

I 研修概要

研 修 名	各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修 (第2回中堅教員研修)					
担 当 課 係	研修企画課 調査係					
研 修 目 的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核としての教育に取り組む校長、教頭等を育成する。					
受 講 対 象	小学校教諭					
開 催 期 日	平成17年 8月 4日 (木) ~平成17年 9月 2日 (金)	30日間				
受 講 人 数	計画人数	300 人	受講者数	223 人	参加率	74.3%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	179 80.6	43 19.4	0 0.0	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常ほとんど意識する事のなかった法規について学ぶ事ができて良かった。 ・ 特にSWOT分析は参考になった。本校にも特色ある学校づくりに向けて強み・弱みを分析しながら生かしていきたい。 ・ 学校経営についての新しい分析方法がわかり、有意義であった。 ・ 概要を説明してくださる講師が多く、授業の姿が見えない。できれば半分は授業レベルの話が聴きたいと思った。 ・ 法の基に教育が成り立っているということが再認識することができた。 ・ 教育活動中の事故について事例検討があり、有益だった。 ・ 基本的な考え方から指導案検討による演習は2学期以降の実践に生かせる。 ・ 事例をもとにした演習により具体的なアイデアがたくさん出され参考になった。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門性の高い講義を充実した。 ・ 研修講師となるための知識・技術の研修内容を充実した。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度 各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修日程表

第2回中堅教員研修講座(283回)

平成17年8月4日(木)～平成17年9月2日(金)

第1週				8月4日(木)	8月5日(金)	8月6日(土)	8月7日(日)
午前1 8:30～ 9:30				9:30～ 受付	8:30～ 9:20 演習打合せ①		
午前2 9:45～ 12:15				10:30～12:00 オリエンテーション①	9:30～12:15 地方教育行政制度 磯田文雄	自由研修	自由研修
午後1 13:30～ 15:00				13:15～13:35 開校式	13:30～17:00 人権尊重の教育 ①②		
午後2 15:15～ 17:00				★教育改革の推進 (文部科学省職員) 15:15～17:00 オリエンテーション②	有村久春		
第2週	8月8日(月)	8月9日(火)	8月10日(水)	8月11日(木)	8月12日(金)	8月13日(土)	8月14日(日)
午前1 8:30～ 9:30	8:30～ 9:15 オリエンテーション③	8:30～ 9:15 オリエンテーション④	8:30～ 9:15 オリエンテーション⑤	8:30～ 9:15 学校管理運営演習 事前検討会①	8:30～ 9:15 実践研究①	自由研修	自由研修
午前2 9:45～ 12:15	9:30～12:15 教育と法規 伊勢呂裕史	9:30～17:00 学校教育を取り巻く 関係法令 ①②③	9:30～12:00 教育課題演習 危機管理①	9:30～12:00 教育課題演習 いじめ	9:30～12:00 教育課題演習 児童虐待		
午後1 13:30～ 15:00	13:30～15:00 国際理解教育 池上 彰	13:30～15:00 清水幹裕	13:00～15:00 教育課題演習 危機管理②	13:00～15:00 教育課題演習 不登校	13:00～15:00 教育課題演習 児童虐待		
午後2 15:15～ 17:00	★15:15～17:00 国際理解教育 米田伸次		15:15～17:00 危機管理 伊原正俊	15:15～17:00 ★いじめへの対応 森田洋司	15:15～17:00 児童虐待への対応 坪井節子		
第3週	8月15日(月)	8月16日(火)	8月17日(水)	8月18日(木)	8月19日(金)	8月20日(土)	8月21日(日)
午前1 8:30～ 9:30	8:30～ 9:15 オリエンテーション⑥	8:30～ 9:15 実践研究②	8:30～ 9:15 実践研究③	8:30～ 9:15 実践研究④	8:30～ 9:15 学校管理運営演習 事前検討会②	自由研修	自由研修
午前 9:45～ 12:15	9:30～12:15 不登校への対応 菅野 純	9:30～12:15 カリキュラム開発と経営戦略 天笠 茂	9:30～12:15 特色あるカリキュラム編成 成田國英	9:30～12:15 カリキュラムの評価 長尾彰夫	9:30～17:00 道徳教育 ①②③ 横山利弘		
午後1 13:30～ 15:00	13:30～15:00 学習と評価② 清水静海	13:30～15:00 カリキュラム編成の実際 天笠 茂	13:30～17:00 特色あるカリキュラム編成 情報教育:林徳治 環境教育:西岡伸紀	13:30～17:00 総合的な学習の時間 洪澤文隆			
午後2 15:15～ 17:00	15:15～17:00 学習と評価③ 清水静海	15:15～17:00 カリキュラム編成の実際 天笠 茂	★ボランティア教育 池田幸也				
第4週	8月22日(月)	8月23日(火)	8月24日(水)	8月25日(木)	8月26日(金)	8月27日(土)	8月28日(日)
午前1 8:30～ 9:30	8:30～ 9:15 実践研究⑤	8:30～ 9:15 実践研究⑥	8:30～ 9:15 実践研究⑦	8:30～ 9:15 実践研究⑧	8:30～ 9:15 実践研究⑨	自由研修	自由研修
午前 9:45～ 12:15	9:30～12:00 学校管理運営演習 ①	9:30～12:00 学校管理運営演習 ④	9:30～12:00 学校管理運営演習 ⑦	9:40～12:00 学校管理運営演習 ⑩	9:30～12:15 研修講師となるため の知識技術①		
午後1 13:30～ 15:00	13:30～15:00 学校管理運営演習 ②	13:30～15:00 学校管理運営演習 ⑤	⑧	13:15～14:45 ★地方教育行政制度の改善 (文部科学省職員)	13:30～17:00 キャリア教育の工夫改善 ①②		
午後2 15:15～ 17:00	15:15～17:00 学校管理運営演習 ③	15:15～17:00 学校管理運営演習 ⑥	15:15～17:00 ⑨	15:00～17:00 特別支援教育 中井 滋	竹内登規夫		
第5週	8月29日(月)	8月30日(火)	8月31日(水)	9月1日(木)	9月2日(金)		
午前1 8:30～ 9:30	8:30～ 9:15 実践研究⑩	8:30～ 9:15 実践研究⑪	8:30～ 9:15 実践研究⑫	8:30～ 9:15 オリエンテーション⑦	8:30～ 9:15 実践研究⑬		
午前2 9:45～ 12:15	9:30～12:15 組織マネジメント ②	9:30～12:15 ★組織マネジメント ⑤木岡一明	9:30～12:15 LD・ADHDへの対応 上林靖子	9:30～12:15 学級経営における生徒指導 河村茂雄	9:30～12:15 生徒指導上の課題と対応 袖山雅弘		
午後1 13:30～ 15:00	13:30～15:00 組織マネジメント ③	13:30～15:00 組織マネジメント ⑥	13:30～17:00 環境教育 ①② 小澤紀美子	13:30～17:00 学校の危機管理 ①② 尾木和英	13:15～14:45 学校経営の課題と対応 米長邦雄		
午後2 15:15～ 17:00	15:15～17:00 組織マネジメント ④	15:15～17:00 研修講師となるため の知識技術②			14:55～15:30 閉講式		

I 研修概要

研 修 名	各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修 (第3回中堅教員研修)					
担 当 課 係	研修企画課 調査係					
研 修 目 的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核としての教育に取り組む校長、教頭等を育成する。					
受 講 対 象	小学校教諭・中学校教諭					
開 催 期 日	平成17年 9月26日 (木) ~平成17年10月25日 (金)	30日間				
受 講 人 数	計画人数	300 人	受講者数	218 人	参加率	72.7%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	191 88.4	25 11.6	0 0.0	0 0.0	2

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・演習形式では少人数による話し合いや、練り上げで意見が出やすく良く理解できた。 ・演習を取り入れることで、具体的で身近な問題として考える事ができた。 ・「小グループ→発表」ではなく「小グループ→学習班での発表・質疑→発表」の方が、具体的な評価や助言が得られると思う。 ・重複する内容が多くもう少し整理して欲しい。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・専門性の高い講義を充実した。 ・研修講師となるための知識・技術の研修内容を充実した。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度 各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修日程表
第3回中堅教員研修講座(284回)

平成17年9月26日(月)～平成17年10月25日(火)

第1週	9月26日(月)	9月27日(火)	9月28日(水)	9月29日(木)	9月30日(金)	10月1日(土)	10月2日(日)
午前1 8:30～ 9:30	9:30～ 受付	8:30～ 9:20 演習打合せ ①	8:30～ 9:20 オリエンテーション ③	8:30～ 9:20 オリエンテーション ④	8:30～ 9:20 オリエンテーション ⑤	自由研修	自由研修
午前2 9:45～ 12:15	10:30～12:00 オリエンテーション① 13:15～13:35 開講式 ★教育改革の推進 (文部科学省職員)	9:30～12:15 地方教育行財政制度 松井一麿 13:30～15:00 国際理解教育 池上彰	9:30～12:15 ★教育と法規 若井彌一 13:30～17:00 人権尊重の教育 ①② 福田 弘	9:30～17:00 学校教育を取り巻く 関係法令 ①②③ 松崎 勝	9:30～17:00 ★道徳教育 ①②③ 七條正典 (9:30～11:00) 衛星配信		
午後1 13:30～ 15:00	15:15～17:00 オリエンテーション②	15:15～17:00 国際理解教育 田島伸次					
午後2 15:15～ 17:00							
第2週	10月3日(月)	10月4日(火)	10月5日(水)	10月6日(木)	10月7日(金)	10月8日(土)	10月9日(日)
午前1 8:30～ 9:30	8:30～ 9:15 学校管理運営演習 事前検討会①	8:30～ 9:15 学習指導と評価 事前検討会	8:30～ 9:15 実践研究①	8:30～ 9:15 実践研究②	8:30～ 9:15 実践研究③	自由研修	自由研修
午前2 9:45～ 12:15	9:30～12:00 教育課題演習 危機管理①	9:30～12:00 教育課題演習 いじめ	9:30～12:00 教育課題演習 児童虐待	9:30～12:15 不登校への対応 大木みわ	9:30～12:15 ★学級経営にお ける生徒指導 滝 充		
午後1 13:30～ 15:00	13:00～15:00 教育課題演習 危機管理②	13:00～15:00 教育課題演習 不登校	13:00～15:00 教育課題演習 児童虐待	13:30～17:00 学校の危機管理 ①②③ 南 哲	13:30～17:00 環境教育 市川智史		
午後2 15:15～ 17:00	15:15～17:00 危機管理 高階隆治	15:15～17:00 いじめ問題への対応 森田洋司	15:15～17:00 ★児童虐待への対応 宮本信也				
第3週	10月10日(月)	10月11日(火)	10月12日(水)	10月13日(木)	10月14日(金)	10月15日(土)	10月16日(日)
午前1 8:30～ 9:30	自由研修	8:30～ 9:15 オリエンテーション ⑥	8:30～ 9:15 実践研究④	8:30～ 9:15 実践研究⑤	8:30～ 9:15 実践研究⑥	自由研修	自由研修
午前 9:45～ 12:15		9:30～12:15 カリキュラム開発と経営戦略 天笠 茂	9:30～12:15 カリキュラムの管理と評価 谷川彰英	9:30～12:15 特色あるカリキュラム編成 松下俱子	9:30～12:15 研修講師となるた めの知識技術①		
午後1 13:30～ 15:00		13:30～17:00 カリキュラム編成の実際 天笠 茂	13:30～17:00 特色あるカリキュラム編成 〈選択演習〉 情報教育:鈴木敏恵 健康教育:野津有司 ボランティア教育:興招寛	13:30～17:00 総合的な学習の時間 ②③ 吉崎静夫	13:30～17:00 学習指導と評価 ②③ 清水静海		
午後2 15:15～ 17:00							
第4週	10月17日(月)	10月18日(火)	10月19日(水)	10月20日(木)	10月21日(金)	10月22日(土)	10月23日(日)
午前1 8:30～ 9:30	8:30～ 9:15 実践研究⑦	8:30～ 9:15 実践研究⑧	8:30～ 9:15 実践研究⑨	8:30～ 9:15 実践研究⑩	8:30～ 9:15 実践研究⑪	自由研修	自由研修
午前 9:45～ 12:15	9:40～12:00 学校管理運営演習 ①	9:40～12:00 学校管理運営演習 ④	9:40～12:00 学校管理運営演習 ⑦	9:40～12:00 学校管理運営演習⑩ ⑩	9:30～17:00 学校組織マネジメント ②③④		
午後1 13:30～ 15:00	13:30～15:00 学校管理運営演習 ②	13:30～15:00 学校管理運営演習 ⑤	13:30～15:00 学校管理運営演習 ⑧	13:30～14:45 地方教育行政制度の改善 (文部科学省職員)			
午後2 15:15～ 17:00	15:15～17:00 学校管理運営演習 ③	15:15～17:00 学校管理運営演習 ⑥	15:15～17:00 学校管理運営演習 ⑨	15:00～17:00 研修講師となるた めの知識技術②			
第5週	10月24日(月)	10月25日(火)					
午前1 8:30～ 9:30	8:30～ 9:15 オリエンテーション⑦	8:30～ 9:15 実践研究⑫					
午前2 9:45～ 12:15	9:30～12:15 特別支援教育 上野一彦	9:30～12:15 生徒指導上の課題と対応 國分康孝					
午後1 13:30～ 15:00	13:30～17:00 ★キャリア教育 ①②	13:15～14:45 学校経営の課題と対応 大竹美喜					
午後2 15:15～ 17:00	パネルディスカッション 渡辺三枝子	15:00～15:30 閉講式					

I 研修概要

研 修 名	各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修 (第4回中堅教員研修)					
担 当 課 係	研修企画課 調査係					
研 修 目 的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核としての教育に取り組む校長、教頭等を育成する。					
受 講 対 象	小学校教務主任・中学校教務主任・高等学校教務主任					
開 催 期 日	平成17年11月 7日 (月) ~平成17年12月 6日 (火)	30日間				
受 講 人 数	計画人数	200 人	受講者数	244 人	参加率	122.0%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	219 91.3	21 8.8	0 0.0	0 0.0	3

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・多くの先生方の考え方や日々の取り組みや情報交換ができて良かった。 ・時間不足の演習もあり残念。もう少し時間的に余裕があると良かった。 ・演習形式は良いと思うが、内容や時間の設定に課題があるものがあった。 ・グループ演習の結果を講堂で発表しても協議しにくい。グループで演習をすれば充分であり、それを発表し合う時間はもったいない。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・専門性の高い講義を充実した。 ・研修講師となるための知識・技術の研修内容を充実した。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度 各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修日程表

第4回中堅教員研修(285回)

平成17年11月7日(月)～平成17年12月6日(火)

第1週	11月7日(月)	11月8日(火)	11月9日(水)	11月10日(木)	11月11日(金)	11月12日(土)	11月13日(日)
午前1	9:30～ 受付	8:30～9:15 演習打合せ①	8:30～9:15 オリエンテーション③	8:30～9:15 オリエンテーション④	8:30～9:15 演習打合せ②	自由研修	自由研修
午前2	10:30～12:00 オリエンテーション①	9:30～12:15 地方教育行財政制度 松井一彦	9:30～14:30 ★人権尊重の教育 ①② 森 実 (9:30～11:00 衛星)	9:30～17:00 学校教育を取り巻く 関係法令 ①②③ 清水幹裕	9:30～17:00 ★道徳教育 ①②③ 横山利弘 (9:30～11:00 衛星)		
午後1	13:15～13:35 開講式 ★教育改革の推進 (文部科学省職員)	13:30～15:00 国際理解教育 飯田健一					
午後2	15:15～17:00 オリエンテーション②	15:15～17:00 国際理解教育 多田孝志	14:45～17:00 教育と法規 菱村幸彦				
第2週	11月14日(月)	11月15日(火)	11月16日(水)	11月17日(木)	11月18日(金)	11月19日(土)	11月20日(日)
午前1	8:30～9:15 演習打合せ③	8:30～9:15 オリエンテーション⑤	8:30～9:15 演習打合せ④	8:30～9:15 実践研究①	8:30～9:15 実践研究②	自由研修	自由研修
午前2	9:30～12:00 教育課題演習 いじめ	9:30～12:00 教育課題演習 危機管理①	9:30～12:00 教育課題演習 小:児童虐待 中・高:性非行	9:30～12:15 ★不登校への対応 丸山隆	9:30～12:15 喫煙・飲酒・薬物 乱用への対応 川畑徹朗		
午後1	13:00～15:00 教育課題演習 不登校	13:00～15:00 教育課題演習 危機管理②	13:00～15:00 教育課題演習 小:児童虐待 中・高:性非行	13:30～17:00 学校の危機管理 ①② 上地安昭	13:30～17:00 学習指導と評価 小・中:清水静海 高校:工藤文三		
午後2	15:15～17:00 いじめへの対応 黒沢幸子	15:15～17:00 危機管理(マスキへの対応) 伊原正俊	15:15～17:00 児童虐待への対応 玉井邦夫				
第3週	11月21日(月)	11月22日(火)	11月23日(水)	11月24日(木)	11月25日(金)	11月26日(土)	11月27日(日)
午前1	8:30～9:15 実践研究③	8:30～9:15 実践研究④	自由研修	8:30～9:15 実践研究⑤	8:30～9:15 実践研究⑥	自由研修	自由研修
午前	9:30～12:15 カリキュラム開発と経営戦略 菊池龍三郎	9:30～12:15 カリキュラム管理と評価 八尾坂修		9:30～12:15 特色あるカリキュラムの編成 (特別活動) 成田國英	9:30～17:00 学校組織 マネジメント ②③④		
午後1	13:30～17:00 カリキュラム編成の実際 小・中:安彦忠彦 高校:山極隆	13:30～17:00 特色あるカリキュラム編成 情報教育:浅井宗海 健康教育:和唐正勝 ボランティア教育:吉永宏		13:30～17:00 総合的な学習の時間(2)(3) 小・中:平野朝久 高校:村川雅弘			
午後2							
第4週	11月28日(月)	11月29日(火)	11月30日(水)	12月1日(木)	12月2日(金)	12月3日(土)	12月4日(日)
午前1	8:30～9:15 実践研究⑦	8:30～9:15 実践研究⑧	8:30～9:15 実践研究⑨	8:30～9:15 実践研究⑩	8:30～9:15 実践研究⑪	自由研修	自由研修
午前	9:40～12:00 学校管理運営演習 ①	9:40～12:00 学校管理運営演習 ④	9:40～12:00 学校管理運営演習 ⑦	9:40～12:00 学校管理運営演習 ⑩	9:30～12:15 研修講師となるため の知識技術②		
午後1	13:30～15:00 学校管理運営演習 ②	13:30～15:00 学校管理運営演習 ⑤	13:30～15:00 学校管理運営演習 ⑧	13:15～14:45 ★地方教育行政制度の改善 (文部科学省職員)	13:30～17:00 環境教育 ①② 小澤紀美子		
午後2	15:15～17:00 学校管理運営演習 ③	15:15～17:00 学校管理運営演習 ⑥	15:15～17:00 学校管理運営演習 ⑨	15:00～17:00 研修講師となるため の知識技術①			
第5週	12月5日(月)	12月6日(火)					
午前1	8:30～9:15 オリエンテーション⑥	8:30～9:15 演習打合せ⑤					
午前2	9:30～12:15 特別支援教育 上野一彦	9:30～12:15 ★生徒指導上の課題と対応 諸富祥彦					
午後1	13:30～17:00 キャリア教育の工夫改善 (パネルディスカッション) 鹿嶋研之助	13:15～14:45 学校経営の課題と対応 米長邦雄					
午後2		15:00～15:30 閉講式					

I 研修概要

研 修 名	各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修 (特別研修 中堅教員)							
担 当 課 係	研修企画課 調査係							
研 修 目 的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核としての教育に取り組む校長、教頭等を育成する。							
受 講 対 象	高等学校教諭							
開 催 期 日	平成17年 9月26日 (月) ~平成17年10月21日 (金)				26日間			
受 講 人 数	計画人数	—	人	受講者数	27	人	参加率	—
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	25	2	0	0	0
		92.6	7.4	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

- ・ 演習が多く取り入れられるのは良い。又、演習で得たものは還元しやすい。
- ・ 少人数での演習とそれをまとめる講義とのバランスが良かった。
- ・ 普段このようにじっくり教員同士で一つのテーマを話し合える事も少ないので、そうした機会の必要性を改めて感じた。
- ・ 学校現場に直接関わる教育課題演習はもっと取り入れて欲しい。

III 研修内容・方法の見直し等

- ・ 受講機会の拡大を図ることを目的に、日程を短縮した特別研修を実施した。
30日→26日 (平成17年9月26日~10月21日)
- ・ 危機管理として、メディアトレーニング (模擬記者会見など) を導入した。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度 各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修日程表

第288回 特別研修

平成17年9月26日(月)～平成17年10月21日(金)

第1週	9月26日(月)	9月27日(火)	9月28日(水)	9月29日(木)	9月30日(金)	10月1日(土)	10月2日(日)
午前1	9:30～ 受付	8:30～ 9:15 演習打合せ ①	8:30～ 9:15 演習打合せ ②	8:30～ 9:15 演習打合せ ③	8:30～ 9:15 実践研究①	自由研修	自由研修
午前2	10:30～12:00 オリエンテーション①	9:30～12:15 地方教育行財政制度 松井一麿	9:30～12:15 ★ 教育と法規 若井彌一	9:30～17:00 学校教育を取り巻く 関係法令 ①②③ 松崎 勝	9:30～12:00 キャリア教育 (初等中等教育と 高等教育の接続) 田中秀利		
午後1	13:15～13:35 閉講式 ★教育改革の推進 (文部科学省職員)	13:30～15:00 国際理解教育 池上彰	13:30～17:00 人権尊重の教育 ①② 福田 弘		13:30～17:00 道徳教育 押谷由夫		
午後2	15:15～17:00 オリエンテーション②	15:15～17:00 国際理解教育 田島伸次					
第2週	10月3日(月)	10月4日(火)	10月5日(水)	10月6日(木)	10月7日(金)	10月8日(土)	10月9日(日)
午前1	8:30～ 9:15 演習打合せ ④	8:30～ 9:15 実践研究②	8:30～ 9:15 実践研究③	8:30～ 9:15 実践研究④	8:30～ 9:15 実践研究⑤	自由研修	自由研修
午前2	9:30～12:00 教育課題演習 危機管理①	9:30～12:00 教育課題演習 いじめ	9:30～17:00 危機管理 (メディアトレーニング) 石川慶子	9:30～17:00 学校組織 マネジメント 産業能率大	9:30～12:15 不登校生徒への対応 金澤純三		
午後1	13:00～15:00 教育課題演習 危機管理②	13:00～15:00 教育課題演習 不登校 森田洋司			13:30～17:00 これからの学校 経営の在り方 マーサー社		
午後2	15:15～17:00 危機管理 高階玲治	15:15～17:00 いじめ問題への対応					
第3週	10月10日(月)	10月11日(火)	10月12日(水)	10月13日(木)	10月14日(金)	10月15日(土)	10月16日(日)
午前1	自由研修	8:30～ 9:15 実践研究⑥	8:30～ 9:15 実践研究⑦	8:30～ 9:15 実践研究⑧	8:30～ 9:15 演習打合せ ⑤	自由研修	自由研修
午前2		9:30～12:15 カリキュラム開発と経営戦略 天笠 茂	9:30～12:15 カリキュラムの管理と評価 谷川彰英	9:30～14:30 進路指導の 現状と課題 (キャリア教育) 宮下和己	9:30～17:00 学習指導と評価 二井正浩		
午後1		13:30～17:00 総合的な学習 の時間 工藤文三	13:30～17:00 特色あるカリキュラム 編成(情報技術) 林 徳治				
午後2				14:45～17:00 研修講師となるため の知識技術①			
第4週	10月17日(月)	10月18日(火)	10月19日(水)	10月20日(木)	10月21日(金)		
午前1	8:30～ 9:15 実践研究⑨	8:30～ 9:15 実践研究⑩	8:30～ 9:15 実践研究⑪	8:30～ 9:15 演習打合せ ⑥	8:30～ 9:15 オリエンテーション③		
午前2	9:40～12:00 学校管理運営演習 ①	9:40～12:00 学校管理運営演習 ④	9:40～12:00 学校管理運営演習 ⑦	9:40～12:00 学校管理運営演習 ⑩	9:30～12:15 特別支援教育 中井 滋		
午後1	13:30～17:00 学校管理運営演習 ②③	13:30～17:00 学校管理運営演習 ⑤⑥	13:30～17:00 学校管理運営演習 ⑧⑨	13:15～14:45 地方教育行政制度の改善 (文部科学省職員)	13:15～14:45 学校経営の課題と対応 秋山エリカ		
午後2				15:00～17:00 研修講師となるため の知識技術②	15:00～15:30 閉講式		

I 研修概要

研 修 名	各地域の中核となる事務職員の育成を目的とした研修（公立高等学校）							
担 当 課 係	教育課題研修課 健康教育研修係							
研 修 目 的	学校管理運営、教育課題等に関する高度・専門的な知識を修得させ、各地域の中核となる事務職員を育成する。							
受 講 対 象	高等学校及び特殊教育諸学校の事務長及び同等の事務職員で、各地域の学校管理運営、学校事務の改善充実、教育改革の推進の取組の中核的な者として期待される者							
開 催 期 日	平成17年 9月12日（月）～平成17年 9月16日（金）				5日間			
受 講 人 数	計画人数	180	人	受講者数	180	人	参加率	100.0%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	46; 26.9	110; 64.3	11; 6.4	4; 2.3	3;

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ 職場を離れ、有意義な研修を受講でき非常に良かったと思います。 ・ 他県の事務長と交流を深めることができ、情報を多く得ることができました。今後の職務遂行に役立てていこうと考えています。 ・ 学校組織マネジメントは時間が少なく消化不良。 ・ 演習「危機管理と個人情報保護法」、演習「信頼される開かれた学校づくり」は、今後の参考として非常に役立つ。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・ 演習「学校組織マネジメント」を取り入れた。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度 各地域の中核となる事務職員の育成を目的とした研修（高等学校） 日程表

9月12日(月)	13:00	13:30	14:00	15:40	16:00	17:30
会場	受付		開会式 テオリエンテーション	演習① 「教育改革の流れと取り組み」 文部科学省 大臣官房審議官 山中 伸一	休 憩	班別協議①-1 「学校安全管理」 兵庫教育大学 教授 西岡 伸紀

9月13日(火)	9:00	10:30	10:40	12:00	13:00	14:50	15:00	16:30	16:40	17:30
会場	受付	演習②-1 「研修講師となるための知識・技術」 独立行政法人教員研修センター 研修企画課 主任指導主事 山口 宏	休 憩	演習②-2 「研修講師となるための知識・技術」 独立行政法人教員研修センター 研修企画課 主任指導主事 山口 宏	星 食 憩	演習③-1 「危機管理と個人情報保護法」 パームコンサルティンググループ 代表 伊原 正俊	休 憩	演習③-2 「危機管理と個人情報保護法」 パームコンサルティンググループ 代表 伊原 正俊	休 憩	実践研究発表

9月14日(水)	9:00	10:30	10:40	12:00	13:00	14:50	15:00	16:50	17:00	17:30
会場	受付	講義・演習④-1 「学校組織マネジメント」 山形大学地域教育文化学部助教授 加藤 崇英	休 憩	講義・演習④-2 「学校組織マネジメント」 山形大学地域教育文化学部助教授 加藤 崇英	星 食 憩	講義・演習④-3 「学校組織マネジメント」 山形大学地域教育文化学部助教授 加藤 崇英	休 憩	講義・演習④-4 「学校組織マネジメント」 山形大学地域教育文化学部助教授 加藤 崇英	休 憩	実践研究発表

9月15日(木)	9:00	10:30	10:40	12:00	13:00	14:50	15:00	16:50	17:00	17:30
会場	受付	班別協議①-2 「学校安全管理」 高等学校事務職員	休 憩	班別協議①-3 「学校安全管理」 高等学校事務職員	星 食 憩	班別協議発表会①-1 「学校安全管理」 兵庫教育大学 教授 西岡 伸紀 高等学校事務職員	休 憩	班別協議発表会①-2 「学校安全管理」 兵庫教育大学 教授 西岡 伸紀 高等学校事務職員	休 憩	実践研究発表

9月16日(金)	9:00	10:30	10:40	12:00	12:00
会場	受付	演習⑤ 「公務員制度の改革と事務職員への期待」 総務省人事・恩給局参事官室補佐 内田 広之	休 憩	演習⑥ 「信頼される開かれた学校づくり」 東京都立つばさ総合高等学校長 山上 隆男	閉会式

I 研修概要

研 修 名	各地域の中核となる事務職員の育成を目的とした研修（公立小・中学校）							
担 当 課 係	教育課題研修課 健康教育研修係							
研 修 目 的	学校管理運営、教育課題等に関する高度・専門的な知識等を修得させ、各地域の中核となる事務職員を育成する。							
受 講 対 象	小学校及び中学校の幹部事務職員で、原則として学校事務職員の経験が20年以上の者で、各地域の学校管理運営、学校事務の改善充実、教育改革の推進の取組の中核的な者として期待される者							
開 催 期 日	平成17年 9月 5日（月）～平成17年 9月 9日（金）				5日間			
受 講 人 数	計画人数	180	人	受講者数	172	人	参加率	95.6%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答				
人数 (人)	割合 (%)	86	51.2	81	48.2	1	0.6	0	0.0	3

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・充実した研修内容を受講することができた。 ・様々な立場の講師から、幅広い分野の内容の講義・演習を受けることができ、大変有意義でした。 ・グループ研修での積極的な意見交換や交流が大変役に立ちました。 ・これからの学校運営において「事務職員がどうあるべきか」考えることができ、今回学んだことを十分に生かして生きたい。 ・学校組織マネジメントは1日では消化不良。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・演習「学校組織マネジメント」の内容の改善を図った。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度 各地域の中核となる事務職員の育成を目的とした研修（公立小・中学校） 日程表

9月5日(月)	13:00	13:30	13:40	14:00	15:40	16:00	17:30
会場	教員研修センター(つくば)						
受付	開会式		演習① 「教育改革の流れと取り組み」 文部科学省初等中等教育局 審議官 山中 伸一		休 憩		班別協議①-1 「学校安全管理」 東京学芸大学 教授 渡邊 正樹

第2研修棟 2階

9月6日(火)	10:30	10:40	12:00	13:00	14:50	15:00	16:30	16:40	17:30
会場	教員研修センター(つくば)								
受付	演習②-1 「研修講師となるための知識・技術」 独立行政法人教員研修センター 研修企画課 主幹 高橋 俊英	休 憩	演習②-2 「研修講師となるための知識・技術」 独立行政法人教員研修センター 研修企画課 主幹 高橋 俊英	昼 食	演習③-1 「危機管理と個人情報保護法」 パームコンサルティンググループ 代表 伊原 正俊	休 憩	演習③-2 「危機管理と個人情報保護法」 パームコンサルティンググループ 代表 伊原 正俊	休 憩	実践研究 発表

9月7日(水)	10:30	10:40	12:00	13:00	14:50	15:00	16:50	17:00	17:30
会場	教員研修センター(つくば)								
受付	講義・演習④-1 「学校組織マネジメント」 宇都宮大学教育学部教授 藤井 佐知子	休 憩	講義・演習④-2 「学校組織マネジメント」 宇都宮大学教育学部教授 藤井 佐知子	昼 食	講義・演習④-3 「学校組織マネジメント」 宇都宮大学教育学部教授 藤井 佐知子	休 憩	講義・演習④-4 「学校組織マネジメント」 宇都宮大学教育学部教授 藤井 佐知子	休 憩	実践研究 発表

9月8日(木)	10:30	10:40	12:00	13:00	14:50	15:00	16:50	17:00	17:30
会場	教員研修センター(つくば)								
受付	班別協議①-2 「学校安全管理」 小・中学校事務職員	休 憩	班別協議①-3 「学校安全管理」 小・中学校事務職員	昼 食	班別協議発表会①-1 「学校安全管理」 東京学芸大学 教授 渡邊 正樹 小・中学校事務職員	休 憩	班別協議発表会①-2 「学校安全管理」 東京学芸大学 教授 渡邊 正樹 小・中学校事務職員	休 憩	実践研究 発表

9月9日(金)	9:00	10:30	10:40	12:00
会場	教員研修センター(つくば)			
受付	演習⑤ 「学社融合・社会人との協同」 秋津コミュニケーション顧問 岸 裕司	休 憩	演習⑥ 「地方教育財政について」 文部科学省初等中等教育局 財務課教育財政室 室長補佐 岩 井 宏	閉 会 式

I 研修概要

研 修 名	国際的な視野、識見を有する中核的教員を育成するための海外派遣研修 (16日以内コース)					
担 当 課 係	基幹研修事業課 研修第二係					
研 修 目 的	各地域の中核的な教員等を諸外国に派遣し、派遣先国の教育関係機関・学校現場及び大学・研究機関等において、各国の教育行財政制度と教育改革の動向、学校の管理運営システム、学習指導・生徒指導の改善・充実、環境教育、国際理解教育等の各種教育課題への実践的取り組みを理解・実体験することを通じ、国際的視野に立った識見の獲得、当該教員の実践的指導能力の向上、さらにはそれらの他の教員等への波及を図り、もって我が国の教育改革、学校改革の推進に資する。					
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特殊教育諸学校等の教員等で、優れた調査研究課題を有し、かつ健康で海外における所定の期間の研修及び生活に適應できる50歳以下の者とする。					
開 催 期 日	別紙のとおり			16日		
受 講 人 数	計画人数	1,122 人	受講者数	620 人	参加率	55.3%
開 催 場 所	別紙のとおり					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	445	136	1	0	12
		76.5	23.4	0.2	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・団員の要望を取り入れ、多くの施設で研修できたことはよかったが、一つの施設での研修時間が限られ、十分質問できないこともあった。いろいろな校種の教員で構成されているのでやむを得ないと思う。逆に、いろいろな校種の教員で構成されているためそれぞれの見方で質疑ができ有意義だった。 ・模範的な学校ばかりではなく、一般的な地域の学校や教育課題を抱えている学校をも訪問することも必要だと思う。 ・学校訪問で、各学校の代表が学校の特色・教育方針の説明・質疑に応じてくれたが、一般の教員との意見交換をする機会があれば、もっと深い情報収集ができたように思う。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市に対し、派遣内容、国、時期等の企画案の早期提示（募集期限の6ヶ月前）を実施した。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度 国際的な視野、識見を有する中核的教員を育成するための
海外派遣研修（16日以内コース） 一覧表

ブロック	団名	地域	研修国	研修都市	人数	出発日	帰国日
A (北海道、東北)	A1-10U	北米	マサチューセッツ州	フォールリバー	21	10月7日	10月22日
B (関東、新潟)	B1-09Y	欧州	ノルウェー	ベルゲン	22	9月20日	10月5日
	B2-10A	アジア	ベトナム	ホーチミン	18	10月13日	10月28日
	B3-10O	オセアニア	ニュージーランド	オークランド	21	10月13日	10月28日
	B4-11U	北米	ウィスコンシン州	マディソン	19	11月10日	11月25日
	B5-11U	北米	テキサス州	プレイノ	18	11月10日	11月25日
	B6-11Y	欧州	スペイン	バリャドリッド	22	11月17日	12月2日
	B7-11Y	欧州	ノルウェー、デンマーク	オスロ、コペンハーゲン	19	11月17日	12月2日
	B8-11Y	欧州	ドイツ	ハイドルベルク、ボン	24	11月24日	12月9日
C (北陸)	C1-10U	北米	オレゴン州	ポートランド	22	10月13日	10月28日
D (東海)	D1-09O	オセアニア	オーストラリア	ケアンズ	20	9月25日	10月10日
	D2-10U	北米	カリフォルニア州	デービス	19	10月13日	10月28日
	D3-10Y	欧州	ドイツ	フランクフルト	21	10月27日	11月11日
	D4-11A	アジア	タイ	ナコンラチャシマ	18	11月10日	11月25日
	D5-11U	北米	カリフォルニア州	サクラメント	20	11月10日	11月25日
	D6-11C	カナダ	オンタリオ州	ピーターバロ	20	11月9日	11月24日
	D7-11Y	欧州	スウェーデン	ストックホルム	20	11月22日	12月7日
E (近畿)	E1-09O	オセアニア	オーストラリア	ジーロング	21	9月29日	10月14日
	E2-10U	カナダ	オンタリオ州	ベルビル	22	10月27日	11月11日
	E3-11U	北米	マサチューセッツ州	ボストン	20	11月3日	11月18日
	E4-11Y	欧州	イギリス、フランス	ケンブリッジ、マルセイユ	23	11月16日	12月1日
	E5-11Y	欧州	ドイツ	アウグスブルク	21	11月10日	11月25日
F (四国)	F1-09O	オセアニア	ニュージーランド	クライストチャーチ	14	10月14日	10月29日
	F2-10U	北米	カリフォルニア州	サンフランシスコ	13	10月26日	11月10日
	F3-11Y	欧州	スペイン	コルトバ	13	11月17日	12月2日
	F4-11A	アジア	シンガポール、マレーシア	シンガポール、クアラルンプール	17	10月13日	10月28日
G (中国、九州、 沖縄)	G1-09O	オセアニア	オーストラリア	ホバート	22	9月22日	10月7日
	G2-11Y	欧州	イギリス	エジンバラ	22	11月17日	12月2日
	G3-11U	北米	カリフォルニア州	モンテレー	19	11月10日	11月25日
	G4-11Y	欧州	フィンランド	トゥルク	21	11月22日	12月7日
Z (全国)	Z1-01Y	欧州	ドイツ・オランダ	ミュンヘン アムステルダム	28	1月13日	1月28日
31団					620		

I 研修概要

研 修 名	国際的な視野、識見を有する中核的教員を育成するための海外派遣研修 (3か月以内コース：留学コース(2か月))							
担 当 課 係	基幹研修事業課 研修第二係							
研 修 目 的	各地域の中核的な教員等を諸外国に派遣し、派遣先国の教育関係機関・学校現場及び大学・研究機関等において、各国の教育行財政制度と教育改革の動向、学校の管理運営システム、学習指導・生徒指導の改善・充実、環境教育、国際理解教育等の各種教育課題への実践的取り組みを理解・実体験することを通じ、国際的視野に立った識見の獲得、当該教員の実践的指導能力の向上、さらにはそれらの他の教員等への波及を図り、もって我が国の教育改革、学校改革の推進に資する。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特殊教育諸学校等の教員等で、優れた調査研究課題を有し、かつ健康で海外における所定の期間の研修及び生活に適應できる50歳以下の者とする。							
開 催 期 日	別紙のとおり					2ヶ月		
受 講 人 数	計画人数	100	人	受講者数	61	人	参加率	61.0%
開 催 場 所	別紙のとおり							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答				
人数(人)	割合(%)	41	67.2	19	31.1	1	1.6	0	0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・大学での語学研修を大学生など向けのコースではなく、レベルの高い大学院進学者を対象とした研修の方が適していると思う。 ・学校訪問が環境的教育的に恵まれた生徒たちが集まる学校だったので、もっと一般的な学校も訪問してみたかった。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・日本の授業において活かせる講義を設定するよう、派遣先の大学に依頼する等、より連携協力の向上を図った。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度 国際的な視野，識見を有する
中核的教員を育成するための海外派遣研修

【12か月以内コース】

派遣国	大 学	人数	派 遣 期 間
イギリス	バーミンガム大学	3	4月19日(火)～ (H18)3月13日(月)
計		3	

【6か月以内コース】

派遣国	大学研修担当大学	語学研修所(大学)	人数	派 遣 期 間
イギリス	エセックス大学	ベルラングッジ スクール ホウソフ ホール ルッチ	5	6月23日(木)～ 12月15日(木)
		ベルラングッジ スクール サロン ウォルデン	5	
	ノッティンガム大学	スクール オブ イングリッシュ スタディズ フォルクストン	6	6月16日(木)～ 12月8日(木)
		リジェント オックスフォード	5	
カナダ	オタワ大学	トロント大学	6	6月23日(木)～ 12月15日(木)
		ヨーク大学	6	
計			33	

【3か月以内コース(留学コース)】

派遣国	大 学	人数	派 遣 期 間
イギリス	エクセター大学	16	7月16日(土)～ 9月12日(月)
アメリカ	ワシントン大学	16	7月23日(土)～ 9月19日(月)
オーストラリア	ラ・トローブ大学	15	7月22日(金)～ 9月18日(日)
ニュージーランド	マッセー大学	14	7月22日(金)～ 9月18日(日)
計		61	

I 研修概要

研 修 名	国際的な視野、識見を有する中核的教員を育成するための海外派遣研修 (3か月以内コース：一般コース(3か月))							
担 当 課 係	基幹研修事業課 研修第二係							
研 修 目 的	各地域の中核的な教員等を諸外国に派遣し、派遣先国の教育関係機関・学校現場及び大学・研究機関等において、各国の教育行財政制度と教育改革の動向、学校の管理運営システム、学習指導・生徒指導の改善・充実、環境教育、国際理解教育等の各種教育課題への実践的取り組みを理解・実体験することを通じ、国際的視野に立った識見の獲得、当該教員の実践的指導能力の向上、さらにはそれらの他の教員等への波及を図り、もって我が国の教育改革、学校改革の推進に資する。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特殊教育諸学校等の教員等で、優れた調査研究課題を有し、かつ健康で海外における所定の期間の研修及び生活に適応できる50歳以下の者とする。							
開 催 期 日	別紙のとおり				3ヶ月			
受 講 人 数	計画人数	160	人	受講者数	38	人	参加率	23.8%
開 催 場 所	別紙のとおり							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	27 79.4	7 20.6	0 0.0	0 0.0	1

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・小規模の学校と(大都市の)大規模な学校の2校で研修を行った。学校の構成もカリキュラムも異なる学校を訪れることができ、大変勉強になった。 ・毎日プログラムが細かく決められている上に、さらに学びたい要望を組み入れてくれた。一人一人の研修テーマを第一に考えてくれ、本当に素晴らしい研修だった。是非今後も引き続きこのプログラムを、日本の若手教員に体験してもらいたいと願っている。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・派遣先の学校での校務に積極的に体験できるよう、派遣先の学校に依頼し、諸外国での学校の管理運営に関する研修を深めるようにした。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度 国際的な視野，識見を有する
中核的教員を育成するための海外派遣研修

【3か月以内コース（一般コース）】

派遣国	大 学	人数	派 遣 期 間
アメリカ	W I 団 (ウィスコンシン州)	13	9月21日(水)～ 12月19日(月)
	O H 団 (オハイオ州)	12	9月19日(月)～ 12月17日(土)
オーストラリア	S A 団 (南オーストラリア州)	13	9月26日(月)～ 12月24日(土)
計		38	

I 研修概要

研 修 名	国際的な視野、識見を有する中核的教員を育成するための海外派遣研修 (6か月以内コース)							
担 当 課 係	基幹研修事業課 研修第二係							
研 修 目 的	各地域の中核的な教員等を諸外国に派遣し、派遣先国の教育関係機関・学校現場及び大学・研究機関等において、各国の教育行財政制度と教育改革の動向、学校の管理運営システム、学習指導・生徒指導の改善・充実、環境教育、国際理解教育等の各種教育課題への実践的取り組みを理解・実体験することを通じ、国際的視野に立った識見の獲得、当該教員の実践的指導能力の向上、さらにはそれらの他の教員等への波及を図り、もって我が国の教育改革、学校改革の推進に資する。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特殊教育諸学校等の教員等で、優れた調査研究課題を有し、かつ健康で海外における所定の期間の研修及び生活に適応できる50歳以下の者とする。							
開 催 期 日	別紙のとおり				6ヶ月			
受 講 人 数	計画人数	60	人	受講者数	33	人	参加率	55.0%
開 催 場 所	別紙のとおり							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	26; 78.8	7; 21.2	0; 0.0	0; 0.0	0;

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・語学研修の期間を短縮し、大学に入る前の準備として大学で補講をしていただけたらと思う。大学での研修は5ヶ月でも良いのではないかと思う。 ・研修初めの約2ヶ月間の語学研修は、特に有意義であったと思う。中・高でも使える英語指導法や教材があり、語学研修の期間を長くした方が、語学力を向上させるためにもよいと思う。 ・プロジェクト作成について様々な教育理論について触れることができ有益であった。実践するのに工夫する必要はあるが、理論的な裏づけが身についた。 ・後半の大学での研修では、日本人11名のみクラスのとなり、相互理解が深まるにつれて、意見交換が活発に行われるようになったが、現地大学生との交流する機会が少なくなってしまった。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・派遣先の大学における研修日数を確保するため、事前に行う語学研修先（外国の語学教室等）を変更した。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度 国際的な視野，識見を有する
中核的教員を育成するための海外派遣研修

【12か月以内コース】

派遣国	大 学	人数	派 遣 期 間
イギリス	バーミンガム大学	3	4月19日(火)～ (H18)3月13日(月)
計		3	

【6か月以内コース】

派遣国	大学研修担当大学	語学研修所(大学)	人数	派 遣 期 間
イギリス	エセックス大学	ベルラングッジ スクール ボウソープ ホール ノルッチ	5	6月23日(木)～ 12月15日(木)
		ベルラングッジ スクール サロン ウォルデン	5	
	ノッティンガム大学	スクール オブ イングリッシュ スタディズ フォルクストン	6	6月16日(木)～ 12月8日(木)
		レジエント オックスフォード	5	
カナダ	オタワ大学	トロント大学	6	6月23日(木)～ 12月15日(木)
		ヨーク大学	6	
計			33	

【3か月以内コース(留学コース)】

派遣国	大 学	人数	派 遣 期 間
イギリス	エクセター大学	16	7月16日(土)～ 9月12日(月)
アメリカ	ワシントン大学	16	7月23日(土)～ 9月19日(月)
オーストラリア	ラ・トローブ大学	15	7月22日(金)～ 9月18日(日)
ニュージーランド	マッセー大学	14	7月22日(金)～ 9月18日(日)
計		61	

I 研修概要

研 修 名	国際的な視野、識見を有する中核的教員を育成するための海外派遣研修 (12か月以内コース)							
担 当 課 係	基幹研修事業課研修第二係							
研 修 目 的	各地域の中核的な教員等を諸外国に派遣し、派遣先国の教育関係機関・学校現場及び大学・研究機関等において、各国の教育行財政制度と教育改革の動向、学校の管理運営システム、学習指導・生徒指導の改善・充実、環境教育、国際理解教育等の各種教育課題への実践的取り組みを理解・実体験することを通じ、国際的視野に立った識見の獲得、当該教員の実践的指導能力の向上、さらにはそれらの他の教員等への波及を図り、もって我が国の教育改革、学校改革の推進に資する。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特殊教育諸学校等の教員等で、優れた調査研究課題を有し、かつ健康で海外における所定の期間の研修及び生活に適応できる50歳以下の者とする。							
開 催 期 日	別紙のとおり				12ヶ月			
受 講 人 数	計画人数	10	人	受講者数	3	人	参加率	30.0%
開 催 場 所	別紙のとおり							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	3: 100.0	0: 0.0	0: 0.0	0: 0.0	0:

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・大学での研修内容について非常に満足しました。 ・小学校教員のためのプログラムも工夫していただきました。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・選択できる講義数を多く設定するよう、派遣先の大学に依頼した。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度 国際的な視野，識見を有する
中核的教員を育成するための海外派遣研修

【12か月以内コース】

派遣国	大 学	人数	派遣期間
イギリス	バーミンガム大学	3	4月19日(火)～ (H18)3月13日(月)
計		3	

【6か月以内コース】

派遣国	大学研修担当大学	語学研修所(大学)	人数	派遣期間
イギリス	エセックス大学	ベルランゲッジ スクール ボウソープ ホール ルッチ	5	6月23日(木)～ 12月15日(木)
		ベルランゲッジ スクール サロン ウォルデン	5	
	ノッティンガム大学	スクール オブ イングリッシュ スタディズ フォルクストン	6	6月16日(木)～ 12月8日(木)
		レジエント オックスフォード	5	
カナダ	オタワ大学	トロント大学	6	6月23日(木)～ 12月15日(木)
		ヨーク大学	6	
計			33	

【3か月以内コース(留学コース)】

派遣国	大 学	人数	派遣期間
イギリス	エクセター大学	16	7月16日(土)～ 9月12日(月)
アメリカ	ワシントン大学	16	7月23日(土)～ 9月19日(月)
オーストラリア	ラ・トロープ大学	15	7月22日(金)～ 9月18日(日)
ニュージーランド	マッセー大学	14	7月22日(金)～ 9月18日(日)
計		61	

I 研修概要

研 修 名	道徳教育を推進するための中核となる指導者の養成を目的とした研修 (中央指導者研修)					
担 当 課 係	教育課題研修課 教育課程研修係					
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、児童生徒の実態に即した道徳教育の推進、社会奉仕体験活動の活用等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の校長、教頭及び教諭であって、「道徳教育を推進するための中核となる指導者の養成を目的とした研修（ブロック別指導者研修）」等の講師等としての活動を行う予定である者					
開 催 期 日	平成17年 6月13日（月）～平成17年 6月17日（金）	5日間				
受 講 人 数	計画人数	275 人	受講者数	252 人	参加率	91.6%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答
人数 (人)	割合 (%)	107 63.7	61 36.3	0 0.0	0 0.0	13

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・実践的な内容が多く、非常に参考になった。 ・ここでしか聞けない話をもっと聞きたかったです。 ・講師の先生の話はどれも大変よかった。地方に住んでいるとなかなかこういう講師の先生のお話を直接聞くことはできないので、大いに刺激を受けた。 ・高校教員である自分にとって、小・中学校の道徳教育の実践の一端にふれたり、高校における在り方生き方に関する教育の先進的事例を目の当たりにできたことは大変参考になった。 ・学習指導案の作成時の話し合いが大変役に立った。また、模擬授業もよかった。 ・改めて道徳教育の重要性やすばらしさを知ることができました。この研修で得たことを様々な場で報告したり、広げていきたいと思えます。 ・全体として非常に講師も参加者もレベルが高く、充実した内容の研修でした。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・中央指導者研修と各県単位の地区で実施する地区別研修を統合した。 ・期間を4日間→5日間に延長した。 ・新たに高等学校担当指導主事等を受講対象に加えるとともに高等学校部会を設置した。 ・小・中学校部会においては、学習指導案の作成や模擬授業を新たに加えた。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度 道徳教育を推進するための中核となる指導者となるための研修（中央指導者研修）
日程表

第1日目	10:20	10:50	12:00	13:00	14:40	14:55	16:30	16:40	17:00	
6月13日 (月)	受付	10:50	12:00	13:00	14:40	14:55	16:30	16:40	17:00	
			開講式	休 休 休 講 講 講 式 式 式	「道徳教育の現状と課題」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 柴原弘志	休 休 休 講 講 講 式 式 式	「児童生徒の実態、道徳教育の課題点・課題」 「生命の尊重をテーマとした教育の実践」 地域代表者 若松秀一 若松秀一 福嶋千寿子			
第2日目	9:00	10:40	10:55	12:35	14:00	17:00				
6月14日 (火)	9:00	10:40	10:55	12:35	14:00	17:00				
	「学校全体で取り組む道徳教育の効果的な推進」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 永田繁雄	休 休 休 講 講 講 式 式 式	「今求められる道徳教育」 昭和大子大学 教授 押谷由夫	休 休 休 講 講 講 式 式 式	シンポジウム 「学校、家庭、地域社会の積極的な連携による道徳教育の推進に向けて」 福岡教育大学教授 堀正之 昭和大子大学教授 押谷由夫 地域代表者 和田真由美 京都市立西陣中央小学校教頭 若松秀一 鳥取県倉吉市立久米中学校教頭 福嶋千寿子 千葉県立長狭高等学校教諭 遠藤 忠					
第3日目	9:00	10:40	10:55	12:30	13:30	16:15	16:30	17:00		
6月15日 (水)	9:00	10:40	10:55	12:30	13:30	16:15	16:30	17:00		
小・中学校部会	「学校全体で取り組む道徳教育（心のノート）の生かし方も含めて」 ＜指導助言者＞ 1 A班：東京都教育庁義務教育指導課統括指導主事 白倉美智 2 A班：東京都府中市立府中第四小学校校長 後藤 忠 3 A班：奈良県立教育研究所教職研修係長 島 恒生 4 A班：東京都府中市立府中第四中学校校長 富山謙一 5 A班：石川県小松市立能美小学校校長 濱上ミチ子 6 A班：東京都大田区立矢立小学校校長 山田佳子	休 休 休 講 講 講 式 式 式	「道徳の授業づくりと道徳教育の評価」 1 B班：広島県教育委員会教育指導第三課指導主事 亀井伸幸 2 B班：仙台市教育センター指導主事 齋藤謙司 3 B班：高知県大正町立大正中学校校長 田邊重任 4 B班：秋田県湯沢市教育委員会学校教育指導班主幹 中川一志 5 B班：東京都墨田区立小梅小学校校長 林 和子 6 B班：福岡県教育庁教育振興部義務教育課指導主事 横山浩志	休 休 休 講 講 講 式 式 式	「道徳の授業づくりと道徳教育の評価」 1 B班：広島県教育委員会教育指導第三課指導主事 亀井伸幸 2 B班：仙台市教育センター指導主事 齋藤謙司 3 B班：高知県大正町立大正中学校校長 田邊重任 4 B班：秋田県湯沢市教育委員会学校教育指導班主幹 中川一志 5 B班：東京都墨田区立小梅小学校校長 林 和子 6 B班：福岡県教育庁教育振興部義務教育課指導主事 横山浩志	休 休 休 講 講 講 式 式 式	「道徳の授業づくりと道徳教育の評価」 1 B班：広島県教育委員会教育指導第三課指導主事 亀井伸幸 2 B班：仙台市教育センター指導主事 齋藤謙司 3 B班：高知県大正町立大正中学校校長 田邊重任 4 B班：秋田県湯沢市教育委員会学校教育指導班主幹 中川一志 5 B班：東京都墨田区立小梅小学校校長 林 和子 6 B班：福岡県教育庁教育振興部義務教育課指導主事 横山浩志	休 休 休 講 講 講 式 式 式	「道徳の授業づくりと道徳教育の評価」 1 B班：広島県教育委員会教育指導第三課指導主事 亀井伸幸 2 B班：仙台市教育センター指導主事 齋藤謙司 3 B班：高知県大正町立大正中学校校長 田邊重任 4 B班：秋田県湯沢市教育委員会学校教育指導班主幹 中川一志 5 B班：東京都墨田区立小梅小学校校長 林 和子 6 B班：福岡県教育庁教育振興部義務教育課指導主事 横山浩志	
高等学校部会	「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 柴原弘志	休 休 休 講 講 講 式 式 式	「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 ＜指導助言者＞ 高1班：文部科学省教育課程課教科調査官 大谷いづみ 高3班：広島市教育センター指導主事 谷田増幸	休 休 休 講 講 講 式 式 式	「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 柴原弘志	休 休 休 講 講 講 式 式 式	「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 柴原弘志	休 休 休 講 講 講 式 式 式	「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 柴原弘志	
第4日目	9:00	10:40	10:55	12:30	13:30	14:45	15:00	17:00		
6月16日 (木)	9:00	10:40	10:55	12:30	13:30	14:45	15:00	17:00		
小・中学校部会	「小・中学校部会協議」 「学習指導要領の趣意を生かした道徳の時間の充実への取組み」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 永田繁雄	休 休 休 講 講 講 式 式 式	「具体的な道徳教育実践への取組方法等」 高1班：文部科学省教育課程課教科調査官 大谷いづみ 高3班：広島市教育センター指導主事 谷田増幸	休 休 休 講 講 講 式 式 式	「具体的な道徳教育実践への取組方法等」 高1班：文部科学省教育課程課教科調査官 大谷いづみ 高3班：広島市教育センター指導主事 谷田増幸	休 休 休 講 講 講 式 式 式	「具体的な道徳教育実践への取組方法等」 高1班：文部科学省教育課程課教科調査官 大谷いづみ 高3班：広島市教育センター指導主事 谷田増幸	休 休 休 講 講 講 式 式 式	「具体的な道徳教育実践への取組方法等」 高1班：文部科学省教育課程課教科調査官 大谷いづみ 高3班：広島市教育センター指導主事 谷田増幸	
高等学校部会	「事例発表」 「高等学校における道徳教育の充実」 ＜事例発表者＞ 福岡県立相葉志緒館 高等学校教諭 瀬在丸裕紀	休 休 休 講 講 講 式 式 式	「活動等を生かした人間としての在り方生き方に関する教育」 ＜指導助言者＞ 高1班：文部科学省教育課程課教科調査官 大谷いづみ 高3班：広島市教育センター指導主事 谷田増幸	休 休 休 講 講 講 式 式 式	「活動等を生かした人間としての在り方生き方に関する教育」 ＜指導助言者＞ 高1班：文部科学省教育課程課教科調査官 大谷いづみ 高3班：広島市教育センター指導主事 谷田増幸	休 休 休 講 講 講 式 式 式	「活動等を生かした人間としての在り方生き方に関する教育」 ＜指導助言者＞ 高1班：文部科学省教育課程課教科調査官 大谷いづみ 高3班：広島市教育センター指導主事 谷田増幸	休 休 休 講 講 講 式 式 式	「活動等を生かした人間としての在り方生き方に関する教育」 ＜指導助言者＞ 高1班：文部科学省教育課程課教科調査官 大谷いづみ 高3班：広島市教育センター指導主事 谷田増幸	
第5日目	9:00	10:20	10:35	11:40	12:40	14:50	15:00			
6月17日 (金)	9:00	10:20	10:35	11:40	12:40	14:50	15:00			
小・中学校部会	「先生 頑張って」 NPO法人「V」プロジェクト 開発セクター 事務局長 原田紀久子	休 休 休 講 講 講 式 式 式	「道徳教育の充実のための研修プログラム作成」	休 休 休 講 講 講 式 式 式	「道徳教育の充実のための研修プログラム作成」	休 休 休 講 講 講 式 式 式	「道徳教育の充実のための研修プログラム作成」	休 休 休 講 講 講 式 式 式	「道徳教育の充実のための研修プログラム作成」	
高等学校部会	「先生 頑張って」 NPO法人「V」プロジェクト 開発セクター 事務局長 原田紀久子	休 休 休 講 講 講 式 式 式	「道徳教育の充実のための研修プログラム作成」	休 休 休 講 講 講 式 式 式	「道徳教育の充実のための研修プログラム作成」	休 休 休 講 講 講 式 式 式	「道徳教育の充実のための研修プログラム作成」	休 休 休 講 講 講 式 式 式	「道徳教育の充実のための研修プログラム作成」	

I 研修概要

研 修 名	道徳教育を推進するための中核となる指導者の養成を目的とした研修 (ブロック別指導者研修) (北海道・東北ブロック)							
担 当 課 係	教育課題研修課 教育課程研修係							
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、児童生徒の実態に即した道徳教育の推進、社会奉仕体験活動の活用等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の校長、教頭 及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者							
開 催 期 日	平成17年 8月17日 (水) ~平成17年 8月19日 (金)			3日間				
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	108	人	参加率	※
開 催 場 所	秋田キャッスルホテル (秋田県秋田市)							

※ブロック別指導者研修： 計画人数1,115人 受講者数1,059人 参加率95.0%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	72 73.5	26 26.5	0 0.0	0 0.0	6

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育全体像をよく理解することができたことが大きな成果であった。 ・道徳の時間はどうあればよいのか、計画の必要性など課題協議や演習を通して研修できた。 ・演習形式は、主体的な取組となって良いが、演習後、そのテーマについて、調査官や教授等による指導講演をしてほしい。 ・道徳教育に対する自分の今までの実践を振り返る場となった。そして課題が明確となり、今後、実践して行きたいと思った。 ・道徳教育の重要性を実感するとともに、小・中での実践の様子を知ることができて良かった。高校では道徳の時間はないが、全教育活動を通じて意識的に道徳的視点を取り入れていかなければならないと痛感した。 ・実際に授業開発したらおもしろいだろうなと思いました。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・平成17年度から実施

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度 道德教育を推進するための中核となる指導者の養成を目的とした研修(北海道・東北ブロック)
日程表

第1日目	10:00		12:30	13:50	15:20	15:40	17:00
8月17日 (水)	受付	開講式	講義1 「道德教育の現状と課題」 文部科学省教育課程課 教科調査官 永田繁雄	演習1 「道德教育の問題点・課題の分析整理－生命の尊重をテーマとした教育の実践－」	休憩	講義2 「児童生徒の心に響く道德教育の展開」 香川大学 教授 七條正典	
			休憩	休憩			
第2日目	9:30		11:55	13:15	15:15	15:30	17:00
8月18日 (木)	協義1 「中央指導者研修で学んだこと」	演習2 「具体的な道德教育実践への取組方法等－学習指導要領の趣旨を生かした道德教育の充実への取組み－」	演習3 「教材研究の進め方と『心のノート』を生かした道德教育の展開」	演習4 「教材研究の進め方と道德教育の展開」	休憩		
	協義1 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育について」	事例発表 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 (事例発表者) 広島県立福山明玉台高等学校 教諭 柏田達志	演習2 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開による道德教育の充実」	演習3 「人間としての在り方生き方に関する教育の教材研究の進め方と具体的な実践について」	演習4 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育について」	休憩	
第3日目	10:00		12:00	12:15			
8月19日 (金)	演習5 「道德教育の充実のための研修プログラムの作成」	演習3 「道德教育の充実に向けて」 文部科学省教育課程課 教科調査官 柴原弘志	閉講式				

○講師・指導助言者(高校部会)
鳴門教育大学 教授 兼松健郎

I 研修概要

研 修 名	道徳教育を推進するための中核となる指導者の養成を目的とした研修 (ブロック別指導者研修) (関東・甲信越ブロック)							
担 当 課 係	教育課題研修課 教育課程研修係							
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、児童生徒の実態に即した道徳教育の推進、社会奉仕体験活動の活用等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の校長、教頭 及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者							
開 催 期 日	平成17年 8月 1日 (月) ~平成17年 8月 3日 (水)				3日間			
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	184	人	参加率	※
開 催 場 所	新宿ワシントンホテル (東京都新宿区)							

※ブロック別指導者研修： 計画人数1,115人 受講者数1,059人 参加率95.0%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	106 64.2	57 34.5	2 1.2	0 0.0	12

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・文科省の情報提供、理論等、有意義な研修会だった。 ・高校の場合一同に集まることから始めることがまず大切と感じた。 ・演習が多く設定されており、自発的活動になり有意義であった。 ・本でしかおめにかかれない道徳の第一線で活躍されている先生方の話を直接聞くことができ、すばらしい経験になりました。 ・演習の時間が短い。 ・実践報告、模擬授業の希望。 ・道徳がなぜ行われるのか、根本の意義がよくわかった。 ・管理職 (校長、教頭、指導主事等) と教員 (主幹、教諭) にわけて実施するとよい。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・平成17年度から実施

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度 道徳教育を推進するための中核となる指導者の養成を
 目的とした研修（ブロック別指導者研修）（関東・甲信越ブロック）
 日程表

第1日目

8月1日 (月)	9:30 10:00	開講式 受付	12:40	13:40	15:10 15:30	17:00
	課果是題協議 1 「道徳教育の現状と課題」 文部科学省教育課程課 教科調査官 永田 繁雄		昼 休 み	演習 1 「道徳教育の問題点・課題の分析整理-生徒の立場から-」	休 憩	課果是題協議 2 「子どもの心を育てる道徳教育」 関西学院大学 教授 横山 利弘

第2日目

8月2日 (火)	9:00	10:30 10:50	11:50	13:00	13:15	15:15 15:30	17:00
	協議 1 「中央研修で学んだこと」	休 憩	演習 2 「具体的な道徳教育実践への取組方法等-学習指導要領の観点を生かした道徳教育の充実への取組-」	昼 休 み	演習 3 「教材研究の進め方と『心のノート』を生かした道徳教育の展開」	休 憩	演習 4 「教材研究の進め方と道徳教育の展開」
高 部 会	9:00	10:30 10:50	11:50	13:00	15:40 16:00	17:00	
	協議 1 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育について」 日本文化教育研究所長 (元文部省視学官) 金井 肇	休 憩	事例発表 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 茨城県立岩井西高等学校 教頭 玉田 覚 教諭 曳埜 伸 教諭 石山 巖	昼 休 み	演習 2 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開による道徳教育の充実」	休 憩	協議 2 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育について」 日本文化教育研究所長 (元文部省視学官) 金井 肇

第3日目

8月3日 (水)	9:00	10:00 10:15	12:00 12:15	
	演習 5 「道徳教育の充実のための研修プログラムの作成」	休 憩	課果是題協議 3 「道徳教育の充実に向けて」 文部科学省教育課程課 教科調査官 柴原 弘志	閉 講 式

I 研修概要

研 修 名	道徳教育を推進するための中核となる指導者の養成を目的とした研修 (ブロック別指導者研修) (東海・北陸ブロック)							
担 当 課 係	教育課題研修課 教育課程研修係							
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、児童生徒の実態に即した道徳教育の推進、社会奉仕体験活動の活用等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の校長、教頭 及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者							
開 催 期 日	平成17年10月 3日 (月) ~平成17年10月 5日 (水)				3日間			
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	169	人	参加率	※
開 催 場 所	ホテルアソシア静岡ターミナル (静岡県静岡市)							

※ブロック別指導者研修：計画人数1,115人 受講者数1,059人 参加率95.0%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	103; 65.2	53; 33.5	2; 1.3	0; 0.0	10;

2. 研修内容に関する主な意見

・道徳教育の持っている課題が、現代社会の状況や、人の心の内面を象徴する実例をあげて、永田調査官、小寺教授、柴原調査官から話を聞け、今後の道徳教育、道徳の時間の進め方を考える良い機会になった。
 ・他県の先生方や、立場の違う先生方との演習で、道徳教育全般について幅広いお考えや実践を聞くことができて有意義な3日間でした。
 ・資料分析から発問づくりなど、現場で授業をしていくうえで力になることをぜひ組み込んでいただけたらよいと思います。
 ・道徳における評価については、どの研修会においてもはっきりしたことがわからない。文科省の方から具体的に示していただけたらありがたい。
 ・高校教諭が小・中における道徳教育の取り組みについて知るためにも、グループワークの一部については、小、または中学の先生のグループワークに入れてもらうというのもよいと思いました。
 ・今まで進めてきた自分のやり方に自信を深めた部分があり励みになった。しかし、自分の思い込みも指摘を受け、大変ありがたかった。

III 研修内容・方法の見直し等

・平成17年度から実施

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度 道徳教育を推進するための中核となる指導者の養成を目的とした研修(東海・北陸ブロック)
日程表

第1日目 10月3日 (月)	10:00	12:40	13:40	15:10	15:30	17:00
	受付	開講式	結果発表協議1 「道徳教育の現状と課題」 文部科学省教育課程課 教科調査官 永田繁雄	演習1 「道徳教育の問題点・課題の分析整理 -学校の現場をテーマとした実践の検証-」	結果発表協議2 「豊かな心を育てるこれからの道徳教育」 京都教育大学名誉教授 (前京都教育大学副学長) 小寺正一	

第2日目 10月4日(火)	9:00	12:15	13:15	15:15	15:30	17:00
	協議1 「中央指導者研修で学んだこと」	演習2 「具体的な道徳教育実践への取組方法等 -学習指導要領の趣旨を生かした道徳教育の授業への展開か-」	演習3 「教材研究の進め方と『心のノート』を生かした道徳教育の展開」	演習4 「教材研究の進め方と道徳教育の展開」		
高部会	9:00	10:30	10:45	11:45	12:45	17:00
	協議1 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育について」	事例発表 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 (事例発表者) 石川県立金沢錦丘高等学校 学校教諭 瀧 陽一郎	演習2 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開による道徳教育の充実」	演習3 「人間としての在り方生き方に関する教育の教材研究の進め方と具体的な実践について」	協議2 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育について」	

○講師・指導助言者
日本教育文化研究所所長(元文部省視学官) 金井 肇

第3日目 10月5日 (水)	9:00	10:00	10:15	12:00	12:15
	演習5 「道徳教育の充実のための研修プログラムの作成」	協議3 「道徳教育の充実に向けて」 文部科学省教育課程課 教科調査官 柴原弘志	閉講式		

I 研修概要

研 修 名	道徳教育を推進するための中核となる指導者の養成を目的とした研修 (ブロック別指導者研修) (近畿・中国ブロック)				
担 当 課 係	教育課題研修課 教育課程研修係				
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、児童生徒の実態に即した道徳教育の推進、社会奉仕体験活動の活用等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。				
受 講 対 象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の校長、教頭 及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者				
開 催 期 日	平成17年 8月24日 (水) ~平成17年 8月26日 (金)			3日間	
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	158
				人	参加率
					※
開 催 場 所	ウェルシティ鳥取(鳥取厚生年金会館) (鳥取県鳥取市)				

※ブロック別指導者研修： 計画人数1,115人 受講者数1,059人 参加率95.0%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	81 55.9	64 44.1	0 0.0	0 0.0	4

2. 研修内容に関する主な意見

- ・テーマ設定や時間枠、配分等に検討の余地は残るが、重要かつ充実した講座である。
- ・道徳教育の必要性がはっきりした。
- ・企業経営者の方の話なども聞いてみたい。
- ・「たくさんの情報を仕入れられてよかった」と思う反面、「多すぎて整理できない」とも感じています。
- ・参加者が実践交流を通じて授業力を高めるための研修か、指導者としての指導力、研修の向上を目指す力を育成するための研修か、あいまいな点を感じる。

III 研修内容・方法の見直し等

- ・平成17年度から実施

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度 道德教育を推進するための中核となる指導者の養成を目的とした研修(近畿・中国ブロック)
日程表

第1日目		10:00		12:30		13:40		15:20 15:40		17:00		
8月24日 (水)	受付	開講式	結果発表協賛1 「道德教育の現状と課題」 文部科学省教育課程課 教科調査官 永田繁雄		休み	演習1 「道德教育の問題点・課題の分析整理-生 命の尊重をテーマとした教員の実践-」		休息	結果発表協賛2 「未来を拓く心を育てるために」 大阪教育大学 教授 藤永芳純			
第2日目		10:00 10:20		12:00		13:10 13:40		15:20 15:40		17:00		
8月25日 (木)	小・中部会	協賛1 「中央指導者研修 で学んだこと」	休息	演習2 具体的な道德教育実践への取組方法 等-学習指導要領の趣意を踏まえた連続的授業への取組が-		休み	心の ノート』活 用事例 発表		休息	演習4 「教材研究の進め方と道德教育 の展開」		
	高部会	協賛1 「高等学校における人間とし ての在り方生き方に関する教 育について」	休息	事例発表 「人間としての在り方 生き方に関する教育の 実践と課題」 (事例発表) 広島県立瀬戸田高等学校 教師 新宅昭二		休息	演習2 (休憩) 演習3 「学校の教育活動全体を 通じて行う人間としての 在り方生き方に関する教 育の展開による道德教育 の充実」		休息	協賛2 「高等学校における人間 としての在り方生き方 に関する教育について」		
第3日目		10:00 10:20		12:00 12:15								
8月26日 (金)	演習5 「道德教育の充実 のための研修プロ グラムの作成」	休息	結果発表協賛3 「道德教育の充実に向けて」 文部科学省教育課程課 教科調査官 柴原弘志		閉講式							

○講師・指導助言者(高校部会)
日本教育文化研究所所長(元文部省視学官) 金井 肇

I 研修概要

研 修 名	道徳教育を推進するための中核となる指導者の養成を目的とした研修 (ブロック別指導者研修・大阪開催)					
担 当 課 係	教育課題研修課 教育課程研修係					
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、児童生徒の実態に即した道徳教育の推進、社会奉仕体験活動の活用等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。					
受 講 対 象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の校長、教頭 及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者					
開 催 期 日	平成18年 2月 6日 (月) ~平成18年 2月 8日 (水)				3日間	
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	202	人
				参加率	※	
開 催 場 所	天満研修センター (大阪府大阪市)					

※ブロック別指導者研修： 計画人数1,115人 受講者数1,059人 参加率95.0%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	69	37	1	0	7
		64.5	34.6	0.9	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育、道徳の時間について、その原点、基本を改めて確認・整理しつつ、各地で先進的実践に取り組んでおられる先生方のお話や熱い思いに触れることができ、有意義な研修でした。 ・このような全国規模のものは本当に自分にとって参考となる。是非積極的に参加していきたい。 ・いつも初等中等教育資料、その他で名前だけ拝見してる文科省の先生方のお話が聞け、とても貴重な時間となりました。 ・(事例発表について) 内容だけでなく発表の仕方等も参考になりました。 ・各校種での特色ある取組み、学校全体で取組む手法など、参考になる点が多かった。 ・校種・職種を越えて、実践等を交流し話し合えたという点ではとても有意義でしたが、課題や問題意識について焦点化して深めるという点では、やや物足りなさも感じました。 ・決められたテーマについて、校種職種地域の異なる先生方と意見交流できて得るものが多かった。 ・各校の実態の情報交換で終始してしまった。それはそれで有意義ではあったが、「高等学校における道徳教育」「在り方生き方についての教育」についてももう少し的をしぼった討議ができればよかったと思う。(高校部会) ・各学校の道徳教育充実に向けた課題と工夫が聞け、来年度の教育活動に活かせるものとなった。(高校部会)

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会等からの追加実施の要望を踏まえ、全国の受講者を対象にした研修を追加実施した。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度 道徳教育を推進するための中核となる指導者の養成を目的とした研修（ブロック別指導者研修・大阪開催）
日程表

第1日目

2月6日 (月)	9:30	10:00	11:00	12:40	13:40	15:40	15:50	17:00
	受付	開講式	成果発表協談 1 「道徳教育の現状と課題」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 柴原弘志	昼休み	課題協談 2 「今求められる道徳教育」 昭和女子大学 教授 押谷由夫	休憩	実践発表	

第2日目

2月7日 (火)	9:00	10:15	10:30	11:45	12:45	15:15	15:30	17:00	
	小・中 部会	テーマ演習 1 「具体的な道徳教育実践への取組方法等」 -学習指導要領の趣旨を踏まえた道徳教育の取組- <指導助言者> 1班 八洲学園大学教授 生越詔二 2班 葛飾区立本田中学校校長 加倉井隆	昼休み	テーマ演習 2 「教材研究の進め方と『心のノート』を生かした道徳教育の展開」 <指導助言者> 3班 佐賀県鳥栖市立田代中学校校長 志藤俊明 4班 石川県教育委員会学校指導課指導主事 松浦維久子	休憩	発表・講評	休憩		
高部会	9:00	10:15	10:30	11:45	12:45	15:15	15:50	16:00	17:00
	協談 1 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育について」	事例発表 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 <事例発表者> 福岡県立稲築志耕館高等学校 教諭 瀬在丸裕紀	昼休み	テーマ演習 1 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開による道徳教育の充実」 <指導助言者> 鳴門教育大学教授 兼松儀郎	休憩	発表・講評	休憩	協談 2 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育について」	

第3日目

2月8日 (水)	9:00	10:00	10:15	12:00	12:15
	演習 「道徳教育の充実に向けて」	休憩	成果発表協談 3 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 永田繁雄	閉講式	

I 研修概要

研 修 名	道徳教育を推進するための中核となる指導者の養成を目的とした研修 (ブロック別指導者研修) (四国・九州ブロック)							
担 当 課 係	教育課題研修課 教育課程研修係							
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、児童生徒の実態に即した道徳教育の推進、社会奉仕体験活動の活用等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の校長、教頭 及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者							
開 催 期 日	平成17年 8月 8日 (月) ~平成17年 8月10日 (水)				3日間			
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	238	人	参加率	※
開 催 場 所	はがくれ荘 (佐賀県佐賀市)							

※ブロック別指導者研修： 計画人数1,115人 受講者数1,059人 参加率95.0%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	121	91	7	1	15
		55.0	41.4	3.2	0.5	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・協議や演習主体の研修だったので、主体的に参加することができたが、協議の柱や、演習のための材料が必要だと思います。 ・調査官のわかりやすい講義を聴くことができ、今後あるべき方向性を見出すことができました。 ・個々の課題の幅が大きく焦点化が図れなかった。 ・他県の実践や状況を知ることによって、自県・自校の取組の良さ、欠点を今回の研修で見つめ直すことができたように強く感じます。 ・高校の場合は教育活動全体にわたり必要な教育であり、その重要性を再認識させられた。小・中の研修と同時開催により連携、その意味がさらに分かり子どもの発達段階に応じた指導の在り方を体系的に学びました。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・平成17年度から実施

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度 道德教育を推進するための中核となる指導者の養成を目的とした研修(四国・九州ブロック)
日程表

第1日目		10:00		12:20		13:50		15:20		15:40		17:00	
8月8日 (月)	開講式	「道德教育の現状と課題」 文部科学省教育課程課 教科調査官 永田繁雄		休み	「道德教育の問題点・課題の分析整理と議論の場」として議論の場		「『つながり』に焦点を当てて道德教育を考え直す(仮題)」 麗澤大学 教授 岩佐信道		休息				
	受付			休み									
第2日目		10:30		12:20		13:50		15:20		15:40		17:00	
8月9日 (火)	協談1 「中央指導者研修で学んだこと」 伊万里市立山代東小学校 教諭 中尾聡彦 東与賀町立東与賀中学校 教諭 中村純一	休息	「具体的な道德教育実践への取組方法等」 -早期指導者の養成を考えた議論の場-		休み	「教材研究の進め方と『心のノート』を生かした道德教育の展開」		「教材研究の進め方と『心のノート』を生かした道德教育の展開」		休息			
	協談2 「人間としての在り方生き方に関する教育について」 鳴門教育大学 教授 兼松儀郎	休息	「事例発表」 福岡県立福築志耕館高等学校 教諭 瀬在丸裕紀		休み	「学校の教育活動全体を通じて行われる教育の展開による道德教育の具体的な実践について」 (指導助言者) 鳴門教育大学 教授 兼松儀郎		「人間としての在り方生き方に関する教育の展開による道德教育の具体的な実践について」 (指導助言者) 鳴門教育大学 教授 兼松儀郎		休息			
高部会	協談3 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育について」 鳴門教育大学 教授 兼松儀郎	休息	事例発表表		休み	「事例発表」 福岡県立福築志耕館高等学校 教諭 瀬在丸裕紀		「事例発表」 福岡県立福築志耕館高等学校 教諭 瀬在丸裕紀		休息			
	協談4 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育について」 鳴門教育大学 教授 兼松儀郎	休息	事例発表表		休み	「事例発表」 福岡県立福築志耕館高等学校 教諭 瀬在丸裕紀		「事例発表」 福岡県立福築志耕館高等学校 教諭 瀬在丸裕紀		休息			
第3日目		10:00		12:00		12:15							
8月10日 (水)	協談5 「道德教育の充実のための研修プログラムの作成」	休息	「事例発表」 福岡県立福築志耕館高等学校 教諭 瀬在丸裕紀		休み	「事例発表」 福岡県立福築志耕館高等学校 教諭 瀬在丸裕紀		「事例発表」 福岡県立福築志耕館高等学校 教諭 瀬在丸裕紀		休息			
	協談6 「事例発表」 福岡県立福築志耕館高等学校 教諭 瀬在丸裕紀	休息	事例発表表		休み	「事例発表」 福岡県立福築志耕館高等学校 教諭 瀬在丸裕紀		「事例発表」 福岡県立福築志耕館高等学校 教諭 瀬在丸裕紀		休息			
				閉講式		閉講式							

I 研修概要

研 修 名	子どもの体力低下・運動嫌い防止のための指導者の養成を目的とした研修 (東部ブロック)				
担 当 課 係	教育課題研修課 健康教育研修係				
研 修 目 的	体育の授業において児童生徒が自ら積極的に運動に親しみ、体力を高めるため、体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた指導、体を動かす意識を持たせる学習指導等について、必要な知識技術等の習得を図るとともに、受講者が各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等として活動し、各学校へ指導助言等を行うことのできる資質や能力の向上を図ることを目的とする。				
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の教員であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 なお、演習・実技の⑨及び⑩においては、中学校、高等学校及び中等教育学校の部活動指導者を含むことができる。				
開 催 期 日	平成17年 5月24日 (火) ~平成17年 5月27日 (金)			4日間	
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	322
				人	参加率
					※
開 催 場 所	山形テルサ、山形霞城セントラル、山形市総合スポーツセンター 他				

※計画人数 555人 受講者数 935人 参加率 168.5%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	183	64	6	0	14
		72.3	25.3	2.4	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・実践的な指導方法が学べ、また他県との交流ができるなど、大変有意義な4日間でした。 ・この研修で学んだことを、責任を持って県で伝達しなければならないと強く感じた。 ・今回の研修で、生徒のモチベーションを高めたり、授業改善に生かせる内容が多くあった。この内容を多く地元の教員に伝えていきたい。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・受講者が、受講する運動領域における現状と課題を研究協議資料としてまとめ、研修会当日に課題を認識できるようにした。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度 子どもの体力低下・運動嫌い防止のための指導者の養成を目的とした研修 日程一覧 (東部ブロック)

5月24日(火)	12:00	12:30	12:50	13:30	17:00
	開会式	受付	講義・演習 「体育学習における指導と評価の充実」 文部科学省 スポーツ・青少年局 教科調査官	班別演習 (研究協議)	実践発表・指導助言① (研究協議) 「体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた学習指導」並びに「体力を高めるために体を動かす意識を持たせさせる学習指導」の現状と課題

5月25日(水)	9:00	10:30	12:00	13:00	14:30	17:00
	演習・実技 「体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた学習指導の在り方①」	演習・実技 「体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた学習指導の在り方②」	昼・休憩	演習・実技 「体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた学習指導の在り方③」	演習・実技 「体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた学習指導の在り方④」	

5月26日(木)	9:00	10:30	12:00	13:00	14:30	17:00
	演習・実技 「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導の在り方①」	演習・実技 「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導の在り方②」	昼・休憩	演習・実技 「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導の在り方③」	演習・実技 「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導の在り方④」	

5月27日(金)	10:30	12:00	15:00	閉講式
	小学校部会 演習・協議 「研修講師となるために①」	演習・協議 「研修講師となるために②」	演習・協議 「研修講師となるために③」	演習・協議 「研修講師となるために④」
中学校部会 演習・協議 「研修講師となるために①」	演習・協議 「研修講師となるために②」	演習・協議 「研修講師となるために③」	演習・協議 「研修講師となるために④」	

※班別演習、演習・実技、演習・協議は以下の班別で実施

【小学校】

- ①基本の運動班、②ゲーム班、
- ③器械運動班、④水休班、⑤表現運動班

【中・高等学校】

- ⑥体つくり運動班、⑦器械運動班、
- ⑧バドミントン班、⑨剣道班、⑩スラック班

I 研修概要

研 修 名	子どもの体力低下・運動嫌い防止のための指導者の養成を目的とした研修 (中部ブロック)							
担 当 課 係	教育課題研修課 健康教育研修係							
研 修 目 的	体育の授業において児童生徒が自ら積極的に運動に親しみ、体力を高めるため、体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた指導、体を動かす意識を持たせる学習指導等について、必要な知識技術等の習得を図るとともに、受講者が各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等として活動し、各学校へ指導助言等を行うことのできる資質や能力の向上を図ることを目的とする。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の教員であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 なお、演習・実技の⑨及び⑩においては、中学校、高等学校及び中等教育学校の部活動指導者を含むことができる。							
開 催 期 日	平成17年 5月17日 (火) ~平成17年 5月20日 (金)			4日間				
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	322	人	参加率	※
開 催 場 所	神戸文化ホール、神戸市総合教育センター、兵庫県立総合体育館他							

※計画人数 555人 受講者数 935人 参加率 168.5%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	198	71	1	0	6
		73.3	26.3	0.4	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・場の工夫、設定等、とても参考になりました。 ・自分の指導の中での足りない部分がたくさん見えてきたと思います。 ・最終日に、研修講師となるための時間をとってもらえて、3日間の実習が本当に役立てられて良かったと思います。私達の役割は「伝えること」にあるので、惜しまず努力したいと思いました。 ・他県の先生方との交流を通じて視野を広げることができ大変よかった。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・受講者が、受講する運動領域における現状と課題を研究協議資料としてまとめ、課題を認識できるようにした。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度 子どもの体力低下・運動嫌い防止のための指導者の養成を目的とした研修 日程一覧 (中部ブロック)

5月17日(火)	9:00	10:30	12:00	12:30	12:50	13:30	17:00
	開会式	受付	講義・演習	全体会	「体育学習における指導と評価の充実」 文部科学省 スポーツ・青少年局 教科調査官	班別演習 (研究協議)	実践発表・指導助言① (研究協議) 「体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた学習指導」並びに「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導」の現状と課題

5月18日(水)	9:00	10:30	12:00	13:00	14:30	17:00
	演習・実技 「体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた学習指導の在り方①」	演習・実技 「体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた学習指導の在り方②」	昼・休憩	食 憩	演習・実技 「体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた学習指導の在り方③」	演習・実技 「体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた学習指導の在り方④」

5月19日(木)	9:00	10:30	12:00	13:00	14:30	17:00
	演習・実技 「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導の在り方①」	演習・実技 「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導の在り方②」	昼・休憩	食 憩	演習・実技 「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導の在り方③」	演習・実技 「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導の在り方④」

5月20日(金)	10:30	12:00	15:00
	小学校部会 演習・協議 「研修講師となるために①」	演習・協議 「研修講師となるために②」	閉講式 演習・協議 「研修講師となるために③」
中学校・高等学校部会 演習・協議 「研修講師となるために①」	演習・協議 「研修講師となるために②」	演習・協議 「研修講師となるために③」	

※班別演習、演習・実技、演習・協議は以下の班別で実施
【小学校】
①基本の運動班、②ゲーム班、③器械運動班、④水泳班、⑤表現運動班
【中・高等学校】
⑥体つくり運動班、⑦器械運動班、⑧バドミントン班、⑨柔道班、⑩なぎなた班

I 研修概要

研 修 名	子どもの体力低下・運動嫌い防止のための指導者の養成を目的とした研修 (西部ブロック)		
担 当 課 係	教育課題研修課 健康教育研修係		
研 修 目 的	体育の授業において児童生徒が自ら積極的に運動に親しみ、体力を高めるため、体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた指導、体を動かす意識を持たせる学習指導等について、必要な知識技術等の習得を図るとともに、受講者が各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等として活動し、各学校へ指導助言等を行うことのできる資質や能力の向上を図ることを目的とする。		
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の教員であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 なお、演習・実技の⑨及び⑩においては、中学校、高等学校及び中等教育学校の部活動指導者を含むことができる。		
開 催 期 日	平成17年 5月10日 (火) ~平成17年 5月13日 (金)	4日間	
受 講 人 数	計画人数	※ 人	受講者数 291 人 参加率 ※
開 催 場 所	かごしま県民交流センター、県民ホール、県総合体育センター他		

※計画人数 555人 受講者数 935人 参加率 168.5%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	177 73.1	63 26.0	2 0.8	0 0.0	8

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・4日間だったが、有意義な研修ができた。研修内容を現場で役立てたり、地元へ積極的に還元したい。 ・他県の教員との交流・情報交換の場がもてたことが有意義だった。 ・演習・実技はとてもわかりやすく、現場ですぐに生かせる運動を数多く知ることができた。また、「研修講師となるために」を受講して、自分が地元へ帰って伝達できるのだろうかという不安がなくなった。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・受講者が、受講する運動領域における現状と課題を研究協議資料としてまとめ、課題を認識できるようにした。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度 子どもの体力低下・運動嫌い防止のための指導者の養成を目的とした研修 日程一覧（西部ブロック）

5月10日(火)	12:00	12:30	12:50	13:30	17:00
	開会式	受付	講義・演習 「体育学習における指導と評価の充実」 文部科学省 スポーツ・青少年局 教科調査官	班別演習 (研究協議)	実践発表・指導助言①(研究協議) 「体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた学習指導」並びに「体力を高めるために体を動かす意識を持たせさせた学習指導」の現状と課題

5月11日(水)	9:00	10:30	12:00	13:00	14:30	17:00
	演習・実技 「体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた学習指導の在り方①」	演習・実技 「体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた学習指導の在り方②」	昼休	食憩	演習・実技 「体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた学習指導の在り方③」	演習・実技 「体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた学習指導の在り方④」

5月12日(木)	9:00	10:30	12:00	13:00	14:30	17:00
	演習・実技 「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導の在り方①」	演習・実技 「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導の在り方②」	昼休	食憩	演習・実技 「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導の在り方③」	演習・実技 「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導の在り方④」

5月13日(金)	10:30	12:00	15:00	閉講式
	小学校部会 演習・協議 「研修講師となるために①」	演習・協議 「研修講師となるために②」	演習・協議 「研修講師となるために③」	演習・協議 「研修講師となるために③」

※班別演習、演習・実技、演習・協議は以下の班別で実施

【小学校】
①基本の運動班、②ゲーム班、③器械運動班、④水泳班、⑤表現運動班

【中・高等学校】
⑥体づくり運動班、⑦器械運動班、⑧バドミントン班、⑨柔道班、⑩弓道班

I 研修概要

研 修 名	I Tを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修 (指導主事-全国)							
担 当 課 係	基幹研修事業課 研修第一係							
研 修 目 的	現行の学習指導要領においては、各教科や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習活動をより一層充実させることをもとめている。そのためには、児童・生徒を指導する教員等がI Tを活用した指導力を身につけることが必要である。そこで、情報化の進展に対応した教員等の指導力向上を図り、教育委員会等が実施する教育の情報化に関する研修において指導的役割を担う人材を養成するとともに、教員等のI Tを活用した指導力の向上を図ることを目的として、本研修を実施する。							
受 講 対 象	指導主事							
開 催 期 日	平成17年11月14日(月)～平成17年11月18日(金)				5日間			
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	40	人	参加率	※
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター							

※17年度9回開催 計画人数340人 受講者数478人 参加率140.6%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答			
人数(人)	割合(%)	25	62.5	15	37.5	0	0	0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ 著名な講師から指導をしていただき、大変参考になった。 ・ 他県の方々との情報交換など研修環境がとても良かった。 ・ 各講師の講義ファイルは、そのまま活用できる内容のものが多く、今後の研修で参考にする。 ・ 校内研修のロールプレイなどがあれば、より具体的・実践的なものとして参考になると思う。 ・ ワークショップを体験してみると、やはりよいものだとは再認識した。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・ 演習を個人からグループに力点を置いたワークショップ形式とし、研修の企画運営者となる指導主事に役立つものとした。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度ITを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修
(指導主事講座-全国) 日程表

	午 前 9:00~12:00	午 後 13:00~14:30 14:45~17:00
第1日 11/14 (月)	受付 10:30~ 林エンターテインメント 11:00~ 開講式 11:30~	★①-1【研究協議】 ①-2【演習】 情報教育の現状と グループ討議&発表 展望 ----- 東京工業大学教授 つくば市立二の宮小学校 赤堀 侃司 教諭 毛利 靖
第2日 11/15 (火)	★②-1【研究協議】 ②-2【演習】 ITを活用した授業 グループ討議 設計と評価方法につ &発表 いて ----- 岩手県立大学教授 鈴木 克明	③【研究協議】 校内LANの構築と管理の在り方について ----- 富山大学講師 高橋 純
第3日 11/16 (水)	④【研究協議】 指導主事による校内研修の支援のあり方 ----- 三重県教育委員会主幹兼研修主事 中村 武弘	⑤【演習】 校内研修の支援方法について(支援案の作成)
第4日 11/17 (木)	⑥【研究協議】 ⑦【研究協議】 情報モラルの指導 著作権の指導方法に 方法について ついて ----- 金城学院大学助教授 長谷川 元洋	⑧【研究協議】 学校における情報コーディネーターの役割とコ ンサルテーションについて ----- 徳島県池田町立池田小学校教諭 中川 斉史
第5日 11/18 (金)	⑨【研究協議】 教育情報化の支援体制の在 り方・外部人材の活用 ----- 前橋市教育委員会指導主事 折田 一人	11:50~休憩 12:00~閉講式

※研修会場=特別研修棟メディアサポート室

★印は衛星配信をする研修

I 研修概要

研 修 名	I Tを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修 (特殊教育諸学校-全国)							
担 当 課 係	基幹研修事業課 研修第一係							
研 修 目 的	現行の学習指導要領においては、各教科や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習活動をより一層充実させることをもとめている。そのためには、児童・生徒を指導する教員等がI Tを活用した指導力を身につけることが必要である。そこで、情報化の進展に対応した教員等の指導力向上を図り、教育委員会等が実施する教育の情報化に関する研修において指導的役割を担う人材を養成するとともに、教員等のI Tを活用した指導力の向上を図ることを目的として、本研修を実施する。							
受 講 対 象	特殊教育諸学校教員等							
開 催 期 日	平成17年12月12日(月)～平成17年12月16日(金)				5日間			
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	44	人	参加率	※
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター							

※17年度9回開催 計画人数340人 受講者数478人 参加率140.6%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だ った	無 回 答
人数(人)	割合(%)	25	19	0	0	0
		56.8	43.2	0	0	0

2. 研修内容に関する主な意見

- ・ A Tをはじめ、先進的に実践されている講話は、大変参考になった。
- ・ 大変有意義な研修であった。
- ・ 研修について、意図と意志を明確に示されており、受講者として使命感が強くなった。
- ・ 時間の調整タイムキープが確実に行われていた。
- ・ A Tのために、役に立つ情報を数多く発信して欲しい。
- ・ 講義と演習のバランスが良かった。

III 研修内容・方法の見直し等

- ・ 事前課題と事前調査を実施し、研修における問題提起とニーズの把握に努めた。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度ITを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修
(特殊教育諸学校-全国)

日時	午前 9:00 10:15 10:30 12:00	午後 13:00 14:30 14:45 17:00		
第1日 12/12 (月)	10:30～ 受付 (特別研修棟プレゼンテーション室入口) 朝インテ-ション(※A) 11:00～ 開講式(※A) 11:30～	【研究協議】 本研修カリキュラムの目指すもの、特別支援教育と情報化の意義・動向 ----- 文部科学省特別支援教育課 特殊教育調査官 島 治伸		
第2日 12/13 (火)	【研究協議】 ネットワークの基礎知識とWebアクセシビリティ ----- 神奈川県立総合教育センター 教育相談部課長 中村 信雄 横浜市立盲学校 教諭 松田 基章	【演習】 ネットを使った社会参加と情報モラル ----- NEC文教ソリューション事業部 主任 井上 義裕 神奈川県立総合教育センター 教育相談部課長 中村 信雄 横浜市立盲学校 教諭 松田 基章		
第3日 12/14 (水)	【研究協議】 特別支援教育におけるアシスティブテクノロジー概論 ----- 国立特殊教育総合研究所 主任研究官 大杉 成喜 都立葛飾ろう学校 教諭 伊藤 守 横浜市立盲学校 教諭 松田 基章	【演習】 特別支援教育におけるアシスティブテクノロジー概論(盲聾、養護に分けず各障害の概論を知ってもらう) ----- 国立特殊教育総合研究所 主任研究官 大杉 成喜 鶴見養護学校 教諭 福田 裕志 都立光明養護学校 教諭 金森 克浩		
第4日 12/15 (木)	【研究協議】 アシスティブ・テクノロジー・コンシダレーションについて	【研究協議】 特別支援学校としての情報提供機能及び地域支援の進め方について	【演習】 専門性を生かした地域支援案の作成	【演習】 地域支援案の発表(グループ)
	----- 国立特殊教育総合研究所 主任研究官 大杉 成喜 都立光明養護 教諭 金森 克浩 鶴見養護学校 教諭 福田 裕志	----- 国立特殊教育総合研究所 主任研究官 大杉 成喜 都立光明養護教諭 金森 克浩 鶴見養護学校教諭 福田 裕志		
第5日 12/16 (金)	【研究協議】 コンサルテーション 地域支援、研修、相談体制の各自治体への提案作成。発表(グループ) これからの特別支援教育について(講義とまとめ) ----- 国立特殊教育総合研究所 主任研究官 大杉 成喜	11:50～ 休憩 12:00～ 閉講式(※A)		

※研修会場：A＝特別研修棟プレゼンテーション室、研究協議・演習等＝特別研修棟メディアサポート室

I 研修概要

研 修 名	I Tを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修 (中学校・高等学校・中等教育学校ー北海道・東北ブロック)					
担 当 課 係	基幹研修事業課 研修第一係					
研 修 目 的	現行の学習指導要領においては、各教科や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習活動をより一層充実させることをもとめている。そのためには、児童・生徒を指導する教員等がI Tを活用した指導力を身につけることが必要である。そこで、情報化の進展に対応した教員等の指導力向上を図り、教育委員会等が実施する教育の情報化に関する研修において指導的役割を担う人材を養成するとともに、教員等のI Tを活用した指導力の向上を図ることを目的として、本研修を実施する。					
受 講 対 象	中学校、高等学校、中等教育学校教員等					
開 催 期 日	平成17年 6月27日 (月) ~平成17年 7月 1日 (金)				5日間	
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	41	人
				参加率	※	
開 催 場 所	仙台市教育センター					

※17年度9回開催 計画人数340人 受講者数478人 参加率140.6%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	16; 48.5	16; 48.5	1; 3.0	0; 0	7;

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・講師は、それぞれ専門知識を持っている方々で、大変参考になった。 ・研修がねらいに合った内容でした。今回の研修で得られたものを更に深め、還元したいと思います。 ・グループで協議すると効果的であることが改めてわかりました。 ・情報モラル等、大変参考になった。 ・演習時間が短く、十分検討できないコマがあったが、テンポよく進めてもらえて良かった。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・開催ブロック以外の都道府県からも受講者を受け入れることとした。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度ITを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修日程表
 (中・高・中等教育学校－北海道東北)

日 時	午 前		午 後					
	9:00	10:25	10:35	12:00	13:00	14:45	15:00 (途中休憩10分)	17:00
第1日 (6/27)	9:00 受付 9:50 朝エンション 10:00 開講式	①【研究協議】 各教科でITを使って指導できる能力を育成 するための教員研修の在り方				②【演習】 学習指導案作成、教材作成等		
	岐阜大学教授 村瀬 康一郎							
第2日 (6/28)	③【研究協議】 情報活用能力を育成 するための授業の進 め方	④【研究協議】 各教科のITの活用 による教育効果	⑤【演習】 各教科に共通なIT活 用方法		⑥【演習】 各教科における効果的なIT 活用法			
	岐阜大学教授 加藤 直樹							
第3日 (6/29)	⑦【研究協議】 各教科におけるIT を活用した授業設計 ・評価方法	⑧【研究協議】 ITを活用した授業 実践事例について	⑨【演習】 各教科におけるITを 活用したモデル授業		⑩【演習】 模擬授業・受講生による相互 評価等について			
	筑波大学附属駒場中・高等学校教諭 市川 道和							
第4日 (6/30)	⑪【研究協議】 情報モラルの適切な 指導	⑫【研究協議】 学校における著作物 利用の正しい理解、 児童生徒への普及	⑬【演習】 有害サイト、セキュリ ティ等に関する指導法		⑭【演習】 情報モラルに関する指導案発 表等			
	金城学院大学助教授 長谷川 元洋							
第5日 (7/1)	⑮【研究協議】 校内研修案の作成に ついて	⑯【研究協議】 研修講師となるため の知識・技能	12:10 閉講式					
	目白大学教授 原 克彦							

I 研修概要

研 修 名	I Tを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修 (中学校、高等学校、中等教育学校-関東・甲ブロック)		
担 当 課 係	基幹研修事業課 研修第一係		
研 修 目 的	現行の学習指導要領においては、各教科や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習活動をより一層充実させることをもとめている。そのためには、児童・生徒を指導する教員等がI Tを活用した指導力を身につけることが必要である。そこで、情報化の進展に対応した教員等の指導力向上を図り、教育委員会等が実施する教育の情報化に関する研修において指導的役割を担う人材を養成するとともに、教員等のI Tを活用した指導力の向上を図ることを目的として、本研修を実施する。		
受 講 対 象	中学校、高等学校、中等教育学校教員等		
開 催 期 日	平成17年 8月 1日 (月) ~平成17年 8月 5日 (金)	5日間	
受 講 人 数	計画人数	※ 人	受講者数 66 人 参加率 ※
開 催 場 所	東京都立北園高等学校		

※17年度9回開催 計画人数340人 受講者数478人 参加率140.6%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	25: 41.7	34: 56.7	1: 1.7	0: 0	5: /

2. 研修内容に関する主な意見

・現場に即し、具体的な事例や的確なポイントをはっきりと明示され、大変参考になった。
 ・今後もメール等を通じて、ご指導いただきたい。
 ・大学からの講師は、よく聞き取れなかったり、内容がわからなかった。
 ・理論より実践を重視したほうが良い。
 ・授業や研修に活かせるヒントとなるコンテンツをたくさん紹介していただき、教材作成の幅を広げることができた。

III 研修内容・方法の見直し等

・開催ブロック以外の都道府県からも受講者を受け入れることとした。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

クラスA (中学校)

平成17年度ITを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修日程表

(関東・甲：中・高・中等教育学校) 東京都立北園高等学校

日 時	午 前		午 後					
	9:00	10:25	10:35	12:00	13:00	14:45	15:00 (途中休憩10分)	17:00
第1日 (8/1)	9:30 受付 9:50 朝エンターション 10:00 開講式		①【研究協議】 各教科でITを使って指導できる能力を育成するための教員研修の在り方			②【演習】 学習指導案作成、教材作成等		
	常磐大学 教授 堀口 秀嗣							
第2日 (8/2)	③【研究協議】 情報活用能力を育成するための授業の進め方		④【研究協議】 各教科のITの活用による教育効果		⑤【演習】 各教科に共通なIT活用方法		⑥【演習】 各教科における効果的なIT活用法	
	上越教育大学助教授 井上 久祥							
第3日 (8/3)	⑦【研究協議】 各教科におけるITを活用した授業設計・評価方法		⑧【研究協議】 ITを活用した授業実践事例について		⑨【演習】 各教科におけるITを活用したモデル授業		⑩【演習】 模擬授業・受講生による相互評価等について	
	筑波大学附属駒場中・高等学校教諭 市川 道和							
第4日 (8/4)	⑪【研究協議】 情報モラルの適切な指導		⑫【研究協議】 学校における著作物利用の正しい理解、児童生徒への普及		⑬【演習】 有害サイト、セキュリティ等に関する指導法		⑭【演習】 情報モラルに関する指導案発表等	
	金城学院大学助教授 長谷川 元洋							
第5日 (8/5)	⑮【研究協議】 校内研修案の作成について		⑯【研究協議】 研修講師となるための知識・技能		12:10 閉講式			
	東京都台東区立浅草中学校教諭 前田 光男							

クラスB (高等学校)

平成17年度ITを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修日程表

(関東・甲：中・高・中等教育学校) 東京都立北園高等学校

日 時	午 前		午 後					
	9:00	10:25	10:35	12:00	13:00	14:45	15:00 (途中休憩10分)	17:00
第1日 (8/1)	9:30 受付 9:50 リエンション 10:00 開講式	①【研究協議】 各教科でITを使って指導できる能力を育成するための教員研修の在り方				②【演習】 学習指導案作成、教材作成等		
		目白大学教授 原 克彦						
第2日 (8/2)	③【研究協議】 情報活用能力を育成するための授業の進め方	④【研究協議】 各教科のITの活用による教育効果	⑤【演習】 各教科に共通なIT活用方法		⑥【演習】 各教科における効果的なIT活用法			
	つくば市立二宮小学校教諭 毛利 靖							
第3日 (8/3)	⑦【研究協議】 各教科におけるITを活用した授業設計・評価方法	⑧【研究協議】 ITを活用した授業実践事例について	⑨【演習】 各教科におけるITを活用したモデル授業		⑩【演習】 模擬授業・受講生による相互評価等について			
	尚美学園大学教授 小泉 カー							
第4日 (8/4)	⑪【研究協議】 情報モラルの適切な指導	⑫【研究協議】 学校における著作物利用の正しい理解、児童生徒への普及	⑬【演習】 有害サイト、セキュリティ等に関する指導法		⑭【演習】 情報モラルに関する指導案発表等			
	NEC 文教ソリューション事業部 井上 義裕							
第5日 (8/5)	⑮【研究協議】 校内研修案の作成について	⑯【研究協議】 研修講師となるための知識・技能	12:10 閉講式					
	目白大学教授 原 克彦							

I 研修概要

研 修 名	I Tを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修 (小学校-関東・甲ブロック)							
担 当 課 係	基幹研修事業課 研修第一係							
研 修 目 的	現行の学習指導要領においては、各教科や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習活動をより一層充実させることをもとめている。そのためには、児童・生徒を指導する教員等がI Tを活用した指導力を身につけることが必要である。そこで、情報化の進展に対応した教員等の指導力向上を図り、教育委員会等が実施する教育の情報化に関する研修において指導的役割を担う人材を養成するとともに、教員等のI Tを活用した指導力の向上を図ることを目的として、本研修を実施する。							
受 講 対 象	小学校教員等							
開 催 期 日	平成17年 6月 6日 (月) ~平成17年 6月10日 (金)					5日間		
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	39	人	参加率	※
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター							

※17年度9回開催 計画人数340人 受講者数478人 参加率140.6%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	36	3	0	0	0
		92.3	7.7	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・グループの演習が楽しく、直ぐに活かせる内容で有意義でした。 ・人的ネットワークが広がり、今後役立ちそうです。 ・情報モラルについては、文部科学省のサポートセンターを紹介されるとよい。 ・演習での掲示板による教育情報は良かった。 ・セキュリティや個人情報の講義内容は、学校、地域に是非広めていきたい。 ・地域では、さらにI T指導者としての研鑽を積み、還元していきたい。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・開催ブロック以外の都道府県からも受講者を受け入れることとした。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度ITを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修日程表
(小学校-関東・甲ブロック)

日 時	午 前		午 後					
	9:00	10:25	10:35	12:00	13:00	14:45	15:00(途中休憩 10分)	17:00
第1日 6/6 (月)			10:30 受付 11:00 リエンション 11:30 開講式		①【研究協議】 各教科でITを使って指導できる能力を育成するための教員研修の在り方		②【演習】 学習指導案作成、教材作成等	
上越教育大学教授 南部 昌敏								
第2日 6/7 (火)	③【研究協議】 情報活用能力を育成するための授業の進め方	④【研究協議】 各教科のITの活用による教育効果	⑤【演習】 各教科に共通なIT活用方法	⑥【演習】 各教科における効果的なIT活用法				
富山大学 助教授 黒田 卓								
第3日 6/8 (水)	⑦【研究協議】 各教科におけるITを活用した授業設計・評価方法	⑧【研究協議】 ITを活用した授業実践事例について	⑨【演習】 各教科におけるITを活用したモデル授業	⑩【演習】 模擬授業・受講生による相互評価等について				
つくば市立二宮小学校教諭 毛利 靖								
第4日 6/9 (木)	⑪【研究協議】 情報モラルの適切な指導	⑫【研究協議】 学校における著作物利用の正しい理解、児童生徒への普及	⑬【演習】 有害サイト、セキュリティ等に関する指導法	⑭【演習】 情報モラルに関する指導案発表等				
金城学院大学助教授 長谷川 元洋								
第5日 6/10 (金)	⑮【演習】 校内研修案の作成について	⑯【研究協議】 研修講師となるための知識・技能	12:00 閉講式					
岡山市教育委員会課長補佐 青木 将								

I 研修概要

研 修 名	I Tを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修 (小学校-北陸・信越ブロック)		
担 当 課 係	基幹研修事業課 研修第一係		
研 修 目 的	現行の学習指導要領においては、各教科や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習活動をより一層充実させることをもとめている。そのためには、児童・生徒を指導する教員等がI Tを活用した指導力を身につけることが必要である。そこで、情報化の進展に対応した教員等の指導力向上を図り、教育委員会等が実施する教育の情報化に関する研修において指導的役割を担う人材を養成するとともに、教員等のI Tを活用した指導力の向上を図ることを目的として、本研修を実施する。		
受 講 対 象	小学校教員等		
開 催 期 日	平成17年12月 5日 (月) ~平成17年12月 9日 (金)	5日間	
受 講 人 数	計画人数	※ 人	受講者数 50 人 参加率 ※
開 催 場 所	富山県総合教育センター		

※17年度9回開催 計画人数340人 受講者数478人 参加率140.6%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	38 80.9	9 19.1	0 0	0 0	2

2. 研修内容に関する主な意見

- ・ 有意義な研修であった。
- ・ 各講師の個性や工夫が盛り込まれた講義内容で、理解しやすく、研修後に満足感を得ることができた。
- ・ もっと研修時間が欲しい。
- ・ I Tに関する認識が変わった。受講できたよかった。
- ・ 情報モラルの指導について悩んでいたが、3日目の講義により、指導法が見えたように思う。

III 研修内容・方法の見直し等

- ・ 開催ブロック以外の都道府県からも受講者を受け入れることとした。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

研修日程 クラスA

平成17年度ITを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修日程表
(北陸・信越:小学校)富山県総合教育センター クラスA

日 時	午 前		午 後				
	9:00	10:25	10:35	12:00	13:00	14:45	15:00(途中休憩10分) 17:00
第1日 12/ 5 (月)	9:00 受付 9:50 オリエンテーション 10:00 開講式		①【研究協議】 各教科でITを使って指導できる能力を育成 するための教員研修の在り方 (クラスA, B合同研修)		②【研究協議】 学習指導案作成、教材作成等		
			富山大学 人間発達科学部 教授 山西 潤一		富山大学 人間発達科学部 助教授 小川 亮		
第2日 12/ 6 (火)	③【研究協議】 情報活用能力を育成 するための授業の進 め方		④【研究協議】 各教科のITの活用に よる教育効果	⑤【研究協議】 各教科に共通なIT活用 方法	⑥【研究協議】 各教科における効果的なIT活 用法		
	富山大学 人間発達科学部 助教授 小川 亮		メディア教育開発センター 助教授 堀田 龍也				
第3日 12/ 7 (水)	⑦【研究協議】 各教科におけるITを 活用した授業設計・ 評価方法		⑧【研究協議】 ITを活用した授業実 践事例について	⑨【演習】 各教科におけるITを活 用したモデル授業	⑩【演習】 模擬授業・受講生による相互 評価等について		
	富山大学 人間発達科学部 講師 高橋 純		富山大学 人間発達科学部 講師 高橋 純				
第4日 12/ 8 (木)	⑪【研究協議】 情報モラルの適切な 指導		⑫【研究協議】 学校における著作物 利用の正しい理解、児 童生徒への普及	⑬【演習】 有害サイト、セキュリティ 等に関する指導法	⑭【演習】 情報モラルに関する指導案発 表等		
	金城学院大学 現代文化学部 助教授 長谷川 元洋		金城学院大学 現代文化学部 助教授 長谷川 元洋				
第5日 12/ 9 (金)	⑮【研究協議】 校内研修案の作成に ついて (クラスA, B合同研修)		⑯【研究協議】 研修講師となるための 知識・技能		12:10 閉講式		
	富山大学 人間発達科学部 助教授 黒田 卓						

研修日程 クラスB

平成17年度ITを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修日程表
(北陸・信越:小学校)富山県総合教育センター クラスB

日 時	午 前		午 後					
	9:00	10:25	10:35	12:00	13:00	14:45	15:00	17:00
第1日 12/ 5 (月)	9:00 受付 9:50 オリエンテーション 10:00 開講式		①【研究協議】 各教科でITを使って指導できる能力を育成 するための教員研修の在り方 (クラスA、B合同研修)			②【研究協議】 学習指導案作成、教材作成等		
	富山大学 人間発達科学部 教授 山西 潤一			富山大学 人間発達科学部 助教授 黒田 卓				
第2日 12/ 6 (火)	③【研究協議】 情報活用能力を育成 するための授業の進 め方		④【研究協議】 各教科のITの活用による教育効果	⑤【研究協議】 各教科に共通なIT活用 方法	⑥【研究協議】 各教科における効果的なIT活 用法			
	富山大学 人間発達科学部 助教授 黒田 卓			奈良教育大学 教育実践総合センター 助教授 小柳 和喜雄				
第3日 12/ 7 (水)	⑦【研究協議】 情報モラルの適切な 指導		⑧【研究協議】 学校における著作物 利用の正しい理解、児 童生徒への普及	⑨【演習】 有害サイト、セキュリティ 等に関する指導法	⑩【演習】 情報モラルに関する指導案発 表等			
	NEC文教ソリューション事業部 主任 井上 義裕			NEC文教ソリューション事業部 主任 井上 義裕				
第4日 12/ 8 (木)	⑪【研究協議】 各教科におけるITを 活用した授業設計・ 評価方法		⑫【研究協議】 ITを活用した授業実 践事例について	⑬【演習】 各教科におけるITを活 用したモデル授業	⑭【演習】 模擬授業・受講生による相互 評価等について			
	富山大学 人間発達科学部 講師 高橋 純			富山大学 人間発達科学部 講師 高橋 純				
第5日 12/ 9 (金)	⑮【研究協議】 校内研修案の作成に ついて (クラスA、B合同研修)		⑯【研究協議】 研修講師となるための 知識・技能		12:10 閉講式			
	富山大学 人間発達科学部 助教授 黒田 卓							

I 研修概要

研 修 名	I Tを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修 (中学校、高等学校、中等教育学校—東海・近畿ブロック)							
担 当 課 係	基幹研修事業課 研修第一係							
研 修 目 的	現行の学習指導要領においては、各教科や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習活動をより一層充実させることをもとめている。そのためには、児童・生徒を指導する教員等がI Tを活用した指導力を身につけることが必要である。そこで、情報化の進展に対応した教員等の指導力向上を図り、教育委員会等が実施する教育の情報化に関する研修において指導的役割を担う人材を養成するとともに、教員等のI Tを活用した指導力の向上を図ることを目的として、本研修を実施する。							
受 講 対 象	中学校、高等学校、中等教育学校教員等							
開 催 期 日	平成17年 8月22日 (月) ~平成17年 8月26日 (金)				5日間			
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	74	人	参加率	※
開 催 場 所	大阪情報専門学校							

※17年度9回開催 計画人数340人 受講者数478人 参加率140.6%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	37	31	1	0	4
		53.6	44.9	1.4	0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ 各分野・職種の個性的な講師から指導をしていただき、大変参考になった。 ・ 研修内容が実践的なので、従来以上の知識や指導法を身につけられた。 ・ グループワーク中心で研修が充実していた。研修の進め方も参考になった。 ・ 最新の情報、豊富な課題を設定していただき、様々な体験ができて良かった。 ・ グループワークもよいが、個々に取り組む演習も入れて欲しい。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・ 開催ブロック以外の都道府県からも受講者を受け入れることとした。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

研修日程 クラスA (中学校・中等教育学校)

平成17年度ITを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修日程表
(中学校・高等学校・中等教育学校-東海・近畿ブロック) 大阪情報専門学校

日 時	午 前		午 後					
	9:00	10:25	10:35	12:00	13:00	14:45	15:00 (途中休憩 10分)	17:00
第1日 8/22	9:00 受付 9:40 リンケージ 10:00 開講式		①【研究協議】 各教科でITを使って指導できる能力を育成するための教員研修の在り方			②【演習】 学習指導案作成、教材作成等		

各務原市立那加中学校 校長 井上 志朗								
第2日 8/23	③【研究協議】 情報活用能力を育成するための授業の進め方		④【研究協議】 各教科のITの活用による教育効果		⑤【演習】 各教科に共通なIT活用方法		⑥【演習】 各教科における効果的なIT活用法	

東京国際大学 助教授 山内 豊								
第3日 8/24	⑪【研究協議】 各教科におけるITを活用した授業設計・評価方法		⑫【研究協議】 ITを活用した授業実践事例について		⑬【演習】 各教科におけるITを活用したモデル授業		⑭【演習】 模擬授業・受講生による相互評価等について	

三重県教育委員会 研修主事 中村 武弘								
第4日 8/25	⑦【研究協議】 情報モラルの適切な指導		⑧【研究協議】 学校における著作物利用の正しい理解、児童生徒への普及		⑨【演習】 有害サイト、セキュリティ等に関する指導法		⑩【演習】 情報モラルに関する指導案発表等	

NEC 文教ソリューション事業部 主任 井上 義裕								
第5日 8/26	⑮【研究協議】 校内研修案の作成について		⑯【研究協議】 研修講師となるための知識・技能		12:10 閉講式			

東京都立中野区立第五中学校 副校長 前田 光男								

研修日程 クラスB (高等学校)

平成17年度ITを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修日程表
(中学校・高等学校・中等教育学校-東海・近畿ブロック) 大阪情報専門学校

日 時	午 前		午 後					
	9:00	10:25	10:35	12:00	13:00	14:45	15:00(途中休憩 10分)	17:00
第1日 8/22	9:00 受付 9:40 利エンション 10:00 開講式		①【研究協議】 各教科でITを使って指導できる能力を育成するための教員研修の在り方			②【演習】 学習指導案作成、教材作成等		
	目白大学 教授 原 克彦							
第2日 8/23	③【研究協議】 情報活用能力を育成するための授業の進め方		④【研究協議】 各教科のITの活用による教育効果		⑤【演習】 各教科に共通なIT活用方法		⑥【演習】 各教科における効果的なIT活用法	
	千葉県立佐倉南高等学校 教諭 渡久山 朝一							
第3日 8/24	⑦【研究協議】 情報モラルの適切な指導		⑧【研究協議】 学校における著作物利用の正しい理解、児童生徒への普及		⑨【演習】 有害サイト、セキュリティ等に関する指導法		⑩【演習】 情報モラルに関する指導案発表等	
	金城学院大学 助教授 長谷川 元洋							
第4日 8/25	⑪【研究協議】 各教科におけるITを活用した授業設計・評価方法		⑫【研究協議】 ITを活用した授業実践事例について		⑬【演習】 各教科におけるITを活用したモデル授業		⑭【演習】 模擬授業・受講生による相互評価等について	
	筑波大学附属駒場中・高等学校 教諭 市川 道和							
第5日 8/26	⑮【研究協議】 校内研修案の作成について		⑯【研究協議】 研修講師となるための知識・技能		12:10 閉講式			
	for next 教育コンサルタント 大西 貞憲							

I 研修概要

研 修 名	I Tを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修 (小学校ー中国・四国ブロック)							
担 当 課 係	基幹研修事業課 研修第一係							
研 修 目 的	<p>現行の学習指導要領においては、各教科や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習活動をより一層充実させることをもとめている。そのためには、児童・生徒を指導する教員等がI Tを活用した指導力を身につけることが必要である。そこで、情報化の進展に対応した教員等の指導力向上を図り、教育委員会等が実施する教育の情報化に関する研修において指導的役割を担う人材を養成するとともに、教員等のI Tを活用した指導力の向上を図ることを目的として、本研修を実施する。</p>							
受 講 対 象	小学校教員等							
開 催 期 日	平成18年 2月 6日 (月) ~平成18年2月10日 (金)					5日間		
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	50	人	参加率	※
開 催 場 所	徳島県立総合教育センター							

※17年度9回開催 計画人数340人 受講者数478人 参加率140.6%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だ った	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	35	15	0	0	0
		70.0	30.0	0	0	0

2. 研修内容に関する主な意見

- ・ 有意義な研修であった。
- ・ 各講師の講義は良かった。受講者の意欲をうまく引き出してくださり、理解しやすく感動した。
- ・ 演習時間が短い。課題の条件を絞ったほうが案を立てやすい。
- ・ 効果的なデジタルコンテンツをおりまぜながらの講義・演習は、わかりやすく、これからの授業・研修のイメージを掴んだ。

III 研修内容・方法の見直し等

- ・ 開催ブロック以外の都道府県からも受講者を受け入れることとした。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度ITを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修【小学校—中国・四国ブロック】

時刻	午前				午後			
	9:45	11:00	11:10	12:30	13:30	14:50	15:00	16:30
第1日 2/6 (月)	10:30 受付 11:00 開講式 11:30 オリエンテーション				①【研究協議】 各教科でITを使って指導できる能力を育成するための教員研修の在り方		②【演習】 学習指導案作成, 教材作成等	
講師名					鳴門教育大学 助教授 小原 豊		徳島県立総合教育センター 指導主事 大平 和哉	
第2日 2/7 (火)	③【研究協議】 情報活用能力を育成するための授業の進め方		④【研究協議】 各教科のITの活用による教育効果		⑤【演習】 各教科に共通なIT活用方法		⑥【演習】 各教科における効果的なIT活用法	
講師名	岐阜大学総合情報メディアセンター 助教授 益子 典文							
第3日 2/8 (水)	⑦【演習】 各教科におけるITを活用した授業設計・評価方法		⑧【演習】 ITを活用した授業実践事例について		⑨【演習】 各教科におけるITを活用したモデル授業		⑩【演習】 模擬授業・受講生による相互評価等について	
講師名	鳴門教育大学 助教授 藤村 裕一				那覇市立神原中学校 教諭 名嘉原 安志			
第4日 2/9 (木)	⑪【研究協議】 情報モラルの適切な指導		⑫【演習】 学校における著作物利用の正しい理解, 児童生徒への普及		⑬【演習】 有害サイト, セキュリティ等に関する指導法		⑭【演習】 情報モラルに関する指導案発表等	
講師名	徳島県立総合教育センター 指導主事 庄野 宗之				徳島県立総合教育センター 指導主事 香川 朗			
第5日 2/10 (金)	⑮【演習】 校内研修案の作成について		⑯【研究協議】 研修講師となるための知識・技能		12:10 閉講式			
講師名	徳島県立総合教育センター 指導主事 前田 宏治							

I 研修概要

研 修 名	ITを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修 (中学校、高等学校、中等教育学校—九州・沖縄ブロック)							
担 当 課 係	基幹研修事業課 研修第一係							
研 修 目 的	現行の学習指導要領においては、各教科や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習活動をより一層充実させることをもとめている。そのためには、児童・生徒を指導する教員等がITを活用した指導力を身につけることが必要である。そこで、情報化の進展に対応した教員等の指導力向上を図り、教育委員会等が実施する教育の情報化に関する研修において指導的役割を担う人材を養成するとともに、教員等のITを活用した指導力の向上を図ることを目的として、本研修を実施する。							
受 講 対 象	中学校、高等学校、中等教育学校教員等							
開 催 期 日	平成17年 8月22日 (月)～平成17年 8月26日 (金)				5日間			
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	74	人	参加率	※
開 催 場 所	クレオパーク鍋島、九州国際情報ビジネス専門学校							

※17年度9回開催 計画人数340人 受講者数478人 参加率140.6%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	39	34	0	0	1
		53.4	46.6	0	0	

2. 研修内容に関する主な意見

- ・各講師から、わかりやすく指導をしていただき、大変有意義な研修でした。
- ・LANの構築やセキュリティに関しては、短時間では難しかった。
- ・最新の情報等により、研修成果があり良かった。
- ・演習を中心に研修を進めていくことは、大変良いと思う。
- ・各演習で指導案の作成は、時間が足りないように感じた。

III 研修内容・方法の見直し等

- ・開催ブロック以外の都道府県からも受講者を受け入れることとした。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

研修日程(会場:クレオパーク鍋島)

平成17年度ITを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修
(中学校・高等学校・中等教育学校—九州・沖縄ブロック)

時刻	午前			午後		
	9:00	10:20	10:30	12:00	13:00	15:00 15:10
第1日 8/22	9:00 受付 10:00 開講式 オリエンテーション	「研究協議」10:30～12:30 ・コンピュータ利用と社会動向 ・学校へのコンピュータ普及の動向		「研究協議」13:30～15:25 有害サイト、セキュリティに関する指導法		「演習」15:30～17:00 有害サイト、セキュリティ等に関する指導法 ・学校セキュリティ
		富士通株式会社 荒井 健太郎 (株)学映システム 山崎 由美子(助手)		株式会社内田洋行 主事 山部 光範 (株)学映システム 山崎 由美子(助手)		アライドテレシス株式会社 課長代理 大沢光秋 (株)学映システム 山崎由美子(助手)
第2日 8/23	「演習」9:00～10:20 有害サイト、セキュリティ等に関する指導法 ウイルス被害と対策	「研究協議」10:30～12:00 ・各教科でITを使って指導できる能力を育成するための教員研修の在り方 ・情報活用能力を育成するための授業の進め方		「演習」13:00～15:00 各教科における効果的なIT活用方法		「演習」15:05～17:00 ・情報モラルの適切な指導 ・学校における著作物利用の正しい理解、児童生徒への普及
	トレントマイクロ株式会社 村井 太郎 (株)学映システム 山崎由美子(助手)	文部科学省 初等中等教育局教育調査官 上野 耕史 (株)学映システム 山崎 由美子(助手)		潮来市立牛堀中学校 校長 渡邊 康夫 (株)学映システム 山崎 由美子(助手)		鹿児島県松山町教育委員会 参事 辻 慎一郎 (株)学映システム 山崎 由美子(助手)
第3日 8/24	「研究協議」9:00～11:00 学習指導案作成、教材作成等 各教科におけるITを活用した授業設計 ・評価方法		「演習」 11:05～17:00(12:00～13:00昼休憩) 各教科に共通なIT活用方法			模擬授業・受講生による相互評価について
	岡山県教育庁指導課 参事 平松 茂 (株)学映システム 山崎 由美子(助手)		株式会社学映システムインストラクター 山崎 由美子 山之内 清香			
第4日 8/25	「演習」9:00～10:20 ITを活用した授業実践事例について	「演習」10:30～12:00 各教科におけるITを活用したモデル授業		「研究協議」 13:00～17:00 校内研修案の作成について		
	佐賀市立城南中学校 教諭 林 正昭 (株)学映システム 山崎由美子(助手)	佐賀県教育庁学校教育課 指導主事 山口 光一郎 (株)学映システム 山崎 由美子(助手)		岡山市教育委員会教育企画総務課 課長補佐 青木 将 (株)学映システム 山崎 由美子(助手)		
第5日 8/26	「研究協議」 9:00～12:00 研修講師となるための知識・技能			12:00 閉講式		
	岡山市教育委員会教育企画総務課 課長補佐 青木 将 (株)学映システム 山崎 由美子(助手)			解散		

※(助手)の表示は、指導助言者(助手)

研修日程（会場：九州国際情報ビジネス専門学校）

平成17年度ITを活用した指導の拡充のための指導者の養成を目的とした研修
（中学校・高等学校・中等教育学校－九州・沖縄ブロック）

日 時	午 前		午 後					
	9:00	10:25	10:35	12:00	13:00	14:45	15:00(途中休憩 10分)	17:00
第1日 8/22	9:00 受付 9:30 開講式 10:00 朝インテ-ション		①【研究協議】 各教科でITを使って指導できる能力を育成するための教員研修の在り方			②【演習】 学習指導案作成、教材作成等		

常盤大学 教授 堀口 秀嗣								
第2日 8/23	③【研究協議】 情報活用能力を育成するための授業の進め方		④【研究協議】 各教科のITの活用による教育効果		⑤【演習】 各教科に共通なIT活用方法		⑥【演習】 各教科における効果的なIT活用法	

上越教育大学 助教授 井上 久祥								
第3日 8/24	⑦【研究協議】 情報モラルの適切な指導		⑧【研究協議】 学校における著作物利用の正しい理解、児童生徒への普及		⑨【演習】 有害サイト、セキュリティ等に関する指導法		⑩【演習】 情報モラルに関する指導案発表等	

つくば市立二の宮小学校 教諭 毛利 靖								
第4日 8/25	⑪【研究協議】 各教科におけるITを活用した授業設計・評価方法		⑫【研究協議】 ITを活用した授業実践事例について		⑬【演習】 各教科におけるITを活用したモデル授業		⑭【演習】 模擬授業・受講生による相互評価等について	

西海市立大瀬戸中学校 教諭 田中 真								
第5日 8/26	⑮【研究協議】 校内研修案の作成について		⑯【研究協議】 研修講師となるための知識・技能		12:10 閉講式			

長崎県琴海町立村松小学校 教頭 谷崎 浩二								

I 研修概要

研 修 名	環境保全のための教育の推進のための指導者の養成を目的とした研修 (東部ブロック)		
担 当 課 係	教育課題研修課 連絡調整係		
研 修 目 的	各都道府県において環境教育を担当する指導主事等に対し、学校における環境教育に関する全体計画の作成、外部人材の活用のあり方等について、必要な知識等の修得をはじめ資質・能力の向上を図るとともに、受講者により、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が行われるようにする。		
受 講 対 象	指導主事、研修担当主事、小中高等学校教員等		
開 催 期 日	平成17年 9月27日 (火) ~平成17年 9月30日 (金)	4日間	
受 講 人 数	計画人数	※ 人	受講者数 55 人 参加率 ※
開 催 場 所	独立行政法人国立青年の家国立磐梯青年の家		

※計画人数 110人 受講者数 108人 参加率 98.2%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	39 72.2	15 27.8	0 0.0	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

- ・ 公的機関にいる者として、その行政的必要性をまず初めに聞いたことがよかった。
- ・ 具体的実践につながる内容であった。受講者が主体的に活動できる内容であった。
- ・ 環境教育=持続可能な開発のための教育の骨骸がわかった。今後の学校教育が担っていく方向性が見えてきた。
- ・ 内容が盛りだくさんであった。主題を2つくらいにしばればもっとわかりやすくなると思いました。

III 研修内容・方法の見直し等

- ・ 新たに学校種別の分科会を実施し、事例発表・実践事例など、校種別の具体例を用いて協議を実施した。
- ・ 開催ブロック以外の都道府県からも受講者を受け入れることとした。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度環境保全のための教育の推進のための
指導者の養成を目的とした研修（東部ブロック）

○第1日目 9月27日（火）

時間	内容
13:00	受付
13:30	開講式
13:50	「環境教育行政に関する国の取り組み」 文部科学省初等中等教育局視学官 井上示恩
14:30	全体演習「学習指導要領における環境教育の位置づけ」 国立教育政策研究所教育課程調査官 日置光久
16:50	国立教育政策研究所教育課程調査官 藤 修

○第2日目 9月28日（水）

時間	内容
9:00	ワークショップ「体験による学び」 小学校分科会 NPO birth（バース） 佐藤留美
	中学校分科会 NPO 当別エコロジカルコミュニティー 山本幹彦
	高等学校分科会 国立教育政策研究所教育課程調査官 藤 修
16:50	国立諫早少年自然の家 インストラクター 福蘭恵子

○第3日目 9月29日（木）

時間	内容
9:00	ワークショップ 「まとめ」
11:10	事例発表 小学校分科会 福井県若狭町立気山小学校 中学校分科会 秋田県山内村立山内中学校 高等学校分科会 北海道札幌開成高等学校
13:00	フィールドワーク「五色沼の環境保全問題」
17:00	井上清志、曾根仁一、曾根久子、本多勝男、巖岩徳三、巖岩康子

○第4日目 9月30日（金）

時間	内容
9:00	全体協議「国連持続可能な開発のための教育10年」 立教大学大学院教授 阿部治
11:10	ふりかえり
11:40	閉講式

I 研修概要

研 修 名	環境保全のための教育の推進のための指導者の養成を目的とした研修 (西部ブロック)		
担 当 課 係	教育課題研修課 連絡調整係		
研 修 目 的	各都道府県において環境教育を担当する指導主事等に対し、学校における環境教育に関する全体計画の作成、外部人材の活用のある方等について、必要な知識等の修得をはじめ資質・能力の向上を図るとともに、受講者により、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が行われるようにする。		
受 講 対 象	指導主事、研修担当主事、小中高等学校教員等		
開 催 期 日	平成17年11月 8日 (火) ~平成17年11月11日 (金)	4日間	
受 講 人 数	計画人数	※ 人	受講者数 53 人 参加率 ※
開 催 場 所	独立行政法人国立青年の家国立江田島青年の家		

※計画人数 110人 受講者数 108人 参加率 98.2%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	31 58.5	22 41.5	0 0.0	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

- ・環境教育の意義や基本姿勢、指導のねらいや方法などを、教員の視点に立って分かりやすく教えていただいた。
- ・全体を通して現場教師を意識したプログラムでした。多くの先生を派遣すべきと感じました。
- ・たいへん内容の濃い研修になった。学校にもってかえり、すぐにでも実践できるものが多く、楽しみながら研修することができた。
- ・環境教育がつながりの教育であることがよく分かった。地球環境のことを考えると全教職員で取り組まなければならない教育であり、県単位等での研修会が必要だと思われる。

III 研修内容・方法の見直し等

- ・新たに学校種別の分科会を実施し、事例発表・実践事例など、校種別の具体例を用いて協議を実施した。
- ・開催ブロック以外の都道府県からも受講者を受け入れることとした。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度環境保全のための教育の推進のための
指導者の養成を目的とした研修（西部ブロック）

○第1日目 11月 8日（火）

時間	内容
13:00	受付
13:30	開講式 「環境教育行政に関する取り組み」 文部科学省初等中等教育局視学官 井上示恩
14:30	全体演習「学校教育における新しい環境教育の展開」
16:50	国立教育政策研究所教育課程調査官 日置光久

○第2日目 11月 9日（水）

時間	内容
9:00	全体協議「国連持続可能な開発のための教育10年」 立教大学大学院教授 阿部 治
11:10	事例発表 小学校分科会 呉市立港町小学校（広島県） 中学校分科会 志布志町立出水中学校（鹿児島県）
12:00	高等学校分科会 大阪府立平野高等学校（大阪府）
13:00	移動
16:30	施設見学 独立行政法人産業技術総合研究所中国センター 瀬戸内海大型水理模型見学

○第3日目 11月10日（木）

時間	内容
9:00	ワークショップ
12:00	小学校分科会 市場町立市場小学校 教諭 藤本勇二
13:00	中学校分科会 NPO法人当別エコロジカルコミュニティ 代表理事 山本幹彦
17:00	高等学校分科会 広島大学大学院生物圏研究科 助教授 中坪孝之

○第4日目 11月11日（金）

時間	内容
9:00	ワークショップのまとめ 小学校分科会 市場町立市場小学校 教諭 藤本勇二
	中学校分科会 NPO法人当別エコロジカルコミュニティ 代表理事 山本幹彦
	高等学校分科会 広島大学大学院生物圏研究科 助教授 中坪孝之
	アンケート記入
11:20	閉講式

I 研修概要

研 修 名	体験活動の円滑な実施を促進するための指導者の養成を目的とした研修 (東部ブロック)		
担 当 課 係	教育課題研修課 連絡調整係		
研 修 目 的	学校教育活動における社会奉仕体験活動や自然体験活動をはじめとした様々な体験活動の一層の充実を図るため、体験活動の教育課程への位置づけや、体験活動プログラムの開発等について、必要な知識等を修得させ、受講者により、これらの内容を踏まえた研修等が各地域で行われるようにする。		
受 講 対 象	指導主事、研修担当主事、小中高等学校教員等		
開 催 期 日	平成17年11月15日(火)～平成17年11月18日(金)	4日間	
受 講 人 数	計画人数	※ 人	受講者数 54 人 参加率 ※
開 催 場 所	独立行政法人国立少年自然の家国立花山少年自然の家		

※計画人数 110人 受講者数 100人 参加率 90.9%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数(人)	割合(%)	44 81.5	10 18.5	0 0.0	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

- ・体験活動を、どのような形で教育課程に位置づけるかを、ポイントを押さえて説明していただいたので、非常に理解しやすかった。
- ・実際に体験しての演習は、受ける立場の気持ちを実感でき、とても良かった。
- ・実際に企画・立案することで、現場にもどってからの取り組みに、具体的なイメージがよくわかりました。
- ・今回のようなマーケティングから始まるプランニングについては研修を受けたことがなかったもので、プランニングの方法を研修できたことがとても効果的だった。
- ・全国の小・中・高で指導的立場に立つ教師が同じテーブルで次代を担う子どもの教育を広くかつ、長期的な視野で考え、話し合うことができたという点でたいへん役立った。

III 研修内容・方法の見直し等

- ・平成16年度において受講者数が少なかった北海道・東北地区の利便性を勘案し、開催場所を見直した(長野県→宮城県)
- ・開催ブロック以外の都道府県からも受講者を受け入れることとした。
- ・課題協議、演習に具体例、実践例を積極的に盛り込み、体験活動プログラムのイメージがより明確なものとなるようにした。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度体験活動の円滑な実施を促進するための
指導者の養成を目的とした研修（東部ブロック）

○第1日目 11月15日（火）

時間	内容
12:45	受付
13:15	開講式 文部科学省行政説明 文部科学省初等中等教育局児童生徒課
14:15	基調講演「学校教育における体験活動の意義と進め方」 岐阜大学教育学部教授 北 俊夫
16:00 17:30	課題協議Ⅰ「体験活動の適切な教育課程への位置づけ」 岐阜大学教育学部教授 北 俊夫

○第2日目 11月16日（水）

時間	内容
9:00	〈自然体験活動コース〉 アイスブレイキング
12:00	実践演習Ⅰ「自然体験活動プログラム体験」
13:00	アウトドア・エデュケーションセンター代表取締役 田中裕幸 くりこま高原自然学校 校長 佐々木豊志
15:00	課題協議Ⅱ 演習Ⅰ「自然体験活動と体験学習法」 「学校における自然体験活動の事例」
17:00	アウトドア・エデュケーションセンター代表取締役 田中裕幸 くりこま高原自然学校 校長 佐々木豊志
9:00	〈社会奉仕体験活動コース〉 課題協議Ⅱ 演習Ⅰ 「ボランティア活動プログラムの企画・立案とその展開」
12:00	我孫子市生涯学習センター長 渥美省一
13:00	実践演習Ⅰ「ボランティア活動プログラムの実際、施設の視察」 財団法人宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団 研究員 嶋田哲郎 登米市立新田第一小学校 教頭 萩田隆児
17:00	花山少年自然の家専門職員

○第3日目 11月17日(木)

時間	内容
9:00	〈自然体験活動コース〉 演習Ⅱ,Ⅲ「自然体験活動プログラムの企画・立案」
12:00	アウトドア・エデュケーションセンター代表取締役 田中裕幸
13:15	花山少年自然の家専門職員
14:30	演習Ⅳ「自然体験活動プログラム実施に際しての家庭・地域・関係機関との連携、安全管理、評価等」
17:30	アウトドア・エデュケーションセンター代表取締役 田中裕幸 花山少年自然の家専門職員

9:00	〈社会奉仕体験活動コース〉 演習Ⅱ,Ⅲ「ボランティア活動プログラムの企画・立案」
12:00	我孫子市生涯学習センター長 渥美省一
13:15	花山少年自然の家専門職員
14:30	演習Ⅳ「ボランティア活動プログラム実施に際しての家庭・地域・関係機関との連携、安全管理、評価等」
17:30	我孫子市生涯学習センター長 渥美省一 裕幸 花山少年自然の家専門職員

○第4日目 11月18日(金)

時間	内容
9:00	〈自然体験活動コース〉 課題協議Ⅲ「グループ別プログラムの発表・協議」 アウトドア・エデュケーションセンター代表取締役 田中裕幸 くりこま高原自然学校 校長 佐々木豊志 花山少年自然の家専門職員
	〈社会奉仕体験活動コース〉 課題協議Ⅲ「グループ別プログラムの発表・協議」 我孫子市生涯学習センター長 渥美省一 花山少年自然の家専門職員
11:20	全体研究協議「本研修を踏まえた効果的な体験活動の実施について」 アウトドア・エデュケーションセンター代表取締役 田中裕幸
11:50	閉講式

I 研修概要

研 修 名	体験活動の円滑な実施を促進するための指導者の養成を目的とした研修 (西部ブロック)							
担 当 課 係	教育課題研修課 連絡調整係							
研 修 目 的	学校教育活動における社会奉仕体験活動や自然体験活動をはじめとした様々な体験活動の一層の充実を図るため、体験活動の教育課程への位置づけや、体験活動プログラムの開発等について、必要な知識等を修得させ、受講者により、これらの内容を踏まえた研修等が各地域で行われるようにする。							
受 講 対 象	指導主事、研修担当主事、小中高等学校教員等							
開 催 期 日	平成17年11月29日(火)～平成17年12月2日(金)				4日間			
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	46	人	参加率	※
開 催 場 所	独立行政法人国立少年自然の家国立大隅少年自然の家							

※計画人数 110人 受講者数100人 参加率 90.9%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数(人)	割合(%)	21 46.7	24 53.3	0 0.0	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・体験の定義から、意義、進め方に至るまで、子どもの実態と結びつけてあったので、体験活動を充実したものにする必要性を納得できました。 ・企画・立案までの手法が具体的な演習として行われたので、非常に有用であった。 ・グループエンカウンター的手法を取り入れた活動により、他県の先生方や他校種の先生方とも十分な情報交換を行うことができた。 ・自分たちで体験活動プログラムを作成することで、他県や先生方の考え方など知ることができた。講話だけの研修ではなかったのが役に立った。 ・これまでの研修をグループと全体で振り返る時間と場を設定して下さり、大変良かった。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・学年末の多忙な時期(2月)から比較的参加しやすい時期(11月)へ、開催時期を見直した。 ・開催ブロック以外の都道府県からも受講者を受け入れることとした。 ・課題協議、演習に具体例、実践例を積極的に盛り込み、体験活動プログラムのイメージがより明確なものとなるようにした。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度体験活動の円滑な実施を促進するための
指導者の養成を目的とした研修 (西部ブロック)

○第1日目 11月29日(火)

時間

内容

13:00	受付
13:30	開講式 文部科学省行政説明 文部科学省初等中等教育局児童生徒課
14:15	基調講演「学校における体験活動の意義と進め方」 東京農業大学教授 渡部邦雄
15:30	課題協議Ⅰ「体験活動の適切な教育課程への位置づけ」 川辺町教育委員会指導監 山下純生
17:30	垂水市教育委員会指導主事 高風哲仁

○第2日目 11月30日(水)

時間

内容

9:00	〈自然体験活動コース〉 実践演習Ⅰ「おおすみくん家での自然体験」 元鹿兒島県立博物館官庁 福田晴夫 大隅少年自然の家指導員 岩切 悟
14:30	課題協議Ⅱ「自然体験活動プログラムの企画・立案とその展開」 鹿屋市立鶴羽小学校教諭 岩永浩文 大隅少年自然の家事業推進課長
16:30	実践演習Ⅱ「野外炊飯」「野外ピザづくり」「野草料理」
19:30	大隅少年自然の家専門職員

9:00	〈社会奉仕体験活動コース〉 実践演習Ⅰ「福祉施設でのボランティア活動体験」 ・和光学園での体験、太陽の家見学
14:30	課題協議Ⅱ「ボランティア活動プログラムの企画・立案とその展開」 大隅少年自然の家主任専門職員
16:30	実践演習Ⅱ「野外炊飯」「野外ピザづくり」「野草料理」
19:30	大隅少年自然の家専門職員

○第3日目 12月 1日(木)

時間	内容
9:00	〈自然体験活動コース〉 演習Ⅰ 「自然体験活動プログラムの企画・立案」 グループ別「自然体験活動プログラムの作成」 国際自然大学校理事長 佐藤初雄
14:30	演習Ⅱ グループ別「自然体験活動プログラムの実施に際しての家庭・地域・関係機関との連携、安全管理、評価等」の作成
17:30	国際自然大学校理事長 佐藤初雄

9:00	〈社会奉仕体験活動コース〉 演習Ⅰ 「ボランティア活動プログラムの企画・立案」 グループ別「ボランティア活動プログラムの作成」 常磐大学教授 池田幸也
14:30	演習Ⅱ グループ別「ボランティア活動プログラムの実施に際しての家庭・地域・関係機関との連携、安全管理、評価等」の作成
17:30	常磐大学教授 池田幸也

○第4日目 12月 2日(金)

時間	内容
9:00	〈自然体験活動コース〉 演習Ⅲ グループ別「自然体験活動プログラムの実施に際しての家庭・地域・関係機関との連携、安全管理、評価等」の発表・協議 国際自然大学校理事長 佐藤初雄 〈社会奉仕体験活動コース〉 演習Ⅲ グループ別「ボランティア活動プログラムの実施に際しての家庭・地域・関係機関との連携、安全管理、評価等」の発表・協議 常磐大学教授 池田幸也
10:45	全体研究協議「本研修を踏まえた効果的な体験活動の実施について」 大隅少年自然の家事業推進課長
11:45	閉講式

I 研修概要

研 修 名	生徒指導上の諸課題に対応するための指導者の養成を目的とした研修					
担 当 課 係	基幹研修事業課 研修第一係					
研 修 目 的	各都道府県、指定都市及び中核市において生徒指導又は教育相談を担当する指導主事等に対し、全国的かつ緊急に対応が必要な不登校・いじめ等の問題行動や児童虐待等の生徒指導上の今日的諸問題等について、最新の知見や全国的動向、研究成果、対応方策等に関する必要な知識等を修得させ、各地域において本研修を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行なわれることを目的とする。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の生徒指導又は教育相談を担当する指導主事及び教諭であって、各地域において本研修を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。					
開 催 期 日	平成17年 7月19日 (火) ~平成17年 8月 3日 (水)			16日間		
受 講 人 数	計画人数	155 人	受講者数	148 人	参加率	95.5%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	99 70.7	40 28.6	1 0.7	0 0.0	8

2. 研修内容に関する主な意見

・講義と演習により、理解が深まった。
 ・大変参考になる演習が多く具体的に理解できたが、演習形式と講義のバランスが必要。
 ・演習形式により、実践的な技能を高めることができた。特に、面談等で具体的な応答については有意義だった。
 ・パネルディスカッションは議論のかみ合わないことが多く、テーマを絞って行うなど事前準備が必要ではないか。

III 研修内容・方法の見直し等

・生徒指導上、多忙な時期（夏季休業直前）から参加しやすい時期（夏季休業中）へ、開催時期を見直した。
 ・指導主事に加え、新たに一般教諭を受講対象とするとともに、研修の成果が確実に還元されるよう、推薦依頼通知に明記した。
 ・遠隔地との双方向配信講義については、参加局も質疑応答だけでなく、「演習」を実施できるようにした。
 ・「児童虐待」や「規範意識」等、より喫緊の課題に対応した内容を取り入れた。
 ・受講者の校種や関心に応じるにより主体的な研修意欲を醸成するため、「児童虐待」、「青少年問題の発達心理」、「学級がうまく機能しない状況への対応」及び「携帯電話・出会い系サイト」等を選択講義とした。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

「平成17年度 生徒指導上の諸課題に対応するための指導者の養成を目的とした研修」日程

No.1

月日 (曜)	時間	会場	講義題等	講師	備考	
7/19 (火)	10:30~12:00	Rホール	オリエンテーション			
	13:00~13:20	Rホール	開講式			
	13:20~14:00	Rホール	「本研修の効果を高めるための諸施策の状況」	文部科学省初等中等教育局児童生徒課		
	14:10~14:35	玄関口	班別写真撮影 (別紙: 写真撮影配置図参照)			
	14:45~16:45	Rホール	生徒指導に関わる法的諸問題	上越教育大学教授 若井 彌一(わかい やいち)		
	◎12:00~19:00 第三宿泊棟1階生活関連受付コーナー「シーツ・枕カバー・ふとんカバー受領」 ◎17:00~17:20 各宿泊棟指定談話室「フロアリーダーの選出」 ○17:00~18:30 食堂棟2階会議室3「学習委員会議(班長・副班長・編集委員)」 ○17:30~17:50 第二研修棟2階 演習・研修室(5)「フロアリーダー会議」 ◎20:00~ 各宿泊棟指定談話室「フロア連絡会」					
班別協議会・研究協議・生徒指導事例研究(1)~(9)の指定研修室 A班: [第二研修棟2階 演習・研修室(1・2)] B班: [第二研修棟2階 演習・研修室(3・4)] C班: [第二研修棟2階 演習・研修室(6・7)] D班: [第二研修棟2階 演習・研修室(8・9)] E班: [第二研修棟2階 演習・研修室(5・10)] F班: [第二研修棟1階 演習・研修室(11・12)]						
7/20 (水)	8:30~9:15	指定研修室	班別協議会(1)		◇持参資料交換	
	9:30~12:15	Rホール 指定研修室	効果的な非行防止教室の在り方	文部科学省初等中等教育局視学官 宮川 保之(みやかわ やすゆき)		
	13:30~15:00	Rホール	★LD・ADHDへの対応 特別支援教育と軽度発達障害	東京学芸大学教授 上野 一彦(うえの かずひこ)		
	15:15~17:00	Rホール	生徒指導上の諸問題への対応	国立教育政策研究所 総括研究官 森嶋 昭伸(もりしま あきのぶ)		
7/21 (木)	8:30~9:15	指定研修室	班別協議会(2)		◇持参資料 (生徒指導事例研究)	
	9:30~12:00	Rホール	いじめ問題への対応演習(1)	栃木県教育研究所相談部長 丸山 隆(まるやま たかし)		
	13:15~17:00	Rホール	★いじめ問題への対応演習(2)			
7/22 (金)	8:30~9:15	指定研修室	生徒指導事例研究(1)		◇持参資料 (生徒指導事例研究)	
	9:30~12:15	Rホール	不登校への対応演習(1)	早稲田大学教授 菅野 純(かんの じゅん)		
	13:30~17:00	Rホール	★不登校への対応演習(2)			
7/23(土)・7/24(日) 自由研修						

(注1) ◎印は受講者全員、○印は班長・副班長・編集委員、フロアリーダー、個人に関するもの
 (注2) ★印は衛星配信研修、★印は衛星配信研修(双方向)
 (注3) ◇印は受講者が準備するもの
 (注4) 部屋略称: 食堂棟3階レセプションホール=Rホール、

「平成17年度 生徒指導上の諸課題に対応するための指導者の養成を目的とした研修」日程

No.2

月日 (曜)	時間	会場	講義題等	講師	備考
7/25 (月)	8:30～9:15	指定 研修室	生徒指導事例研究(2)		◇持参資料 (生徒指導事例研究)
	9:30～12:15	Rホール	生徒指導上の危機管理 (マスコミ対応)	田中危機管理事務所長 田中 正博(たなか まさひろ)	
	13:30～17:00	Rホール	関係機関と学校との連携の在り方 (パネルディスカッション)	大阪樟蔭女子大学教授 森田 洋司(もりた ようじ) 《パネラー》 警察庁生活安全局少年課課長補佐 出原 基成(いずはら もとなり) 厚生労働省雇用均等児童課程局 総務課児童福祉専門官 太田 和男(おた かずお) 法務省保護局更正保護振興課 補佐官 古川 芳昭(ふるかわ よしあき)	
	○17:15～18:00 班長会議②(班長、副班長) 第二研修棟1階 演習・研修室(11・12) ○17:15～17:45 フロアリーダー会議(2人室フロアリーダー) 第二研修棟2階 演習・研修室(10)				
7/26 (火)	8:30～9:15	指定 研修室	生徒指導事例研究(3)		◇持参資料 (生徒指導事例研究)
	9:30～11:45	指定 研修室	生徒指導事例研究(4)	東京家政大学教授 相馬 誠一(そうま せいいち) 名古屋市立貴船小学校教頭 小林 由美子(こばやし ゆみこ) 奈良教育大学助教授 池島 徳大(いけしま とくひろ)	◇持参資料 (生徒指導事例研究)
	13:00～17:00		生徒指導事例研究(5)	群馬大学講師 樺澤 徹二(かばさわ てつじ)	◇持参資料 (生徒指導事例研究)
			" (6)	東海女子大学教授 花井 正樹(はない まさき) 結城南中学校教頭 福田 隆行(ふくだ たかゆき)	
○17:10～18:00 編集委員会②(編集委員) 第二研修棟2階 演習・研修室(10)					
7/27 (水)	8:30～9:15	指定 研修室	生徒指導事例研究(7)		◇持参資料 (生徒指導事例研究)
	9:30～12:15	Rホール 指定研修室	規範意識を育てる指導	日本女子大学教授 鶴飼 美昭(つるかい よしあき)	パネリスト3名 (受講者より選出)
	13:30～17:00	Rホール	パネルディスカッション 「規範意識を育てる指導」		
7/28 (木)	8:30～9:15	指定 研修室	生徒指導事例研究(8)		◇持参資料 (生徒指導事例研究)
	9:30～12:15	Rホール	★薬物乱用・性非行への対応	警察庁生活安全局少年課専門職 石橋 昭良(いしばし あきよし)	
	13:30～17:00	Rホール	体験活動とそれを生かした生徒指導 (事例発表・講義) 自然・勤労生産・交流体験 (長期宿泊体験) 地域間交流に関わる体験 交流に関わる体験	日本体育大学教授 成田 國英(なりた くにひで) 《事例発表者》 東京都武蔵野市立第二小学校主幹 矢部 雅巳(やべ まさみ) 岩手県東和町立東和中学校教頭 三浦 敦史(みうら あつし) 長野県富士見高等学校教諭 伊藤 和巳(いとう かずみ)	

◇印は受講者が準備するもの、 ★印は衛星配信研修

「平成17年度 生徒指導上の諸課題に対応するための指導者の養成を目的とした研修」日程

No.3

月日 (曜)	時間	会場	講義題等	講師	備考
7/29 (金)	8:30～9:15	指定 研修室	生徒指導事例研究(9)		◇持参資料 (生徒指導事例研究)
	9:30～12:15	Rホール	児童虐待の理解と対応(1)	水戸市立五軒小学校教頭 加倉井 正(かぐらい ただし)	
	13:30～17:00	第二研修 棟2階	青少年問題の発達心理学的考察 (選択)	茨城大学教授 安達 喜美子(あだち きみこ)	
		Rホール	児童虐待の理解と対応(2) (選択)	水戸市立五軒小学校教頭 加倉井 正(かぐらい ただし)	
○宿泊室替え(2人室→個室)17:00～					
7/30(土)・7/31(日) 自由研修					
8/1 (月)	8:30～9:15	指定 研修室	研修成果の還元方策(1)		
	9:30～12:15	Rホール	★ブリーフ・カウンセリングによる 問題行動への対応	広島大学助教授 栗原 慎二(くりはら しんじ)	
	13:30～17:00	Rホール	研修講師となるための知識・技術	教員研修センター	
	○17:30～18:00 編集委員会議③(編集委員) 第二研修棟2階 演習・研修室(10) ○17:30～18:00 班長会議③(班長、副班長) 第二研修棟1階 演習・研修室(11・12)				
8/2 (火)	8:30～9:15	指定 研修室	研修成果の還元方策(2)		
	9:30～12:15	Rホール	スクールカウンセラーとの連携	植草学園短期大学教授 大木 みわ(おおき みわ)	
	13:30～17:00	Rホール	★学級がうまく機能しない状況へ の対応 (選択)	都留文科大学教授 河村 茂雄(かわむら しげお)	
		第二研修 棟2階	携帯電話・出会い系サイトの指導 (選択)	群馬大学教授 下田 博次(しもだ ひろつぐ)	
8/3 (水)	◎7:30～8:30 ・第一宿泊棟1階通路「宅配便受付」 ◎8:30まで ・各自宿泊室を整理整頓し、鍵・名札ケースは、フロアリーダーがまとめて返却する。 ・第三宿泊棟1階生活関連受付コーナー「シーツ・枕カバー・ふとんカバー返却」 ◎11:30～11:50 ・Rホール入口の回収箱「アンケート、研修レポート提出」				
	8:30～9:20	指定 研修室	研修成果の還元方策(3)		
	9:30～11:30	Rホール	問題行動を起こす児童生徒への対 応	帝京大学教授 星野 周弘(ほしの かねひろ)	
	11:50～12:10	Rホール	閉講式		

(注1) ◎印は受講者全員、○印は班長・副班長・編集委員・フロアリーダー、個人に関するもの

(注2) ★印は衛星配信研修

(注3) ◇印は受講者が準備するもの

(注4) 部屋略称：食堂棟3階レセプションホール=Rホール

参加人数：148名 (A班26名、B班26名、C班25名、D班25名、E班23名、F班23名)

I 研修概要

研 修 名	キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修 (基礎コース・東日本ブロック)		
担 当 課 係	教育課題研修課 教育課程研修係		
研 修 目 的	各都道府県教育委員会・市町村教育委員会等の進路担当指導主事及び小学校・中学校・高等学校・中等教育学校の進路指導主事等に対して、進路指導に必要な専門的技術と知識を習得させる基礎コースと、さらにキャリア・カウンセリング能力等を育成する応用コースの講座を実施し、教育委員会等が実施するキャリア教育・進路指導に関する研修において指導的役割を担える人材を養成し、もって学校における進路指導の充実に資するものとする。		
受 講 対 象	基礎コース： ①都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ②小学校・中学校・高等学校・中等教育学校並びに特殊教育諸学校の校長及び教員であって、各地域で本研修を踏まえた研修の講師等を行う予定である者 応用コース： ①平成17年度の基礎コースを修了した者 ②平成16年度の基礎コースを修了した者で、応用コースを未受講の者		
開 催 期 日	平成17年 6月27日（月）～平成17年 7月 1日（金）	5日間	
受 講 人 数	計画人数	※ 人	受講者数 112 人 参加率 ※
開 催 場 所	国立大学法人 筑波大学		

※基礎コース：計画人数215人 受講者数218人 参加率101.4%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	47: 49.0	48: 50.0	1: -1.0	0: 0.0	2: /

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・日頃お話を伺えない講師の方々のお話が聞け、研修を受けられたことは大変有意義でした。小学校教育の中で、キャリア教育が勤労観、職業観だけでなくということがよくわかりました。 ・五日間自分なり、課題もみつかりました。その意味では大変充実した研修を終えることができました。 ・自己を磨くという点で、この研修は非常に良かったと思います。学校現場でこれをどう生かしていくか、これからの方が大変だと思っています。 ・小学校教諭として、現場に戻り、日々の実践に役立つものがあまり得られなかった。校種別の交流等の場があればよかったと思う。指導者養成の目的とはわかっていたが、少しさみしい気持ちだ。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・事前研修を実施した。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修(進路指導講座)[基礎コース] 日程表
 東日本ブロック(筑波大学)

	9:00	9:30	10:00	10:30	11:45	13:15	15:00	15:15	17:00	
6月27日(月)	オリエンテーション 開講式	受付		実践発表と研究協議 保護者・地域と連携した実践と課題	昼休み	(班別協議) 小・中・高等学校が連携した実践及び計画的・組織的なキャリア教育・進路指導の実践と課題 (分科会)	休憩	休憩	17:00	
6月28日(火)	(研究協議) キャリア教育の意義と背景	文部科学省生徒指導調査官 宮下和己 前東京都立八王子工業高等学校長 内田雅顕 埼玉県新沢市立上山中学校教頭 藤川喜久男	10:30 10:40	(研究協議) 初等中等教育と高等教育との接続	休憩	(演習) コミュニケーションスキルの基礎I	12:00 13:00	(演習) 小学生・中学生・高校生の心理的・社会的発達の理解	15:50 16:00	17:00
6月29日(水)	(演習) 小学生・中学生・高校生の職業にかかわる体験的活動の意義と生かし方	埼玉県新沢市立上山中学校教頭 藤川喜久男 前東京都立八王子工業高等学校長 内田雅顕 都立つばさ総合高等学校キャリアカウンセラー 本城慎二	10:30 10:40	(演習) コミュニケーションスキルの向上	休憩	(研究協議) 組織における人材育成	14:30 14:40	(演習) 小学生・中学生・高校生を理解することの意味と方法	17:00	
6月30日(木)	(演習) キャリア・カウンセリングについて	筑波大学教員 渡辺三枝子 前東京都立八王子工業高等学校長 内田雅顕 追手門学院大学教員 三川俊樹	10:30 10:40	(演習) カウンセリングプロセス-相談関係づくりの大切さを知る-	休憩	(午前中に続く)	14:30 14:40	(演習) 多様な相談場面の理解	15:30 15:40	17:00
7月1日(金)	(研究協議) キャリア教育の今後の進め方	文教大学名誉教授 仙崎武 文部科学省生徒指導調査官 宮下和己 前東京都立八王子工業高等学校長 内田雅顕 千葉商科大学教員 鹿嶋研之助 追手門学院大学教員 三川俊樹 筑波大学助教授 藤田晃之	12:00	(演習) 研修講師となるための知識・技術	閉講式		15:30 15:40	(演習) 小学生・中学生・高校生の生きる社会環境(職業や産業)についての理解	17:00	

I 研修概要

研 修 名	キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修 (応用コース・東日本ブロック)				
担 当 課 係	教育課題研修課 教育課程研修係				
研 修 目 的	各都道府県教育委員会・市町村教育委員会等の進路担当指導主事及び小学校・中学校・高等学校・中等教育学校の進路指導主事等に対して、進路指導に必要な専門的技術と知識を習得させる基礎コースと、さらにキャリア・カウンセリング能力等を育成する応用コースの講座を実施し、教育委員会等が実施するキャリア教育・進路指導に関する研修において指導的役割を担える人材を養成し、もって学校における進路指導の充実に資するものとする。				
受 講 対 象	基礎コース： ①都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ②小学校・中学校・高等学校・中等教育学校並びに特殊教育諸学校の校長及び教員であって、各地域で本研修を踏まえた研修の講師等を行う予定である者 応用コース： ①平成17年度の基礎コースを修了した者 ②平成16年度の基礎コースを修了した者で、応用コースを未受講の者				
開 催 期 日	平成17年 9月28日 (水)～平成17年 9月30日 (金)			3日間	
受 講 人 数	計画人数	人	受講者数	106	人 参加率
開 催 場 所	フロラシオン青山 (東京都港区)				

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だ った	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	49: 46.7	55: 52.4	1: 1.0	0: 0.0	0:

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・実際にチームでプログラムを作ったり、カウンセリングの演習を行ったことは、今後の校内での事業のプロモートや進行管理に関するスキルアップに有益だった ・研修会のもち方として大変参考になりました。演習のあり方やワークシートの使用法など参考にしたい。 ・プログラム開発は大変有意義であった、このような研修が学校でもできれば最高であると感じた ・私は高校ですが、小・中の現状など校種をこえたキャリア教育の一端を見て、高校で考えなければならないことを宿題としてもらったように思います。 ・ビデオ等を使ってのいろいろな研修は、講義だけよりも良い。感じるものも多く充実していた。 ・講師の先生方の熱意が伝わってきて、遠方から参加してよかったと思った。 ・各方面からの講話等はキャリア教育を多面的にとらえるのに大変役立った (基礎コース) また、応用コースでは指導者としての考え方、押さえるべき点等整理され大変良かった。 ・応用コースを受講して、今回のプログラム (基礎コース含) がとてもポイントを押さえたプログラムであったことを実感した。まだまだ自分自身勉強不足であることを実感したが、忘れた時、わからなくなった時に立ち帰るポイントはつかむことができたように思う。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題の提出方法の改善 → メール等による提出に基づき、冊子化 ・連絡事項の伝達の迅速化 → 教員研修センターHP上より事前課題様式のダウンロード化

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修(進路指導講座)[応用コース]日程表

東日本ブロック(フロラシオン青山)

9:00	9:30	10:00	10:30	12:00	13:00	14:50	15:00	15:30	17:00
9月28日(水)	受付	開講式 オリエンテーション	(演習) キャリア教育を推進するうえでの課題	昼休み	(演習) 指導・教授能力の向上 —キャリア教育についての理解の深化—	(演習) プログラム開発・運営能力 I —プログラム開発能力の向上—	休憩		
		宮下和己 内田雅顕 渡辺三枝子 藤川喜久男 本城優二	文部科学省生徒指導調査官 宮下和己 筑波大学大学院教授 渡辺三枝子 前都立八王子工業高等学校長 内田雅顕 千葉商科大学教授 鹿嶋研之助 埼玉県所沢市立上山口中学校教頭 藤川喜久男 都立つばさ総合高等学校キャリア・カウンセラー 本城優二		文部科学省生徒指導調査官 宮下和己 筑波大学大学院教授 渡辺三枝子 前都立八王子工業高等学校長 内田雅顕 千葉商科大学教授 鹿嶋研之助 埼玉県所沢市立上山口中学校教頭 藤川喜久男 都立つばさ総合高等学校キャリア・カウンセラー 本城優二				
9月29日(木)	(演習) プログラム開発・運営能力 II —プログラム開発・評価能力の向上—	前都立八王子工業高等学校長 内田雅顕 埼玉県所沢市立上山口中学校教頭 藤川喜久男 都立つばさ総合高等学校キャリア・カウンセラー 本城優二 進手門学院大学教授 三川俊樹 文部科学省生徒指導調査官 宮下和己 筑波大学大学院教授 渡辺三枝子 千葉商科大学教授 鹿嶋研之助		昼休み	(課題協議) 学校教育におけるキャリア教育の進め方 I	(演習) カウンセリング過程の基本的実践 I	休憩		
					千葉商科大学教授 鹿嶋研之助	文部科学省生徒指導調査官 宮下和己 前都立八王子工業高等学校長 内田雅顕 千葉商科大学教授 鹿嶋研之助 埼玉県所沢市立上山口中学校教頭 藤川喜久男 都立つばさ総合高等学校キャリア・カウンセラー 本城優二 進手門学院大学教授 三川俊樹			
9月30日(金)	(演習) カウンセリング過程の基本的実践 II	進手門学院大学教授 三川俊樹 筑波大学大学院教授 渡辺三枝子 前都立八王子工業高等学校長 内田雅顕	コンサルテーション能力とコーディネーション能力の向上 東北大学大学院教授 菊池武徳	昼休み	(研究協議) 学校教育におけるキャリア教育の進め方 II	閉講式			
					文部科学省生徒指導調査官 宮下和己 筑波大学大学院教授 渡辺三枝子 前都立八王子工業高等学校長 内田雅顕 東北大学大学院教授 菊池武徳 進手門学院大学教授 三川俊樹				

I 研修概要

研 修 名	キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修 (基礎コース・西日本ブロック)							
担 当 課 係	教育課題研修課 教育課程研修係							
研 修 目 的	各都道府県教育委員会・市町村教育委員会等の進路担当指導主事及び小学校・中学校・高等学校・中等教育学校の進路指導主事等に対して、進路指導に必要な専門的技術と知識を習得させる基礎コースと、さらにキャリア・カウンセリング能力等を育成する応用コースの講座を実施し、教育委員会等が実施するキャリア教育・進路指導に関する研修において指導的役割を担える人材を養成し、もって学校における進路指導の充実に資するものとする。							
受 講 対 象	基礎コース： ①都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ②小学校・中学校・高等学校・中等教育学校並びに特殊教育諸学校の校長及び教員であって、各地域で本研修を踏まえた研修の講師等を行う予定である者 応用コース： ①平成17年度の基礎コースを修了した者 ②平成16年度の基礎コースを修了した者で、応用コースを未受講の者							
開 催 期 日	平成17年 6月 6日 (月)～平成17年 6月10日 (金)			5日間				
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	106	人	参加率	※
開 催 場 所	国立大学法人 広島大学							

※基礎コース：計画人数215人 受講者数218人 参加率101.4%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有 意義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だ った	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	41 43.6	53 56.4	0 0.0	0 0.0	1

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・最終日“今後の進め方”の時間は有意義だった。現場でどう推進していくか…そこに焦点をあてた意見であったと思うし、想いでもあったと思う。行政の人間としても、現場の声としてとらえることができた。ふまえて推進していく。 ・振り返りシートの活用が効果的であった。 ・キャリア教育の今日的意義や、キャリア・カウンセリングの手法etcについて理解することができ、大変有意義な研修であったと思います。また、分散会では小学校の取り組みについても聞くことができたが、小学校の教員の参加も極めて有益であったと思います。 ・日常の活動で、どうしてもおろそかになりがちな「自己点検」という部分を（この研修において）きちんと整理できる研修プログラムが設定されていた。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・事前研修を実施した。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修(進路指導講座)[基礎コース] 日程表
西日本ブロック(広島大学)

	9:00	9:30	10:00	10:30	11:45	13:15	15:00	15:15	17:00
6月6日(月)	オリエンテーション	受付	開講式	実践発表と研究協議 保護者・地域と連携した実践と課題	昼休み	(班別協議) 小・中・高等学校が連携した実践及び計画的・組織的なキャリア教育・進路指導の実践と課題 (分教会)	休憩	休憩	17:00
6月7日(火)	(研究協議) キャリア教育の意義と背景	文部科学省生徒指導調査官 宮下和己 前東京都立八王子工業高等学校校長 内田雅顕 埼玉県所沢市立上山口中学校教頭 藤川喜久男	休憩	(研究協議) 初等中等教育と高等教育との接続	昼休み	(演習) コミュニケーションスキルの基礎I 前東京都立八王子工業高等学校校長 内田雅顕 都立つばさ総合高等学校教員 かんせー 本城慎二 埼玉県所沢市立上山口中学校教頭 藤川喜久男	休憩	(演習) 小学生・中学生・高校生の心理的・社会的発達の理解	15:50 16:00 17:00
6月8日(水)	(演習) 小学生・中学生・高校生の職業にかかわる体験的活動の意義と生かし方	埼玉県所沢市立上山口中学校教頭 藤川喜久男 前東京都立八王子工業高等学校校長 内田雅顕 都立つばさ総合高等学校教員 かんせー 本城慎二	休憩	(演習) コミュニケーションスキルの向上	昼休み	(演習) 小学生・中学生・高校生を理解することの意味と方法	休憩	(研究協議) 企業から見た人材育成	14:50 15:00 16:30
6月9日(木)	(演習) キャリア・カウンセリングについて	筑波大学教授 渡辺三枝子 前東京都立八王子工業高等学校校長 内田雅顕 追手門学院大学教授 三川俊樹	休憩	(演習) カウンセリングプロセス-相談関係づくりの大切さを知る-	昼休み	(演習) 多様な相談場面の理解	休憩	(演習) 小学生・中学生・高校生の生きる社会環境(職業や産業)についての理解	14:30 14:40 15:30 15:40 17:00
6月10日(金)	(研究協議) キャリア教育の今後の進め方	筑波大学教授 渡辺三枝子 前東京都立八王子工業高等学校校長 内田雅顕 千葉商科大学教授 鹿嶋研之助 追手門学院大学教授 三川俊樹 広島大学キャリアセンター長 田中秀利	休憩	(演習) 研修講師となるための知識・技術	閉	講	式		

I 研修概要

研 修 名	キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修 (応用コース・西日本ブロック)		
担 当 課 係	教育課題研修課 教育課程研修係		
研 修 目 的	各都道府県教育委員会・市町村教育委員会等の進路担当指導主事及び小学校・中学校・高等学校・中等教育学校の進路指導主事等に対して、進路指導に必要な専門的技術と知識を習得させる基礎コースと、さらにキャリア・カウンセリング能力等を育成する応用コースの講座を実施し、教育委員会等が実施するキャリア教育・進路指導に関する研修において指導的役割を担える人材を養成し、もって学校における進路指導の充実に資するものとする。		
受 講 対 象	基礎コース： ①都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ②小学校・中学校・高等学校・中等教育学校並びに特殊教育諸学校の校長及び教員であって、各地域で本研修を踏まえた研修の講師等を行う予定である者 応用コース： ①平成17年度の基礎コースを修了した者 ②平成16年度の基礎コースを修了した者で、応用コースを未受講の者		
開 催 期 日	平成17年10月 5日 (水)～平成17年10月 7日 (金)	3日間	
受 講 人 数	計画人数	人	受講者数 83 人 参加率
開 催 場 所	梅田スカイビル (大阪府大阪市)		

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答
人数 (人)	割合 (%)	30 36.6	52 63.4	0 0.0	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

- ・基礎を深化したのものとして、どれも興味深いものでした。特にキャリア教育のプログラムの作成は特筆に値すべきものでした。
- ・最後の質疑応答の時間が大変有意義だった。
- ・キャリアカウンセリングの重要性を再認識。学校の他の教職員にも知らせる(研修を行う)必要があると思った。
- ・研修目的、主催者の思いが十分くみとれる日程でした。受講を通してキャリア教育のねらいを何回も問い直すことができました。
- ・両コースを通して、現在自分の学校であがっている課題について、具体的な解決法への示唆を受けました。小さなことも含めて有意義でした。
- ・小、中、高が同じ課題に取り組み、また演習等で各学校の内容がわかり非常に参考となる。
- ・小学校におけるキャリア教育の進め方についてもう少し詳しく理論や実践を学びたい。

III 研修内容・方法の見直し等

- ・事前課題の提出方法の改善 → メール等による提出に基づき、冊子化
- ・連絡事項の伝達の迅速化 → 教員研修センターHP上より事前課題様式のダウンロード化

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修(進路指導講座)[応用コース]日程表

西日本ブロック(梅田スカイビル)

9:00	9:30	10:00	10:30	12:00	13:00	14:50 15:00	17:00
10月5日(水)	受付	開講式 オリエンテーション	(演習) キャリア教育を推進するうえでの課題	昼休み	(演習) 指導・教授能力の向上 —キャリア教育についての理解の深化—	(演習) プログラム開発・運営能力 I —プログラム開発能力の向上—	
	宮下和己 内田雅顕 三川俊樹 藤川喜久男 本城慎二	文部科学省生徒指導調査官 宮下和己 追手門学院大学教授 三川俊樹 前都立八王子工業高等学校長 内田雅顕 埼玉県所沢市立上山中学校教頭 藤川喜久男 都立つばさ総合高等学校キャリア・カウンセラー 本城慎二	文部科学省生徒指導調査官 宮下和己 追手門学院大学教授 三川俊樹 前都立八王子工業高等学校長 内田雅顕 埼玉県所沢市立上山中学校教頭 藤川喜久男 都立つばさ総合高等学校キャリア・カウンセラー 本城慎二		文部科学省生徒指導調査官 宮下和己 追手門学院大学教授 三川俊樹 前都立八王子工業高等学校長 内田雅顕 埼玉県所沢市立上山中学校教頭 藤川喜久男 都立つばさ総合高等学校キャリア・カウンセラー 本城慎二	文部科学省生徒指導調査官 宮下和己 追手門学院大学教授 三川俊樹 前都立八王子工業高等学校長 内田雅顕 埼玉県所沢市立上山中学校教頭 藤川喜久男 都立つばさ総合高等学校キャリア・カウンセラー 本城慎二	
10月6日(木)	(演習) プログラム開発・運営能力 II —プログラム開発・評価能力の向上—	前都立八王子工業高等学校長 内田雅顕 埼玉県所沢市立上山中学校教頭 藤川喜久男 都立つばさ総合高等学校キャリア・カウンセラー 本城慎二	前都立八王子工業高等学校長 内田雅顕 埼玉県所沢市立上山中学校教頭 藤川喜久男 都立つばさ総合高等学校キャリア・カウンセラー 本城慎二	昼休み	(演習) カウンセリング過程の基本的実践 I	休憩	
	追手門学院大学教授 三川俊樹 筑波大学大学院教授 渡辺三枝子 千葉商科大学教授 鹿嶋研之助	前都立八王子工業高等学校長 内田雅顕 埼玉県所沢市立上山中学校教頭 藤川喜久男 都立つばさ総合高等学校キャリア・カウンセラー 本城慎二	前都立八王子工業高等学校長 内田雅顕 埼玉県所沢市立上山中学校教頭 藤川喜久男 都立つばさ総合高等学校キャリア・カウンセラー 本城慎二		千葉商科大学教授 鹿嶋研之助	文部科学省生徒指導調査官 宮下和己 前都立八王子工業高等学校長 内田雅顕 追手門学院大学教授 三川俊樹 筑波大学大学院教授 渡辺三枝子 千葉商科大学教授 鹿嶋研之助 埼玉県所沢市立上山中学校教頭 藤川喜久男 都立つばさ総合高等学校キャリア・カウンセラー 本城慎二	
10月7日(金)	(演習) カウンセリング過程の基本的実践 II	追手門学院大学教授 三川俊樹 筑波大学大学院教授 渡辺三枝子 前都立八王子工業高等学校長 内田雅顕	追手門学院大学教授 三川俊樹 筑波大学大学院教授 渡辺三枝子 前都立八王子工業高等学校長 内田雅顕	昼休み	(課題協議) 学校教育におけるキャリア教育の進め方 I	閉講式	
	追手門学院大学教授 三川俊樹 筑波大学大学院教授 渡辺三枝子 前都立八王子工業高等学校長 内田雅顕	文部科学省生徒指導調査官 宮下和己 文部科学省名譽教授 仙崎武 筑波大学大学院教授 渡辺三枝子 前都立八王子工業高等学校長 内田雅顕 東北大学大学院教授 菊池武則 追手門学院大学教授 三川俊樹	文部科学省生徒指導調査官 宮下和己 文部科学省名譽教授 仙崎武 筑波大学大学院教授 渡辺三枝子 前都立八王子工業高等学校長 内田雅顕 東北大学大学院教授 菊池武則 追手門学院大学教授 三川俊樹		文部科学省生徒指導調査官 宮下和己 文部科学省名譽教授 仙崎武 筑波大学大学院教授 渡辺三枝子 前都立八王子工業高等学校長 内田雅顕 東北大学大学院教授 菊池武則 追手門学院大学教授 三川俊樹		

I 研修概要

研 修 名	人権教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修					
担 当 課 係	教育課題研修課 教育課程研修係					
研 修 目 的	学校教育における人権教育の一層の充実を図るため、今日的な人権課題である学校教育活動全体において人権教育を推進するためのプログラム開発や効果的な指導、家庭・地域等との連携を推進する方策等について、研究協議及び演習等を行うことにより必要な知識等を修得させ、各地域において、本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事又は教育センターの人権教育担当者並びにそれに準じる者（小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の校長、教頭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者（人権教育の指導的立場を担う者））					
開 催 期 日	平成17年10月26日（水）～平成17年10月28日（金）			3日間		
受 講 人 数	計画人数	110 人	受講者数	136 人	参加率	123.6%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答					
		人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)				
人数(人)	割合(%)	61	49.2	63	50.8	0	0.0	0	0.0	4	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・演習の時間が足りない。 ・演習も大変意義があったと思う。教委、管理職、教諭の3者の立場からの発表ということも意義深い。しかし、もう少し総論にあたる部分を厚くしていただけると更によかったと思う。 ・各都道府県で取り組まれている事例の発表や、話し合いをもとにした実践プラン作りも大変有意義だった。 ・よりよい事例案を作るのであれば、予めテーマをいただいて、そのテーマにあった各自の実践事例を持ち寄れたらもっと内容のあるものが作れたと思う。 ・受講者が主体的に取り組む形式の研修を体験し、大変参考になった。教委や教育センターの研修においても取り入れていきたいと思う。 ・校種、職種間の交流により、それぞれの立場での悩みがあることがわかった。特に高校の現場の話聞くことにより、小学校では何をどう扱い、どういう子どもの姿を目指していくべきものなのか、改めて考えるきっかけとなった。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・本年度の研修実施の直前に公表された、「人権教育の指導方法等の在り方について[第二次とりまとめ案]」の内容を中心とした研修を実施した。職種（指導主事、管理職、教諭）ごとにテーマを設け、演習を実施した。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度人権教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修
日程表

日時：平成17年10月26日(水)～平成17年10月28日(金)

会場：独立行政法人 教員研修センター

第1日目 10月26日 (水)	12:30	12:50	13:50	15:20	15:30	17:00
		受付	閉講式	課題協議1 「学校における人権教育に ついての知的理解の増進及 び人権感覚の育成について」 筑波大学教授 福田 弘	課題協議2 「学校における人権教育に 係る取組について」 ～人権教育の進め方、現実 的な課題とのつながり～ 大阪府教育委員会 市町村教育室小中学校課 参事 菅原 寛	

第2日目 10月27日 (木)	9:00	10:10	10:40	10:50	12:10	13:10	14:20	14:30	15:40	15:50	17:00
		事例発表 「人権教育推進上の課 題と改善策等について」 兵庫県三木市教育委員会人権教育推進室長 稲見臣二 山形県米沢市立第七中学校校長 布施 清 大阪府松原市立布忍小学校教諭 稲垣久代	演習の進め 方について 文部科学省初 等中等教育局 視学官 宮川保之	休憩	事例協議 「人権教育推進上の課 題と改善策等について」	昼 休 み	演習1 「学校における人権教育 の改善・充実について」	休憩	演習2 「学校における人権教育 の改善・充実について」	休憩	演習3 「学校における人権教育 の改善・充実について」

第3日目 10月28日 (金)	9:00	12:00	12:30	12:40
		演習成果の発表・協議(会場I) 演習成果の発表・協議(会場II)	演習成果の活か し方 文部科学省 初等中等教育局 視学官 宮川保之	閉講式

I 研修概要

研 修 名	特色ある教育課程を円滑に編成するための指導者の養成を目的とした研修 (カリキュラム・マネジメント研修)							
担 当 課 係	教育課題研修課 教育課程研修係							
研 修 目 的	学習指導要領の下、各学校において教育課程を適切に編成し、組織的・計画的な取組を行うことが重要である。このため、各学校は、教育活動の内容や方法とこれを支える条件整備を関連させて組織的・計画的に展開するとともに、編成したカリキュラムとその成果を評価し改善する過程を通して、よりよいカリキュラムを編成し、教育の質を高めていくこと(カリキュラム・マネジメント)が不可欠であり、そのための企画力や調整能力の強化が求められる。このようなことから、受講者が、カリキュラム・マネジメントの原理や手法などを修得し、各地域において本研修の内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等を行うことを目的とする。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の校長、教頭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者							
開 催 期 日	平成17年12月12日(月)～平成17年12月16日(金)			5日間				
受 講 人 数	計画人数	220	人	受講者数	238	人	参加率	108.2%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数(人)	割合(%)	141 60.3	92 39.3	1 0.4	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

・今回の研修は今まで受けたどの研修よりも充実感があります。
 ・プログラムの流れはよく考えられていると感じた。特に最後の演習を行う前は正直不安であったが、研修全体の流れを振り返ることができ、また、振り返ることで達成感も得られた。
 ・演習がたくさんあり最初は不安であったが、各県の先生方のアドバイス等をもらいながら細かいところまで協議でき、大変有意義であった。講義もすばらしい先生方のお話が聞いて良かったが、演習があったことでより深められたように思う。
 ・参加型の演習を企画していただき、充実感が得られました。一方、演習がやや多く、「先進的な取組を知ること」「新たな知識を得ること」「幅広く多角的な情報を収集すること」などの面で更に満足感が得られると良かったかと思えます。
 ・研修の内容が公立の義務教育中心に行われている感じが強かったと思う。
 ・カリキュラム・マネジメントとはの定義が講師によってそれぞれで、かえってはっきりしない感じがした。
 ・義務教育とそれ以外は途中からでもよいので別の研修メニューにしてほしい。
 ・演習が、自分達の手で進められ、論議が深まって良かったが、作り上げられたものに対しての評価や改善の視点が与えられるとなおよい。
 ・演習の発表をする時間があつたら各班の作品にコメントが欲しい。ほとんどやりっぱなしで逆に不安。

III 研修内容・方法の見直し等

・回数、期間を見直した(年2回、3日間 → 年1回、5日間)。
 ・カリキュラムマネジメントマインドを高める校内研修と組織作り、学校間接続、総合的な学習の時間の全体計画などについての内容を加えた。
 ・事例発表校を学校種ごとに選出し、部会別に事例発表を実施した。
 ・全ての演習内容を具体的なものとし、まとめを行う演習においては「2時間程度で本研修内容を地域や学校に普及する際の配付資料として使用する資料を作成する」という作業内容を示した。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

I 研修概要

研 修 名	指導力不足教員に対応するための指導者の養成を目的とした研修 (東日本ブロック)					
担 当 課 係	教育課題研修課 健康教育研修係					
研 修 目 的	指導力不足教員の判断基準、指導力の回復・向上のための研修プログラム等について、必要な知識等を修得させ、各都道府県等において指導力不足教員に対して継続的な指導・研修を円滑に実施するため、担当者の資質の向上を図る。					
受 講 対 象	都道府県教育委員会等の管理主事、指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者					
開 催 期 日	平成17年10月31日(月)～平成17年11月2日(水)				3日間	
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	106	人
					参加率	※
開 催 場 所	タイム24ビル(東京都江東区)					

※計画人数 220人 受講者数 220人 参加率 100.0%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数(人)	割合(%)	44	49	0	0	3
		47.3	52.7	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・大変有意義な研修でした。 ・情報交換の重要性を再認識しました。情報交換の時間がもっとほしい。 ・地域の取組状況や受講生の経験年数別に研修内容を分けてはどうか。 ・コーチングは参考になった。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・指導力不足教員の対応に関する事例と課題解決に関して、事例に応じた協議を深めるため、「処遇のあり方」と「研修のあり方」の2つに分けて実施した。 ・受講対象者である管理主事及び指導主事が比較的参加しやすい時期へ、開催時期を見直した。(1・2月→10・11月)

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度指導力不足教員に対応するための研修(東日本ブロック)日程表

	9:00	10:30	11:00	11:40	12:00	13:30	15:00	17:30
10月31日 (第1日目)		受付	開講式 挨拶 文部科学省 初等中等教育局 初等中等教育企画課 課長補佐 岸本哲哉	オリエンテーション	昼休み	(研究協議) 指導力不足教員の現状と対応 東京都教育庁人事部 主任管理主事 勝部 純明	(講義・演習) 指導力等に課題のある教員の処遇と法律問題・争訟問題等の対応	弁護士 松崎 勝
11月1日 (第2日目)	9:00	9:30	(演習) 管理職の評価能力の向上とメンタルヘルス 九州大学大学院 教授 八尾坂 修	12:00	13:30	(研究協議) 指導力不足教員への対応に関する事例と課題解決を目指した研究協議 【処遇のあり方】会場:タイムプラザ 事例発表者:大阪市教育局職員課担当係長 田中 斉 講 師:文部科学省初等中等教育局 視学官 宮川 保之 【研修のあり方】会場:交流サロン 事例発表者:三重県教育委員会事務局研修支援室指導主事 東 則尚 講 師:国立教育政策研究所 主任研究官 千々布 敏弥	17:00	
11月2日 (第3日目)	9:00	9:30	(演習) 指導力不足教員とのコミュニケーションを改善するために PHP研究所経営開発事業本部取締役 星 雄一	12:00	12:15	閉講式		

I 研修概要

研 修 名	指導力不足教員に対応するための指導者の養成を目的とした研修 (西日本ブロック)		
担 当 課 係	教育課題研修課 健康教育研修係		
研 修 目 的	指導力不足教員の判断基準、指導力の回復・向上のための研修プログラム等について、必要な知識等を修得させ、各都道府県等において指導力不足教員に対して継続的な指導・研修を円滑に実施するため、担当者の資質の向上を図る。		
受 講 対 象	都道府県教育委員会等の管理主事、指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者		
開 催 期 日	平成17年10月12日(水)～平成17年10月14日(金)	3日間	
受 講 人 数	計画人数	※ 人	受講者数 114 人 参加率 ※
開 催 場 所	梅田スカイビル(大阪市)		

※計画人数 220人 受講者数 220人 参加率 100.0%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数(人)	割合(%)	38 38.0	55 55.0	7 7.0	0 0.0	6

2. 研修内容に関する主な意見

- ・法律問題への対応は、大変有意義であった。
- ・事例研究の時間、情報交換の時間を多くとってほしい。
- ・精神的な疾患や軽度発達障害に関する講義を設けてもらいたい。
- ・コーチングはもっと時間かけて学びたい。

III 研修内容・方法の見直し等

- ・指導力不足教員の対応に関する事例と課題解決に関して、事例に応じた協議を深めるため、「処遇のあり方」と「研修のあり方」の2つに分けて実施した。
- ・受講対象者である管理主事及び指導主事が比較的参加しやすい時期へ、開催時期を見直した。(1・2月→10・11月)

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度指導力不足教員に対応するための指導者の養成を目的とした研修(西日本ブロック)日程表

	9:00	10:30	11:00	11:40	12:00	13:30	15:00	17:30
10月12日 (第1日目)		受付	開講式 挨拶 文部科学省 初等中等教育局 初等中等教育企画課 課長補佐 岸本哲哉	オリエンテーション	昼休み	(研究協議) 指導力不足教員の現状と対応 東京都教育庁人事部 主任管理主事 勝部 純明	(講義・演習) 指導力等に課題のある教員の処遇と法律問題・争訟問題等の対応	弁護士 山田 陽彦
10月13日 (第2日目)	9:00	9:30	(演習) 管理職の評価能力の向上とメンタルヘルス 九州大学大学院 教授 八尾坂 修	12:00	13:30	(研究協議) 指導力不足教員への対応に関する事例と課題解決を目指した研究協議 【処遇のあり方】 事例発表者:大阪市教育局教職員課担当係長 田中 斉 講 師:文部科学省初等中等教育局 視学官 宮川 保之 【研修のあり方】 事例発表者:京都市教育委員会教職員人事課担当課長 稲田 新吾 講 師:国立教育政策研究所 主任研究官 千々布 敏弥	17:00	
10月14日 (第3日目)	9:00	9:30	(演習) 指導力不足教員とのコミュニケーションを改善するために PHP研究所経営開発事業本部取締役 星 雄一	12:00	12:15	閉講式		

I 研修概要

研 修 名	各地域において組織マネジメント研修を円滑に実施するための指導者の養成を目的とした研修（第1回）					
担 当 課 係	基幹研修事業課 研修第一係					
研 修 目 的	校長のリーダーシップの下、教員が個々の得意分野を生かし、共同して学校経営に参画するなど、学校が組織として力を発揮することで、学校運営の改善を図ることが求められていることを踏まえ、企業等で実施されている組織マネジメントの手法を取り入れた「学校組織マネジメント研修」を行うために必要な知識等を修得させ、各地域において、本研修の内容を踏まえた研修の企画・立案、研修講師としての活動、学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。					
受 講 対 象	①都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事、管理主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれらに準ずる事務職員 ②小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の校長、教頭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者					
開 催 期 日	平成17年 7月12日（火）～平成17年 7月15日（金）				4日間	
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	165	人
				参加率	※	
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター					

※計画人数 435人 受講者数 438人 参加率 100.7%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答
人数(人)	割合(%)	60	88	4	0	4
		39.5	57.9	2.6	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートでの疑問点に答えるよう、講義を計画していただいたことが良かった。 ・模擬講義が良かった。 ・講義→演習→質問という流れが、自分でやってみて、疑問を解決するというやり方になっており、良かった。 ・習熟度別（経験度に応じた）班編成と内容が良かった。 ・組織マネジメントの目指すところが見えてきた。 ・ファシリテーターの具体像が見えてきた。 ・講義・演習のはじめにウォーミングアップを取り入れ、リラックスした雰囲気です充実した研修を行うことができた。 ・今後講師になっていくために、演習での話し方等、例示を示してくれるとありがたい。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・平成17年度から実施

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度各地域において組織マネジメント研修を円滑に実施するための指導者の養成を目的とした研修日程表

第1日目	9:30	10:30	11:10	11:25	12:00	13:00	14:30	14:45	17:00	17:30
7月12日 (火)	DVD視聴 「学校組織 マネジメント 研修～これ からの校長・ 教頭等のた めに～」(概 要版)	受付	開 講 式	オリ エン テー ション	昼休み	ABコース 講義 「学校を取り巻く環境と組 織マネジメントの必要性」 産業能率大学経営管理 研究所 主任研究員 浅野 良一	休憩	ABコース 講義 「研修の企画・実施上の留意点」～ グループ演習の介入など研修実施 上のポイント～ 産業能率大学経営管理研究所 主任研究員 浅野 良一	第2研修棟2階演習室③	第2研修棟2階演習室③
						Cコース 講義 「学校を取り巻く環境と組 織マネジメントの必要性」 国立教育政策研究所 総括研究官 木岡 一明		Cコース(グループ別)講義・演習 「すべての教職員用-組織経営面の マネジメント-」 山梨大学助教授 榊原 禎宏 新潟大学助教授 雲尾 周		
会場		101研修室	レセプションホール		レセプションホール		レセプションホール		第2研修棟2階演習室①②	

第2日目	9:00	※ 演習の進行により、昼休み及び休憩を適宜指定					16:00	17:00	17:15	18:15
7月13日 (水)	ABコース 演習 「ロールプレイを中心とした実践演習」 国立教育政策研究所 総括研究官 木岡 一明 産業能率大学経営管理研究所 主任研究員 浅野 良一	会場: 第2研修棟2階演習室③					1 日 の 振 り 返 り	Rホール	イ ブ ニ ン グ セ ミ ナ ー 浅 野 良 一	Rホール
	Cコース(グループ別) 演習 「すべての教職員用 一人関係のマネジメント及び問題と問題解決」 山梨大学助教授 榊原 禎宏 新潟大学助教授 雲尾 周 (ファシリテータ) 鳥取県教育センター指導主事 千代西尾 祐司 鳥取県教育センター指導主事 大西 泰博	会場: 第2研修棟2階演習室①②								

第3日目	9:00	※ 演習の進行により、昼休み及び休憩を適宜指定					16:00	17:00	17:15	18:00
7月14日 (木)	ABコース 演習 「ロールプレイを中心とした実践演習」 国立教育政策研究所 総括研究官 木岡 一明 産業能率大学経営管理研究所 主任研究員 浅野 良一	会場: 第2研修棟2階演習室③					1 日 の 振 り 返 り	Rホール	イ ブ ニ ン グ セ ミ ナ ー 浅 野 良 一	Rホール
	Cコース(グループ別) 演習 「すべての教職員用 一業務遂行面のマネジメント及び問題と問題解決」 山梨大学助教授 榊原 禎宏 新潟大学助教授 雲尾 周 (ファシリテータ) 鳥取県教育センター指導主事 千代西尾 祐司 鳥取県教育センター指導主事 大西 泰博	会場: 第2研修棟2階演習室①②								

第4日目	9:00	10:30	10:45	12:00	13:00	14:00	14:15
7月15日 (金)	休憩		研修全体のまとめ 「研修の企画・実施上の留意点」 国立教育政策研究所 総括研究官 木岡 一明 産業能率大学経営管理研究所 主任研究員 浅野 良一	昼休み	研修全体の まとめ 「学校組織 マネジメント 研修体系領 域別内容表 の作成」	閉 講 式	会場: レセプションホール
	会場: レセプションホール						会場: レセプションホール

I 研修概要

研 修 名	各地域において組織マネジメント研修を円滑に実施するための指導者の養成を目的とした研修（第2回）							
担 当 課 係	基幹研修事業課 研修第一係							
研 修 目 的	校長のリーダーシップの下、教員が個々の得意分野を生かし、共同して学校経営に参画するなど、学校が組織として力を発揮することで、学校運営の改善を図ることが求められていることを踏まえ、企業等で実施されている組織マネジメントの手法を取り入れた「学校組織マネジメント研修」を行うために必要な知識等を修得させ、各地域において、本研修の内容を踏まえた研修の企画・立案、研修講師としての活動、学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	①都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事、管理主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれらに準ずる事務職員 ②小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の校長、教頭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者							
開 催 期 日	平成17年 9月 5日（月）～平成17年 9月 8日（木）				4日間			
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	132	人	参加率	※
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター							

※計画人数 435人 受講者数 438人 参加率 100.7%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答			
人数 (人)	割合 (%)	60	51.7	56	48.3	0	0.0	0	0.0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義、演習を通して、組織マネジメントの理解と研修運営のポイントを習得できる構成及び運営であったため良かった。 ・ 演習が適度に入り、受講しやすかった。 ・ 資料をもとに説明があったこととか、グループごとに研修が実施されたことが良かった。 ・ 発展コースは、講義中心だったが、理論より実施方法に対する講義だったので、持ち帰ってから企画運営の参考になる。 ・ ビデオを見てレディネスができてから受講できてよかった。 ・ 模擬授業は参考になった。 ・ 講義、演習のタイトルについて・・・大きなくくりは日程表にあるとおりだが、「今日は何」を日にちごとにタイトル化していただければ、もっと見通しが持てると感じました。 ・ 「組織マネジメント」が「学校組織の考え方」を多面的に提示されており、単なる方法論のみでなかった所が大変よかった。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成17年度から実施

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度各地域において組織マネジメント研修を円滑に実施するための指導者の養成を目的とした研修日程表

第1日目	9:30	10:30	11:10	11:25	12:00	13:00	13:30	15:45	16:00	17:00	17:30
9月5日 (月)	DVD視聴 「学校組織 マネジメント 研修～これ からの校長・ 教頭等のた めに～」(概 要版)	受付	開 講 式	オリ エン テー ション	昼休み	アイスブ レーキ ング 山梨大学 助教授 榊原 禎宏	講義 「学校を取り巻く環境と組織 マネジメントの必要性及びす べての教職員用モデル・カリ キュラムの各ユニットの再確 認」 国立教育政策研究所 総括研究官 木岡 一明	休憩	講義 「研修の企 画・実施上の 留意点」 産業能率大 学 経営管理研 究所 主任研究員 浅野 良一	模 擬 授 業 実 践 者 の 選 定	模 擬 授 業 実 践 者 の 選 定
会場	101研修室	講	堂			講	堂		講	堂	

第2日目	9:00	10:30	10:45	※ 演習の進行により、昼休み及び休憩を適宜指定				15:30	15:45	16:30	17:00	17:15	18:15
9月6日 (火)	講義 「参画重視の学校 づくり」 国立教育政策研 究所 総括研究官 木岡 一明	休憩	発展コース 演習 「模擬演習を中心とした実践型研修」 国立教育政策研究所 総括研究官 木岡 一明 産業能率大学経営管理研究所 主任研究員 浅野 良一 指定研修室	休憩	基礎コース 演習 「すべての教職員用モデル・カリキュラムによる講義・演習」 山梨大学助教授 榊原 禎宏 山形大学助教授 加藤 崇英 鳥取県教育センター指導主事 千代西尾 祐司 鳥取県教育センター指導主事 大西 泰博	休憩	模 擬 授 業 ・ 参 観	翌 日 の 擬 演 習 実 践 者 選 定	講 師 : 浅 野 良 一	講 堂	講 堂	講 堂	
	講		堂			各指定研修室	講	堂		講	堂	講	

第3日目	9:00	10:15	10:30	※ 演習の進行により、昼休み及び休憩を適宜指定				14:45	15:00	16:30	17:00	17:15	18:00
9月7日 (水)	講義 「プレゼンテ ーションの考え 方と進め方」 国立教育政策 研究所 総括研究官 木岡 一明	休憩	発展コース 演習 「模擬演習を中心とした実践型研修」 国立教育政策研究所 総括研究官 木岡 一明 産業能率大学経営管理研究所 主任研究員 浅野 良一 指定研修室	休憩	基礎コース 演習 「すべての教職員用モデル・カリキュラムによる講義・演習」 山梨大学助教授 榊原 禎宏 山形大学助教授 加藤 崇英 鳥取県教育センター指導主事 千代西尾 祐司 鳥取県教育センター指導主事 大西 泰博	休憩	模 擬 授 業 ・ 参 観	1 日 の 振 り 返 り	講 師 : 浅 野 良 一	講 堂	講 堂	講 堂	
	講		堂			各指定研修室	講	堂		講	堂	講	

第4日目	9:00	10:30	10:45	12:00	13:00	14:00	14:15
9月8日 (木)	講義 「第4領域(業務 遂行)」 国立教育政策研 究所総括研究官 木岡 一明	休憩	発展コース 演習 「第1～3日目の振 り返り及び補足」 国立教育政策研 究所 総括研究官 木岡 一明 産業能率大学 経営管理研 究所 主任研究員 浅野 良一 指定研修室	昼休み	研修全体の まとめ 「学校組織マ ネジメント研 修体系領域 別内容表の 作成」 産業能率大 学経営管理 研究所 主任研究員 浅野 良一	閉 講 式	
	講		堂			110 講	堂

指定研修室

- ◆発展 : プレゼンテーションルーム(1)
- ◆基礎 1 : Rホール(1)
- ◆基礎 2 : Rホール(2)
- ◆基礎 3 : プレゼンテーションルーム(2)

I 研修概要

研 修 名	各地域において組織マネジメント研修を円滑に実施するための指導者の養成を目的とした研修（第3回）		
担 当 課 係	基幹研修事業課 研修第一係		
研 修 目 的	校長のリーダーシップの下、教員が個々の得意分野を生かし、共同して学校経営に参画するなど、学校が組織として力を発揮することで、学校運営の改善を図ることが求められていることを踏まえ、企業等で実施されている組織マネジメントの手法を取り入れた「学校組織マネジメント研修」を行うために必要な知識等を修得させ、各地域において、本研修の内容を踏まえた研修の企画・立案、研修講師としての活動、学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。		
受 講 対 象	①都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事、管理主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれらに準ずる事務職員 ②小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の校長、教頭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者		
開 催 期 日	平成17年 9月12日（月）～平成17年 9月15日（木）	4日間	
受 講 人 数	計画人数	※ 人	受講者数 141 人 参加率 ※
開 催 場 所	広島大学東千田キャンパス		

※計画人数 435人 受講者数 438人 参加率 100.7%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答
人数 (人)	割合 (%)	72 52.6	64 46.7	1 0.7	0 0.0	1

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・講義→個人演習→グループ討議の流れで、理解が深まった。 ・理論的な講義と、それを実際にどのように気づかせるかを、演習の形式で実施していただき、理解が深まった。 ・模擬演習にかかる時間をもう少し増やして、班別でそれぞれ全員が発表するのが良いと思う。 ・グループの中で出た疑問が、翌朝の全体会で解消されたことは、良かった。 ・SWOT分析にもっと時間が欲しかった。 ・具体例のようなものがあれば、イメージしやすいと思う。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・平成17年度から実施

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度各地域において組織マネジメント研修を円滑に実施するための指導者の養成を目的とした研修日程表

第1日目	9:30	10:30	11:10	11:25	12:00	13:00	13:30	15:45	16:00	17:00	17:30	17:45	18:45
9月12日(月)	DVD視聴 「学校組織マネジメント研修～これからの校長・教頭等のために～」(概要版)	受付	開講式	オリエンテーション	昼休み	アイスブレーキング 山梨大学助教授 榊原 禎宏	講義 「学校を取り巻く環境と組織マネジメントの必要性及びすべての教職員用モデル・カリキュラムの各ユニットの再確認」 国立教育政策研究所 総括研究官 木岡 一明	休憩	講義 「研修の企画・実施上の留意点」 産業能率大学 経営管理研究所 主任研究員 浅野 良一	1日の振り返り			イブニングセミナー 講師：浅野 良一
会場	404	501				501			501			501	

第2日目	9:00	10:30	10:45	※ 演習の進行により、昼休み及び休憩を適宜指定				16:30	17:00
9月13日(火)	講義 「参画重視の学校づくり」 国立教育政策研究所 総括研究官 木岡 一明	休憩	発展コース 演習 「模擬演習を中心とした実践型研修」 国立教育政策研究所 総括研究官 木岡 一明 産業能率大学経営管理研究所 主任研究員 浅野 良一	指定研修室	模擬授業 指導案作成	休憩	模 擬 授 業 実 践 者 選 定	1日の振り返り	
会場	501		各指定研修室					501	

第3日目	9:00	10:15	10:30	※ 演習の進行により、昼休み及び休憩を適宜指定			14:45	15:00	16:30	17:00	17:15	18:15
9月14日(水)	講義 「プレゼンテーションの考え方と進め方」 国立教育政策研究所 総括研究官 木岡 一明	休憩	発展コース 演習 「模擬演習を中心とした実践型研修」 国立教育政策研究所 総括研究官 木岡 一明 産業能率大学経営管理研究所 主任研究員 浅野 良一	指定研修室	休憩	模 擬 授 業 ・ 参 観	1日の振り返り					イブニングセミナー 講師：浅野 良一
会場	501		各指定研修室				501		501			

第4日目	9:00	10:30	10:45	12:00	13:00	14:00	14:15
9月15日(木)	講義 「第4領域(業務遂行)」 国立教育政策研究所総括研究官 木岡 一明	休憩	発展コース 演習 「第1～3日目の振り返り及び補足」 国立教育政策研究所 総括研究官 木岡 一明 産業能率大学経営管理研究所 主任研究員 浅野 良一	指定研修室	昼休み	研修全体のまとめ 「学校組織マネジメント研修体系領域別内容表の作成」 産業能率大学経営管理研究所 主任研究員 浅野 良一	閉講式
会場	501		各指定研修室			501	

指定研修室

- ◆ 発展 : 501 講義室
- ◆ 基礎 1 : 404 講義室
- ◆ 基礎 2 : 304 講義室
- ◆ 基礎 3 : 403 講義室

I 研修概要

研 修 名	児童生徒の国語力向上に向けた教育の推進のための指導者の養成を目的とした研修（東部ブロック）							
担 当 課 係	教育課題研修課 教育課程研修係							
研 修 目 的	国語科はもとより、各教科その他の教育活動全体の中で、児童生徒の語彙力、表現力、論理的思考力の向上を図るための方法等について、必要な知識等を修得させ、各地域において、本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の校長、教頭及び教諭（特に研修主任等が望ましい）であって、各地域で本研修を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者							
開 催 期 日	平成17年10月31日（月）～平成17年11月 2日（水）				3日間			
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	301	人	参加率	※
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター							

※計画人数 440人 受講者数 706人 参加率 160.5%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	156; 60.2	100; 38.6	3; 1.2	0; 0.0	21;

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・演習において情報交換する中で、国語教育のあり方等について、新たな視点や知識を得ることができた。これからの教育実践に生かしていきたい。 ・事前資料について、課題の提示の仕方がわかりにくい。 ・初日に、富山先生と井上先生の話をもつて「国語」「読解力」という言葉の定義を示していただき、併せて氏原先生に論理的思考力の話も先にしていただけると、協議の向かうべき方向がわかったと思う。 ・国語科以外の教科の立場では話し合いに参加しにくい雰囲気があった。 ・各教科ごとに、その教科でどのような国語力向上を図ることができるかを協議する分科会を設けて欲しい。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・平成17年度から実施

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度 児童生徒の国語力向上に向けた教育の推進のための指導者の養成を目的とした研修（東部ブロック）
日程表

第1日目	9:45	10:15	11:00	12:30	13:30	14:30	14:50	17:00
10月31日 (月)	9:00	9:30	9:50	10:15	10:45	11:15	11:45	12:15
	開講式	受付	協議1 「国語力向上に向けた指導上の諸問題」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官(国語科担当) 富山哲也	休み	協議2 「学校教育活動全体における国語力向上に向けた課題」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官(理科担当) 田代直幸	休息	協議・演習 「国語力向上に向けた課題・問題点の整理」	

第2日目	9:00	9:30	9:50	12:30	13:30	14:00	14:20	17:00
11月1日 (火)	9:00	9:30	9:50	10:15	10:45	11:15	11:45	12:15
	事例発表1 「国語力育成を目指した論理的思考力・表現力の向上を図る指導方法等」 ＜初等教育部会＞ 北海道千歳市立千歳第二小学校 教諭 田代 淳 ＜中等教育部会＞ 福島県只見町立明和中学校 教諭 小野貴史	休息	事例発表2 「国語力育成を目指した論理的思考力・読解力の向上を図る指導方法等」 ＜初等教育部会＞ さいたま市立沼影小学校 教諭 辻美由紀 ＜中等教育部会＞ 東京都立水元高等学校 教諭 西村礼子	休み	事例発表3 「国語力育成を目指した論理的思考力・表現力の向上を図る指導方法等」 ＜初等教育部会＞ 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官(国語科担当) 富山哲也	休息	演習2 「国語力育成を目指した論理的思考力・読解力の向上を図る指導方法等」	

第3日目	9:00	11:15	11:30	12:15	13:15	14:30	14:45		
11月2日 (水)	9:00	9:30	9:50	10:15	10:45	11:15	11:45	12:15	
	シンポジウム 「国語力向上に向けての各教科等との関連方法について」 コーディネーター 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官(国語科担当) 井上一郎 山梨県教育委員会義務教育課指導主事 渡井 渡 シンポジスト 横浜国立大学教授 高木展郎 仙台市立古城小学校教諭 高橋純子 静岡市立清水第四中学校教諭 佐野公昭 東京都立水元高等学校教諭 西村礼子	休息	協議3 「研修講師となったために」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 井上一郎	休み	協議4 「国語をめぐれる動きについて」 文化庁文化語国語課 主任国語調査官 氏原基余司	閉講式			

- 《演習1・2 指導助言者》
- 小1 武庫川女子大学教授 市川真文
 - 小2 山梨県教育委員会義務教育課指導主事 渡井 渡
 - 小3 四條巖市立田原小学校校長 尾崎靖二
 - 小4 茨城県教育委員会義務教育課指導主事 増田年男
 - 中1 芦屋市立打出教育文化センター所長 上月敏子
 - 中2 岩手県教育委員会学校教育課指導主事 藤岡宏章
 - 中3 千葉大学教授 寺井正憲
 - 高1 栃木県教育委員会学校教育課副主幹 中島聖巳
 - 高2 群馬大学教授 河野庸介
 - 高3 石川県教育委員会学校指導課指導主事 江尻祐子
 - 高4 東京女子体育大学助教授 田中洋一
 - 高5 山形県教育委員会義務教育課指導主事 三浦登志一
 - 高6 広島大学教授 吉田裕久
 - 高7 川崎市立教育研究所指導主事 宮崎宣男
 - 高8 横浜国立大学教授 高木展郎
 - 高9 北海道教育委員会高校教育課指導主事 北村蒼春
 - 高10 筑波大学教授 鳴島 南
 - 高11 東京都教育委員会高等学校教育課指導主事 八百板真弓

I 研修概要

研 修 名	児童生徒の国語力向上に向けた教育の推進のための指導者の養成を目的とした研修（西部ブロック）							
担 当 課 係	教育課題研修課 教育課程研修係							
研 修 目 的	国語科はもとより、各教科その他の教育活動全体の中で、児童生徒の語彙力、表現力、論理的思考力の向上を図るための方法等について、必要な知識等を修得させ、各地域において、本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の校長、教頭及び教諭（特に研修主任等が望ましい）であって、各地域で本研修を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者							
開 催 期 日	平成17年 8月22日（月）～平成17年 8月24日（水）				3日間			
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	405	人	参加率	※
開 催 場 所	国立大学法人奈良教育大学							

※計画人数 440人 受講者数 706人 参加率 160.5%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	111	204	4	0	18
		34.8	63.9	1.3	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・自分の取り組みを見直し、再構築する良い機会になった。 ・国語力や読解力について、認識を深めることができた。 ・異校種・異教科の先生方から話が聞けたことは、大変有意義だった。 ・演習の時間が短かった。もっと時間がほしかった。 ・内容について曖昧な面があり、漠然としていた。 ・事前資料について、課題の提示の仕方がわかりにくい。 ・同一教科で学ぶ機会があってもよいと思う。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・平成17年度から実施

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度 児童生徒の国語力向上に向けた教育の推進のための指導者の養成を目的とした研修（西部ブロック）

日程表

第1日目	9:45	10:15	11:00	12:30	13:30	14:30	14:50	17:00
8月22日 (月)	受付	開講式	「国語力向上に向けた指導上の諸問題」 文部科学省初等中等教育局 視学官 田中孝一	休み	「国語力向上に向けた課題」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 長尾篤志 (算教・数学科担当)	休み	協議・演習 「国語力向上に向けた課題・問題点の整理」	
第2日目	9:00	9:30	9:50	12:30	13:30	14:00	14:20	17:00
8月23日 (火)	事例発表1 「国語力育成を目指した論理的思考力・表現力の向上を図る指導方法等」 ＜初等教育部会＞ 鹿児島市立清和小学校 教諭 岩元博美 ＜中等教育部会＞ 広島県立可部高等学校 教諭 三浦耕造	休み	事例発表1 「国語力育成を目指した論理的思考力・表現力の向上を図る指導方法等」	休み	事例発表2 「国語力育成を目指した論理的思考力・読解力の向上を図る指導方法等」 ＜初等教育部会＞ 滋賀県草津市立志津南小学校 教諭 片岡文子 ＜中等教育部会＞ 和歌山県田辺市立明洋中学校 教頭 大岩勲一	休み	演習2 「国語力育成を目指した論理的思考力・読解力の向上を図る指導方法等」	
第3日目	9:00	11:15	11:30	12:15	13:15	14:30	14:45	
8月24日 (水)	シンポジウム 「国語力向上に向けての各教科等との関連方法について」 コーディネーター 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 (国語科担当) 西江正副 奈良県教育委員会学校教育課指導主事 大石健一 シンポジスト 奈良教育大学教授 松川利広 滋賀県草津市立志津南小学校教諭 片岡文子 和歌山県田辺市立明洋中学校教頭 大岩勲一 岡山県教育委員会指導課指導主事 (主幹) 久谷理恵子	休憩	課題協議3 「研修講師となったために」 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 西江正副	休み	課題協議4 「国語をめぐる動きについて」 文化庁文化語国語課 主任国語調査官 氏原基余司	閉講式		

《演習1・2 指導助言者》

- 小1 A 武庫川女子大学教授 市川真文
- B 奈良県教育委員会学校教育課指導主事 下住剛士
- 小2 A 四條畷市立原小学校校長 尾崎靖二
- B 京都市総合教育センター指導主事 山本早苗
- 小3 A 広島県教育委員会指導第一課主任指導主事 門戸千幸
- B 奈良県立教育研究所指導主事 岸本憲一良
- 小4 A 奈良教育大学助教授 榎橋尚子
- B 香川県教育委員会義務教育課主任指導主事 山下昌宏
- 小5 A 奈良教育大学教授 松川利広
- B 鳥取県教育委員会西部教育事務指導主事 藤原厚子
- 中1 A 富山大学教授 米田 猛
- B 北九州市教育委員会指導第一課指導主事 江口恵子
- 中2 A 兵庫教育大学教授 堀江祐爾
- B 奈良県立教育研究所指導主事 小谷修也
- 高1 A 岡山県教育委員会指導課指導主事 (主査) 大滝一登
- B 奈良県教育委員会学校教育課指導主事 大石健一
- 高2 A 広島大学教授 吉田裕久
- B 京都府教育委員会高校教育課指導主事 山本康一

I 研修概要

研 修 名	外国語指導助手に対して必要な知識・指導方法等を修得させることを目的とした研修（来日直後オリエンテーション）							
担 当 課 係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係							
研 修 目 的	我が国の外国語教育を推進し、国際社会に生きる子ども達を育成するため、全国の外国語指導助手（ALT）に対して、日本の外国語教育等について適切に理解し、各学校において一層効果的な職務遂行ができるようにするために必要な知識等を修得させる。							
受 講 対 象	「語学指導等を行う外国青年招致事業」による新規の招致外国青年の中で語学指導に従事する者。及び、再契約する者のうち国際交流員から外国語指導助手への職種変更をする者。							
開 催 期 日	(4月期) 平成17年4月7日(木)			1日間				
	(A日程) 平成17年7月25日(月)～26日(火)			2日間				
	(B日程) 平成17年8月1日(月)～2日(火)			2日間				
	(第2次) 平成17年8月18日(木)			1日間				
受 講 人 数	(4月期) 計画人数	10	人	受講者数	6	人	参加率	60.0%
	(A日程) 計画人数	1,300	人	受講者数	1,333	人	参加率	102.5%
	(B日程) 計画人数	1,300	人	受講者数	1,010	人	参加率	77.7%
	(第2次) 計画人数	150	人	受講者数	112	人	参加率	74.7%
開 催 場 所	ルポール麹町(4月期) 京王プラザホテル(A日程、B日程、第2次)							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数(人)	割合(%)	216 43.2	241 48.2	26 5.2	17 3.4	172

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・パネルディスカッションにおける、パネラーの意見がとても役に立った。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・再契約予定者研修会と来日直後オリエンテーションを統合した。 ・パネルディスカッション形式を取り入れ、有識者及びALT経験者からより多くの実践、指導助言を得られるよう工夫した。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度外国語指導助手に対して必要な知識・指導方法等を
修得させることを目的とした研修 日程表

月日	時 間	研 修 内 容 等	会 場	備 考
4 月 6 日 (水)		新規来日者 成田空港到着 バス移動 ホテル到着		
4 月 7 日 (木)	10:00~10:30	○開会式	ルポール麹町 (麹町会館) 「ロイヤルクリスタル」(2F)	
	10:30~12:00	文部科学省分科会 ○文部科学省担当官による講義 「日本の学校教育制度及び外国語教育の 現状等」 「外国語指導助手の役割とチーム・ティーチング の基本的な考え方」	同「ガーネット」 (3F)	C I R と は、分かれ て実施。
	13:15~14:00	(昼食) ○日本における中国語教育の現状について ○日本における韓国語教育の現状について		
	14:00~15:55	○先輩ALTからの指導助言等Ⅰ ○先輩ALTからの指導助言等Ⅱ ○質疑応答, 意見交換等 ○担当官によるまとめ		
	○事務連絡 ○取りまとめ団体別ミーティング ○夕食会	同「ロイヤルクリ スタル」(2F)		
4 月 8 日 (金)		取りまとめ団体別国内移動		

平成17年度来日直後オリエンテーション 日程

月日(曜)	時間	項 目			
A 7/24 (日) B 7/31 (日)		JET 参加者の来日			
A 7/25 (月) B 8/1 (月)	10:00-11:00	県別オリエンテーション (出席確認・配置先確認 取りまとめ団体別集会の案内)			
	11:00-11:15	開 会 式	A 日程	B 日程	
			主催者挨拶	財団法人自治体国際化協会	財団法人自治体国際化協会
			3省代表挨拶	総務省	外務省
			主催者紹介	外務省 文部科学省 財団法人自治体国際化協会	文部科学省 総務省 財団法人自治体国際化協会
	11:15-11:40	JET プログラム概要説明 (重要情報)			
	11:40-11:45	AJET プレゼンテーション			
	12:00-13:00	昼 食			
		ALT (教員研修センター主催)	CIR		
	13:00-14:10	「バネディケーション」学校でのALTの役割について	13:00-13:05	日程説明	
	14:15-15:00	ビデオ視聴	13:05-13:10	CIR 全国代表者挨拶	
	15:30-16:30	小学校訪問活動について①	13:10-13:40	講義	
	16:40-17:40	小学校訪問活動について②	13:40-13:50	一休憩	
			13:50-15:00	コミュニケーションについて	
15:10-16:00	1年目PA対象カウンセリングシステムの説明 ・ 国籍グループミーティング				
15:10-16:00	AJET 分科会 (希望者のみ) ・ AJET バザール				
16:10-17:00					
17:10-18:00					
18:30-20:00	夕食会 (20:00以降終了予定)				
A 7/26 (火) B 8/2 (火)		ALT (教員研修センター主催)	CIR		
	09:00-10:20	分科会1 ※小学校専属ALT 担当者は別枠で用意	09:00-09:55	配置先別ミーティング	
	10:20-10:35	一休憩	09:55-10:00	一休憩	
	10:35-11:25	分科会2	10:00-10:50	分科会1	
	11:25-11:50	質疑応答	10:50-11:00	一休憩	
			11:00-11:50	分科会2	
	12:00-13:00	昼 食 (AJET インフォメーションフェア)			
	13:15-14:00	CLAIR ワークショップ1 (取りまとめ団体別集会)	CLAIR 分科会 1. 基本事項 ・ ALTのためのJETとしての心構え (契約団体とコミュニケーションについて) ・ CIRのためのJETとしての心構え (契約団体とコミュニケーションについて) 2. 職務 ・ 大人のための会話教室 ・ 日本の学校現場について ・ 日本のビジネス・マナー ・ 小学校訪問 ・ 1年目PA対象カウンセリングシステムの説明 3. 日常生活 ・ 日常生活における日本のエチケット (初心者向け) ・ 日本の地域社会を理解して友達をつくる方法 ・ 日本での運転 ・ 田舎のJETのためのワークショップ ・ 最初の1ヶ月 4. 言語 ・ 日本語の独学方法と経験論 (初級) ・ 日本語の独学方法と経験論 (中級) ・ 日本語の独学方法と経験論 (上級) 5. 社会・文化 ・ フランス出身のJET フォーラム -Aオリのみ・1日目- ・ ドイツ出身のJET フォーラム -Bオリのみ・1日目- ・ アフリカ系JETのためのワークショップ ・ アジア系JETのためのワークショップ ・ 女性のためのワークショップ		
	14:15-15:00	CLAIR ワークショップ2 (取りまとめ団体別集会)			
	15:15-16:00	CLAIR ワークショップ3 (取りまとめ団体別集会)			
	16:15-17:00	CLAIR ワークショップ4 (取りまとめ団体別集会)			
17:00-20:00	AJET インフォメーションフェア				
18:00-20:00	荷物回収				
	夜	大使館別活動			
A 7/27 (水) B 8/3 (水)	7:30-11:30	国内移動 (取りまとめ団体別)	119		

平成17年度外国語指導助手に対して必要な知識・指導方法等を修得させることを目的とした研修（外国語指導助手来日直後オリエンテーション：2次）日程表

日 時：平成17年8月18日（木）13：30～16：30

場 所：京王プラザホテル「かえで」

○13：30～14：50 パネルディスカッション

（パネラー）

太田 光春	文部科学省教科調査官
小泉 仁	近畿大学 教授
竹下 徹	文部科学省国際教育課
ヒュー・オリファント	文部科学省ALTアドバイザー

○15：05～15：55 ビデオ視聴「ALTの一日」

○15：55～16：30 質疑応答

（対応者）

太田 光春	文部科学省教科調査官
小泉 仁	近畿大学 教授
竹下 徹	文部科学省国際教育課
ヒュー・オリファント	文部科学省ALTアドバイザー

I 研修概要

研 修 名	外国語指導助手に対して必要な知識・指導方法等を修得させることを目的とした研修（再契約予定者研修会）【A日程】				
担 当 課 係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係				
研 修 目 的	我が国の外国語教育を推進し、国際社会に生きる子ども達を育成するため、全国の外国語指導助手（ALT）に対して、日本の外国語教育等について適切に理解し、各学校において一層効果的な職務遂行ができるようにするために必要な知識等を修得させる。				
受 講 対 象	平成17年度に再契約を予定しているALTのうち、再契約が一回目の者。なおA日程の参加区分については下記のとおりとする。 A日程：滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県・鳥取県・島根県・岡山県・広島県・山口県・徳島県・香川県・愛媛県・高知県・福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県・沖縄県				
開 催 期 日	平成17年 5月30日（月）～平成17年 5月31日（火）			2日間	
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	908
				人	参加率
					※
開 催 場 所	神戸ポートピアホテル				

※計画人数 2,000人 受講者数 1,862人 参加率 93.1%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	285	108	9	1	31
		70.7	26.8	2.2	0.2	

2. 研修内容に関する主な意見

- ・パネルディスカッションの時間が長すぎる。（休憩を入れて欲しかった）
- ・パネルディスカッションにおける質疑応答の時間をもっと長くして欲しかった。
- ・パネルディスカッションで、直接文部科学省の方に質問できてよかった。しかし、受講者の質問の内容がかなり個人的なものが多かったため、必ずしも受講者全員に役立たなかったと思う。

III 研修内容・方法の見直し等

- ・パネルディスカッション形式を取り入れ、有識者及びALT経験者からより多くの実践、指導助言を得られるよう工夫した。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度外国語指導助手再契約予定者研修会（A日程）

期日	時間	内 容		備 考
5 / 30 (月)	14:00~14:15	開 会 式		
	14:15~14:30	日 程 説 明 等		
	14:45~17:00	パネルディスカッション		
5 / 31 (火)	9:30~10:50	ワークショップⅠ	〔下記20程度のテーマから各自4テーマを選択〕 1) 授業設計-中学校・高等学校 2) 授業での劇の活用-中学校・高等学校 3) CALL教育 4) 視聴覚機器の使用法 5) 英語を使う活動の仕組み方-高等学校 6) 小学校訪問 7) 生徒の動機付けの在り方-高等学校 8) 授業で国際問題を取り扱う方法-高等学校 9) 課外授業-高等学校 10) 職場での人間関係-中学校 11) 模擬授業-タイ語、セルビア語 12) 英語に関心を示さない生徒たちへの英語教育 13) 保育園・幼稚園での英語教育 14) ディベート、ディスカッション教育 15) 公民館等での英語指導の在り方 16) 第2言語習得に関する基礎理論 17) 障害のある子どもに対する教育方法 18) ワンショットビジット 19) 授業での音楽の取り入れ方-中学校、高等学校 20) 2年目のALTとして-中学校、高等学校 など	
	11:10~12:30	ワークショップⅡ		
	12:30~14:00	(昼 食)		
	14:00~15:20	ワークショップⅢ		
	15:40~17:00	ワークショップⅣ		
	18:00~20:00	AJET, 国別, 地域別ミ ーティング		

I 研修概要

研 修 名	外国語指導助手に対して必要な知識・指導方法等を修得させることを目的とした研修（再契約予定者研修会）【B日程】		
担 当 課 係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係		
研 修 目 的	我が国の外国語教育を推進し、国際社会に生きる子ども達を育成するため、全国の外国語指導助手（ALT）に対して、日本の外国語教育等について適切に理解し、各学校において一層効果的な職務遂行ができるようにするために必要な知識等を修得させる。		
受 講 対 象	平成17年度に再契約を予定しているALTのうち、再契約が一回目の者。なおB日程の参加区分については下記のとおりとする。 B日程：北海道・青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県・茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県・新潟県・山梨県・長野県・静岡県・富山県・石川県・福井県・岐阜県・愛知県・三重県		
開 催 期 日	平成17年 6月 6日（月）～平成17年 6月 7日（火）	2日間	
受 講 人 数	計画人数	※ 人	受講者数 954 人 参加率 ※
開 催 場 所	京王プラザホテル		

※計画人数 2,000人 受講者数 1,862人 参加率 93.1%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答
人数 (人)	割合 (%)	62	216	13	2	151
		21.2	73.7	4.4	0.7	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・パネルディスカッションでの質疑応答の時間がもっと欲しかった。 ・有益な時間だったが、時間が長かった。 ・講義や講演ではなくパネルディスカッション形式でよかった。 ・いくつかのパネリストが質問に答えていなかったように思う。 ・質疑応答時の質問は、事前に提出させるべきだと思う。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・パネルディスカッション形式を取り入れ、有識者及びALT経験者からより多くの実践、指導助言を得られるよう工夫した。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度外国語指導助手再契約予定者研修会（B日程）

期 日	時 間	内 容		備 考
6 / 6 (月)	14:00~14:15	開 会 式		ALT ・ CIR (合同)
	14:15~14:30	日 程 説 明 等		
	14:45~17:00	パネルディスカッション		ALT
6 / 7 (火)	9:30~10:50	ワークショップⅠ	〔下記20程度のテーマから各自4テーマを選択〕	ALT
	11:10~12:30	ワークショップⅡ	1) 授業設計-中学校、高等学校 2) 授業での劇の活用-中学校・高等学校 3) CALL教育 4) 視聴覚機器の使用法 5) 英語を使う活動の仕組み方-高等学校 6) 小学校訪問 7) 生徒の動機付けの在り方-高等学校 8) 授業で国際問題を取り扱う方法-高等学校 9) 課外授業-中学校、高等学校 10) 職場での人間関係-中学校、高等学校 11) 模擬授業-ギリシャ語、スペイン語 12) 英語に関心を示さない生徒たちへの英語教育 13) 第2外国語の指導の在り方 14) ディベート、ディスカッション教育 15) 公民館等での英語指導の在り方 16) 第2言語習得に関する基礎理論 17) 障害のある子どもに対する教育方法 18) 保育園・幼稚園での英語教育 19) 授業での音楽の取り入れ方-中学校、高等学校 20) 2年目のALTとして-中学校、高等学校 など	
	12:30~14:00	(昼 食)		
	14:00~15:20	ワークショップⅢ		
	15:40~17:00	ワークショップⅣ		
	18:00~20:00	AJET, 国別, 地域別 ミーティング		

I 研修概要

研 修 名	外国人児童生徒等に対する日本語指導のための指導者の養成を目的とした研修 (第1回)		
担 当 課 係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係		
研 修 目 的	国際化の進展に伴い、外国人児童生徒の増加及び在留の長期化により帰国児童生徒においても日本語指導が必要な児童生徒が増加していることを踏まえ、学校全体での外国人児童生徒の受入れ、関係機関との連携等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。		
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 外国人児童生徒等に対する日本語指導等について一定の知識と経験を有する者		
開 催 期 日	平成17年 8月 9日 (火) ~平成17年 8月12日 (金)	4日間	
受 講 人 数	計画人数	※ 人	受講者数 85 人 参加率 ※
開 催 場 所	フォーラムエイト (東京)		

※計画人数 150人 受講者数 146人 参加率 97.3%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	42; 53.2	36; 45.6	1; 1.3	0; 0.0	2; /

2. 研修内容に関する主な意見

- ・全国で取り組まれている先生方と知り合えたこともたいへん良かった。
- ・演習では一人で指導案をつくるか、模擬授業をするのか教員などはどうするのかなど事前にわかっていると大変うれしい。
- ・実践例と講義の重なる部分があったので、講義しつつ、実践例を報告していけると、内容が結びつきやすい。
- ・時間が短く、研修時間内では、概要を話す程度で終わったので次回はもっと長くしてほしい。
- ・現場の教員にとっては、JSLを普及していくのであれば、こういった演習にもっと時間をとってほしい。
- ・現実問題の指導法や教室の運営の仕方、教材、国際理解教育などの交流をする時間があまりなかったのが残念だった。
- ・短期間でしたが外国人児童生徒教育の現状や初期指導からJSLによる指導案演習と、幅広く研修できることができた。
- ・今回の研修は、講義と演習のバランスがよくとれていた。
- ・講師の人選がとても良かった。
- ・JSLカリキュラムと従来の指導の違いが、すっきりと理解できなかった。もう少し違いを解りやすく説明してくれるとよかった。

III 研修内容・方法の見直し等

- ・前回の研修において、演習の満足度が高かったため、演習の時間をさらに増やし、より実際の授業に生かせる演習内容とした。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

I 研修概要

研 修 名	外国人児童生徒等に対する日本語指導のための指導者の養成を目的とした研修 (第2回)		
担 当 課 係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係		
研 修 目 的	国際化の進展に伴い、外国人児童生徒の増加及び在留の長期化により帰国児童生徒においても日本語指導が必要な児童生徒が増加していることを踏まえ、学校全体での外国人児童生徒の受入れ、関係機関との連携等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。		
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 外国人児童生徒等に対する日本語指導等について一定の知識と経験を有する者		
開 催 期 日	平成18年 1月18日 (水) ~平成18年 1月20日 (金)	3日間	
受 講 人 数	計画人数	※ 人	受講者数 61 人 参加率 ※
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター		

※計画人数 150人 受講者数 146人 参加率 97.3%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	30 56.6	23 43.4	0 0.0	0 0.0	2

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・内容が充実していてとても有意義な研修だった。 ・実際に指導案を作成することにより、理論を実践レベルで捉えることができた。 ・実践例として授業の実際をビデオ見ることができ、とてもわかりやすかった。 ・教科指導における支援の仕方に通じるものがあり、大変参考になった。 ・理論、演習と両面から研修できてよかった。 ・各班から作成した指導案について発表を聞いたかった。 ・作成した指導案について、講師の先生からもっと具体的なアドバイスがその場で受けたかった。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会等からの追加実施の要望を踏まえ、追加実施した。 ・第1回の研修直後アンケートを踏まえ、事例発表の充実、演習や演習の評価の時間を十分に確保した。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度 外国人児童生徒等に対する日本語指導のための指導者の養成を目的とした研修
日程表

第1日目	10:00 10:30 10:45	12:20 13:30	14:30 14:50	17:00	
1月18日 (水)	<p>課題協議1 外国人児童生徒に対する日本語指導について</p> <p>開講式</p> <p>受付</p>	<p>課題協議2 外国人児童生徒に対する日本語指導について</p> <p>【教科指導】</p> <p>(財)波多野ファミリー スクール 主管 大蔵 守久</p>	<p>課題協議3 JSLカリキュラムの理論について</p> <p>休憩</p> <p>【トピック型】</p> <p>東京外国語大学 留学生日本語教育センター 教授 伊東祐郎</p>	<p>【教科志向型】</p> <p>東京外国語大学 留学生日本語教育センター 教授 伊東祐郎</p>	
第2日目	9:00	10:00 10:20	11:50 13:00	17:00	
1月19日 (木)	<p>課題協議4 JSLカリキュラムの実践例</p> <p>【トピック型】</p> <p>・実践例を紹介する。 愛知県小牧市立小牧小学校 教諭 佐藤 和吉</p>	<p>課題協議5 JSLカリキュラムの実践例</p> <p>【教科志向型】</p> <p>・解説を交えて実践例を紹介する。 東京学芸大学 国際教育センター 助教授 齋藤 ひろみ 群馬県大泉町立東小学校 教諭 市川 昭彦</p>	<p>課題協議6 JSLカリキュラムの実践に活用する際の視点や方法について</p> <p>(財)波多野ファミリー スクール 主管 大蔵 守久</p>	<p>課題協議7 JSLカリキュラムの実践</p> <p>【トピック型】</p> <p>・JSLカリキュラムトピック型の指導案を作成する。 (財)波多野ファミリー スクール 主管 東京学芸大学国際教育センター 助教授 齋藤 ひろみ 群馬県大泉町立東小学校 教諭 市川 昭彦</p>	
第3日目	9:00	10:30 10:50	12:20 13:30	14:15	15:00 15:15
1月20日 (金)	<p>課題協議5 JSLカリキュラムの実践例</p> <p>【教科志向型】</p> <p>・解説を交えて実践例を紹介する。 東京学芸大学 国際教育センター 助教授 齋藤 ひろみ 群馬県大泉町立東小学校 教諭 市川 昭彦</p>	<p>課題協議6 JSLカリキュラムの実践に活用する際の視点や方法について</p> <p>(財)波多野ファミリー スクール 主管 大蔵 守久</p>	<p>課題協議7 JSLカリキュラムの実践</p> <p>【トピック型】</p> <p>・JSLカリキュラムトピック型の指導案を作成する。 (財)波多野ファミリー スクール 主管 東京学芸大学国際教育センター 助教授 齋藤 ひろみ 群馬県大泉町立東小学校 教諭 市川 昭彦</p>	<p>課題協議8 JSLカリキュラムの実践</p> <p>【トピック型】</p> <p>・JSLカリキュラムトピック型の指導案を作成する。 (財)波多野ファミリー スクール 主管 東京学芸大学国際教育センター 助教授 齋藤 ひろみ 群馬県大泉町立東小学校 教諭 市川 昭彦</p>	<p>閉講式</p>

※「JSLカリキュラム」は、文部科学省が外国人児童生徒等に対する日本語指導等の取組みを支援するために実施した「学校におけるJSLカリキュラムの開発」事業において開発された、教科学習に対応した日本語指導カリキュラムである。

I 研修概要

研 修 名	児童生徒の心身の健康問題に対応するための指導者の養成を目的とした研修							
担 当 課 係	教育課題研修課 健康教育研修係							
研 修 目 的	各都道府県、指定都市及び中核市において児童生徒の心身の健康問題を担当する指導主事及び養護教諭等に対し、保健室登校、性の逸脱行動、薬物乱用等の課題への対応及び健康相談活動等について、必要な知識や技術の習得を図るとともに、受講者が各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が行われることを目的とする。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の養護教諭であって、各地域において本研修を踏まえた研修での講師等の活動を行う予定である者等							
開 催 期 日	平成17年12月 6日（火）～平成17年12月 9日（金）				4日間			
受 講 人 数	計画人数	220	人	受講者数	240	人	参加率	109.1%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	109	99	2	0	26
		51.9	47.1	1.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の研修で学んだことを、同じ県の仲間にきちんと伝えられるよう頑張ります。 ・ Bコースについては演習内容がとてもよく工夫され、参加できた実感が大きかったです。 ・ Aコースの性教育に関する研修内容が大変良かった。 ・ 内容が盛りだくさん過ぎて、未消化の部分がありました。 ・ 演習を中心とすることで、受身ではなく、自発的な研修ができました。また、他の先生との意見交換もでき、本当に意義のある研修になったと思います。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・ この分野について、積極的に取り組んでいる諸外国の状況を、講義内容に取り入れた。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度 児童生徒の心身の健康問題に対応するための指導者の養成を目的とした研修 日程一覧

12月6日 火	9:45	10:15	10:30	12:00	13:00	14:30	14:40	15:40	15:50	17:00
	開 講 式		演習1 「健康教育の進め方と実際」 ～学校・家庭・地域との連携～ 文部科学省スポーツ・青少年局 体育官 戸田 芳雄 中教審報告 健やかな体を育む教育の在り方に 関する専門部会 これまでの審議の状況	昼 食 休 憩	演習2 「現代的健康課題への対応に 向けた健康教育の推進と 養護教諭の役割」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 健康教育調査官 采女 智津江	演習3 「感染症への対応」 国立感染症研究所 感染症情報センター 主任研究官 多田 有希	演習4 「学校における アレルギー疾患の 管理と指導」 東京家政大学 教授 岩田 力			
会場 第2研修棟2階										

12月7日 水	9:00	10:20	10:30	12:00	13:00	15:10	15:20	17:00	
	演習5 「発達障害者支援法と学校保健」 文部科学省初等中等教育局 特別支援教育課 特別支援教育調査官 植橋 雅義	演習6 「児童生徒のメンタルヘルスの 理解と対応」 －発達障害・児童虐待等－ 京都大学 教授 十一 元三	昼 食 休 憩	演習7 「子どもの心のケアへの対応」 ①「児童生徒の心身の健康問題に 対応するための指導調査研究団報告」 アメリカ: 広島市立中筋小学校 教頭 宮本香代子 川崎市教育委員会健康教育課 藤原淳子 フィンランド: 十文字学園女子大学 助教授 綿井 雅康 島根県教育委員会保健体育課 指導主事 荊尾玲子	②「非常災害時における子どもの 心のケアと養護教諭の役割」 武蔵野大学 教授 藤森 和美				
会場 第2研修棟2階									

(Aコース) 総合研修

12月8日 木	9:00	12:00	13:00	17:00
	演習A-8 「学校における性教育の課題と対応」 京都大学大学院 助教授 木原 雅子	昼 食 休 憩	演習A-9 「現代的な健康課題へ対応するための保健指導の実際」 ①心の健康 文部科学省スポーツ・青少年局 健康教育調査官 采女 智津江 岩手県立総合教育センター 研修主事 佐藤 一也 ②喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育 文部科学省スポーツ・青少年局 健康教育調査官 鬼頭 英明 米沢市立第一中学校 生徒指導主事 荻原 芳彦 ③性教育・エイズ教育 文部科学省スポーツ・青少年局 体育官 戸田 芳雄 岡山県教育委員会保健体育課 総括参事 坂根 清貴	①部会：101大会議室 ②部会：201大会議室 ③部会：第2研修棟2階
会場 第2研修棟2階				

12月9日 金	9:00	12:00	13:00	14:00	※「研修講師となるために」はA B両コース共通で行います。
	演習A-10 「現代的な健康課題へ対応するための保健指導の実際」 ①心の健康 文部科学省スポーツ・青少年局 健康教育調査官 采女 智津江 岩手県立総合教育センター 研修主事 佐藤 一也 ②喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育 文部科学省スポーツ・青少年局 健康教育調査官 鬼頭 英明 米沢市立第一中学校 生徒指導主事 荻原 芳彦 ③性教育・エイズ教育 文部科学省スポーツ・青少年局 体育官 戸田 芳雄 岡山県教育委員会保健体育課 総括参事 坂根 清貴	昼 食 休 憩	※ 研修講師となるために 文部科学省 スポーツ・青少年局 学校健康教育課 健康教育調査官 采女 智津江	閉 講 式	
会場 第2研修棟2階					第2研修棟2階

(Bコース) 健康相談活動研修

12月8日 木	9:00	12:00	13:00	17:00
	演習B-8 「学校教育におけるカウンセリングの活用」 十文字学園女子大学 助教授 綿井 雅康	昼 食 休 憩	演習B-9 「健康相談活動演習」 第1班: 世田谷区立砧南中学校 養護教諭 中村 泰子 第2班: 川口市立南中学校 養護教諭 村木 久美江 第3班: 千葉大学 助教授 塩田 瑠美 第4班: 福島県立磐城桜が丘高等学校 養護教諭 笹原 和子	会場 レセプションホール 第1班:103中研修室 第2班:104中研修室 第3班:203中研修室 第4班:204中研修室
会場 レセプションホール				

12月9日 金	9:00	12:00	13:00	14:00	※「研修講師となるために」はA B両コース共通で行います。
	演習B-10 「健康相談活動の事例研究の進め方」 小学校部会 事例発表: 栃木県・香川県・長崎県 講師: 前九州女子短期大学 教授 鈴木 美智子 中学校部会 事例発表: 北海道・東京都 講師: 東京福祉大学 特任教授 鳥山 初江 高等学校部会 事例発表: 秋田県・岐阜県 講師: 十文字学園女子大学 講師 松野 智子	昼 食 休 憩	※ 研修講師となるために 文部科学省 スポーツ・青少年局 学校健康教育課 健康教育調査官 采女 智津江	閉 講 式	
会場 小学校部会:レセプションホール 中学校部会:プレゼンテーションルーム 高等学校部会:103中研修室					

I 研修概要

研 修 名	健康教育の推進のための指導者の養成を目的とした研修							
担 当 課 係	教育課題研修課 健康教育研修係							
研 修 目 的	喫煙、飲酒、薬物乱用の低年齢化、エイズや感染症の増加、アレルギー疾患の増加等課題となっている中で、児童生徒の健康に関する主要課題への理解と適切な対応が求められていることを踏まえ、学校での健康教育の全体計画の作成、各課題への適切な対応と指導等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の校長、教頭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者							
開 催 期 日	平成17年 9月20日（火）～平成17年 9月22日（木）				3日間			
受 講 人 数	計画人数	220	人	受講者数	175	人	参加率	79.5%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	83 54.2	70 45.8	0 0.0	0 0.0	14

2. 研修内容に関する主な意見

- ・演習中心の即実践力として役立つ内容で大変良かった。
- ・最新の情報をもとに相互演習という形をとりながら、講師からの適切な指導を受けられたことがありがたかった。
- ・職員研修や授業研究の持ち方について、とても参考になりました。
- ・この研修で得た知識を、各県でどう広めていくかが課題である。
- ・他県との情報交換もでき、大変役立ちました。

III 研修内容・方法の見直し等

- ・受講対象者及び研修内容の一部が重複する「健康教育指導者中央研修会」と「エイズ・薬物乱用防止教育研修会」を統合した。
- ・喫緊の課題を学校教育でどのように取り扱うかをテーマに演習内容、方法を見直した。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度 健康教育の推進のための指導者の養成を目的とした研修 日程一覧

会場：教員研修センター

		9:30	10:00	10:20	10:50	12:00	13:00	17:00
9月20日(火)	受付	開会式	演習1 「学校における健康教育の全体計画の作成について」 文部科学省 スポーツ・青少年局 体育官 戸田芳雄	演習2 「健康に影響する課題への対応と指導」 ～低年齢からの喫煙、飲酒～ 小：神戸大学 教授 川畑徹朗 中高：兵庫教育大学 教授 西岡伸紀	昼食・休憩	演習3 「健康に影響する課題への対応と指導」 ～低年齢からの喫煙、飲酒～ 【小学校部会】 神戸大学 教授 川畑 徹朗 【中学校・高等学校部会】 兵庫教育大学 教授 西岡 伸紀		
会場	教員研修センター（つくば）							

		9:00	12:00	13:00	17:00
9月21日(水)	受付	演習4 「健康に関する喫緊の課題に対応した保健学習のあり方と授業づくり」① 【エイズ（性教育）】 宇都宮大学 教授 和唐正勝 栃木県教育委員会 指導主事 森 良一 【心の健康】 兵庫教育大学 教授 西岡伸紀 福井県立大学 非常勤講師 木下洋子 【健康と環境】 東京学芸大学 教授 渡邊正樹 米沢市立第一中学校 教諭 荻原芳彦 【感染症】 国立教育政策研究所 教育課程調査官 今関豊一 茨城県教育庁保健体育課学校保健担当係長 斎藤文夫 【薬物乱用】 筑波大学 助教授 野津有司 宇都宮市立教育委員会 指導主事 横嶋 剛	昼食・休憩	演習5 「健康に関する喫緊の課題に対応した保健学習のあり方と授業づくり」② 【エイズ（性教育）】 宇都宮大学 教授 和唐正勝 栃木県教育委員会 指導主事 森 良一 【心の健康】 兵庫教育大学 教授 西岡伸紀 福井県立大学 非常勤講師 木下洋子 【健康と環境】 東京学芸大学 教授 渡邊正樹 米沢市立第一中学校 教諭 荻原芳彦 【感染症】 国立教育政策研究所 教育課程調査官 今関豊一 茨城県教育庁保健体育課学校保健担当係長 斎藤文夫 【薬物乱用】 筑波大学 助教授 野津有司 宇都宮市立教育委員会 指導主事 横嶋 剛	
会場	教員研修センター（つくば）				

		9:00	12:00	13:00	14:00
9月22日(木)	受付	演習6 「健康に関する喫緊の課題に対応した保健学習の模擬授業」 【エイズ（性教育）】 宇都宮大学 教授 和唐正勝 栃木県教育委員会 指導主事 森 良一 【心の健康】 兵庫教育大学 教授 西岡伸紀 福井県立大学 非常勤講師 木下洋子 【健康と環境】 東京学芸大学 教授 渡邊正樹 米沢市立第一中学校 教諭 荻原芳彦 【感染症】 国立教育政策研究所 教育課程調査官 今関豊一 茨城県教育庁保健体育課学校保健担当係長 斎藤文夫 【薬物乱用】 筑波大学 助教授 野津有司 宇都宮市立教育委員会 指導主事 横嶋 剛	昼食・休憩	演習7 「健康行動の醸成、各課題への対処能力の育成に関する効果的な指導の普及に向けた研修のあり方づくり」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課健康教育企画室 健康教育調査官 鬼頭 英明	閉会
会場	教員研修センター（つくば）				

※ 演習4、5「健康に関する喫緊の課題に対応した保健学習のあり方と授業づくり」については、講義ビデオ「現代的な健康課題に関する講義」を各受講者に配布し、事前研修を実施する。

I 研修概要

研 修 名	食の指導の充実のための指導者の養成を目的とした研修					
担 当 課 係	教育課題研修課 健康教育研修係					
研 修 目 的	栄養教諭制度の創設を踏まえ、各都道府県等における食に関する指導の体制の整備、食に関する指導の充実に資するように、各地域で栄養教諭、学校栄養職員を対象とした研修の企画立案・実施、指導助言等を行う食に関する指導の充実のための指導者の養成を目的とした研修を行う。					
受 講 対 象	本研修の参加者は、今後、各地域において教育職員免許法附則第18項等に基づいて学校栄養職員が栄養教諭免許状を取得する際に必要な単位の修得の機会として開催される講習（栄養教育実習含む）の講師など、本研修受講後に各地域で小・中学校等の栄養教諭、学校栄養職員を対象とした食に関する指導についての研修の企画立案・実施、当該研修での講師等の活動を行うことが予定される者で、下記のいずれかに該当する者とする。 ①都道府県、指定都市、中核市教育委員会の食に関する指導を担当する者（指導主事、学校栄養職員経験者等） ②都道府県、指定都市、中核市教育委員会の教育センターにおいて食に関する指導についての研修等を担当する指導主事等 ③栄養教諭、学校栄養職員で各地域の食に関する指導についての研修の講師等の活動が予定されている者 ④その他上記①～③に準ずる者（例：各地域の大学教員で食に関する指導についての研修の講師等の活動を行うことが予定される者）					
開 催 期 日	平成17年 7月11日（月）～平成17年 7月14日（木）	4日間				
受 講 人 数	計画人数	215 人	受講者数	248 人	参加率	115.3%
開 催 場 所	独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答
人数(人)	割合(%)	105; 57.1	78; 42.4	1; 0.5	0; 0.0	10;

2. 研修内容に関する主な意見

- ・食に関する指導の重要性と、栄養教諭と全教育職員の連携の必要性がよく理解できました。
- ・学校栄養職員や栄養教諭が授業へ参画する際の課題が明らかになりました。
- ・講師の一方的な話にとどまらず、参加者で何かを作りあげるという演習形式は大変良かったと思う。
- ・とても良い研修で、充実した4日間でした。
- ・大学の授業を行うにあたり非常に勉強になりました。特に指導案の作成では、多くの先生方に助言をいただき助かりました。また、研修でネットワーク作りができたことも役立ちました。

III 研修内容・方法の見直し等

- ・学校栄養職員等研修会と衛生管理研修会を統合した。
- ・平成17年夏以降、ノロウィルスやカンピロバクターによる学校給食を原因とする食中毒が各地で発生したことから、栄養教諭や学校栄養職員を対象に食中毒を未然に防止するための学校給食における衛生管理に必要な知識等を修得させる研修を緊急に実施した。
- ・事前研修を実施した。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

I 研修概要

研 修 名	各地域における学校安全の基盤となる指導者の養成を目的とした研修					
担 当 課 係	教育課題研修課 健康教育研修係					
研 修 目 的	各学校における交通安全教育、防犯教育及び防災教育・災害時の心の健康に関する教員等の研修を行い、安全教育指導者の資質の向上を図り、もって学校安全の充実に資するように、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の校長、教頭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者					
開 催 期 日	平成17年 5月30日（月）～平成17年 6月 3日（金）			5日間		
受 講 人 数	計画人数	215 人	受講者数	198 人	参加率	92.1%
開 催 場 所	独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター、明治公園他					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	65 47.1	72 52.2	1 0.7	0 0.0	13

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・改めて学校での取り組み、自分自身の考え方等を振り返ることができました。 ・すべての講義・講演が解決に向けてのヒントになり、助言をいただいたように感じました。 ・子どもの命を守るという最も大切な分野の研修なので、ぜひ本研修を充実させて欲しい。 ・5日間の研修日程は長く、参加しにくい。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・開催回数を見直した（年2回→年1回）。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度各地域における学校安全の基盤となる指導者の養成を目的とした研修日程一覧

会場	9:30	10:30	12:00	13:00	14:30	15:00	17:00	
5月30日(月)	国際会議室 国際交流棟	開会式 受付	講義・演習 「学校における安全管理の 考え方、進め方」 文部科学省スポーツ・青少年局 体質改善官 田芳雄 【衛星配信予定】	昼食 休憩	講義・演習 「学校における安全管理の方法」 ～学校への不審者侵入を中心～ 関西福祉科学大学 南教授 【衛星配信予定】	演習 「学校への不審者侵入時の対応の方法」 ～学校への不審者侵入を中心～ 防犯避難訓練実施のノウハウ 島根県雲南町立二丁目小学校 校長 木次 勝義	17:00	
5月31日(火)	千寿小学校 足立区立	講義・演習 「事件・事故時における 子どもの心の健康」 宮城麻子 所長 本間 博彰	休憩	講義・演習(実技) 「事件・事故時の応急手当 ～止血法・心肺蘇生法等～」 日本赤十字社東京都支部 救急指導員	17:00			
6月1日(水)	部会会場 小ホール 第一三 入場券七 明公道	講義・演習 「幼稚園・小学校部会」 「危険予知学習の進め方」 (財)交通安全教育普及協会 青少年課 副委員長 井井 祥行 講師 石毛 昭治 指導員 小川 和久 大石 進 助教授 指導員 大石 進 神奈川県教育庁保健体育課	講義・演習 「危険予知学習の進め方」 (財)交通安全教育普及協会 青少年課 副委員長 井井 祥行 講師 石毛 昭治 指導員 小川 和久 大石 進 助教授 指導員 大石 進 神奈川県教育庁保健体育課	講義・演習(実技) 「二輪車の特性と安全指導」 日本大学 教授 岡野 道治 (社)全国二輪車安全普及協会 指導員	講義・演習(実技) 「自転車の特性と美技指導の進め方」 (財)日本交通安全教育普及協会 主幹 石毛 昭治 小林 博 他 指導員7名 (財)日本サイクリング協会 業務第一部次長 指導員	演習(協議) 「自転車の特性と美技指導の進め方」 (財)日本交通安全教育普及協会 主幹 石毛 昭治	17:00	
6月2日(木)	国際会議室 国際交流棟	講義・演習 「事例による学校事故の 責任と補償」 千葉大学大学院 教授 小賀野 晶一	講義・演習 「事例による学校事故の 責任と補償」 NHK放送用語委員会 専門委員 宮澤 清治	昼食 休憩	講義・演習 「地震による災害の危険と安全確保の方法」 日本大学文理学部 助教授 中森広道	講義・演習 「総合的な学習の時間における安全 (防犯・防災)教育の進め方」 専門教育大学 教授 村川 雅弘	17:00	
6月3日(金)	部会会場 404 センター棟 国際会議室 国際交流棟 国際交流棟 センター棟 415 センター棟	研究発表・研究協議 「家庭・地域社会と連携した学校での安全教育の進め方」 発表者(3名) 防犯・生活安全 島根県立山形高等学校 教諭 湯川秀樹 交通安全 島根県立山形高等学校 教諭 湯川秀樹 文部科学 島根県立山形高等学校 教諭 湯川秀樹 島根県立山形高等学校 教諭 湯川秀樹	研究発表・研究協議 「家庭・地域社会と連携した学校での安全教育の進め方」 発表者(3名) 防犯・生活安全 東京都立東大田高等学校 教諭 藤原三巳 交通安全 東京都立東大田高等学校 教諭 藤原三巳 文部科学 東京都立東大田高等学校 教諭 藤原三巳	研究発表・研究協議 「家庭・地域社会と連携した学校での安全教育の進め方」 発表者(3名) 防犯・生活安全 東京都立東大田高等学校 教諭 藤原三巳 交通安全 東京都立東大田高等学校 教諭 藤原三巳 文部科学 東京都立東大田高等学校 教諭 藤原三巳	研究発表・研究協議 「家庭・地域社会と連携した学校での安全教育の進め方」 発表者(3名) 防犯・生活安全 東京都立東大田高等学校 教諭 藤原三巳 交通安全 東京都立東大田高等学校 教諭 藤原三巳 文部科学 東京都立東大田高等学校 教諭 藤原三巳	研究発表・研究協議 「家庭・地域社会と連携した学校での安全教育の進め方」 発表者(3名) 防犯・生活安全 東京都立東大田高等学校 教諭 藤原三巳 交通安全 東京都立東大田高等学校 教諭 藤原三巳 文部科学 東京都立東大田高等学校 教諭 藤原三巳	研究発表・研究協議 「家庭・地域社会と連携した学校での安全教育の進め方」 発表者(3名) 防犯・生活安全 東京都立東大田高等学校 教諭 藤原三巳 交通安全 東京都立東大田高等学校 教諭 藤原三巳 文部科学 東京都立東大田高等学校 教諭 藤原三巳	17:00

I 研修概要

研 修 名	産業教育、理科教育において指導的立場にある教員の派遣研修					
担 当 課 係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係					
研 修 目 的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、産業教育・理科教育に関して優れた自主的調査研究課題を有する者について、大学又は産業教育・理科教育に関する研修を行うにふさわしい施設に派遣し、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術等を修得させ、もって産業教育・理科教育担当教員の資質を向上し、その指導力の強化を図ることを目的とする。					
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、盲学校、聾学校及び養護学校の産業教育又は理科教育を担当している教職員並びに教育行政機関において産業教育又は理科教育を担当している職員とする。					
開 催 期 日	年間を通して（3ヶ月、6ヶ月、12ヶ月）					
受 講 人 数	計画人数	155 人	受講者数	113 人	参加率	72.9%
開 催 場 所	北海道大学 他					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	78 76.5	24 23.5	0 0.0	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・企業の実態を知ること、どの様な生徒を育成しなければならないかという自分自身の目標が発見できたと思う。また、職務を行う上で企業的な考え方を役立てていけると考える。</p> <p>・役立つからこそ、また研究を進めるスタンスが教員になれば、有効な授業は行えません。1つの教材、内容にしてもそのバックボーンを形成するため、常に新たな知識、体験を積み重ねるのに、優れた大学教官は必要不可欠なアドバイザーです。</p> <p>研究内容については、土木教科、社会基盤工学の内容に沿うものであり、その分野の内容を研究したことで教科書の内容も含め、時代背景や今後の展望も指導できるようになった。更に現在行われている技術や工法なども詳細にわたり指導できるようになった。</p> <p>・理科教育の研修として、環境問題とエネルギー問題に関する調査研究を行いました。大学で展開されている先端研究に触れることができ、また、それを中等教育の現場で活用するための協力体制（人脈、コネクション）を拡げることができた。</p> <p>・教科について専門的な研究をしている大学で学ぶということは、教科力を付けることや、これから教科がどういう方向に進んでいくのかということを考えることができるので、今後の授業に生かしていくことができると考えます。</p> <p>・授業の組み立てや職務への取り組み意識の変化および多様化。</p> <p>・外部と連携した指導方法への取り組み。</p> <p>・研修で得た知識や資料が学校教育に生きている。授業においても生徒の姿勢が変わって来ています。学校関係者以外に企業の社会人と生活を共にすることにより視野が広がった様な気がします。</p> <p>・専門職としての資質向上を図るための研究を深め、教師としての自己を見つめ直し、広い視野に立った研修の充実が出来、これらが現場に戻ったときに生かせると確信する。</p> <p>・常に最先端の研究について教材研修をしなければならない意識と自覚が生まれ、教員として教える立場でどうあるべきかを学んだ。教員としての姿勢や専門性の深化を向上、進めることができ大変役に立つ研修であった。</p>

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・産業教育と理科教育を統合した。 ・指導力の強化を図るため、教員養成系大学等の教員との連携協力をさらに強め、研修内容を充実した。 ・実施経費の派遣者負担を導入した。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度 産業教育, 理科教育において指導的立場にある教員の派遣研修一覧

No	都道府県	派遣人数	派遣元		派遣先		期間
			所 属	派 遣 先	派 遣 時 期		
1	北海道	2	北海道千歳北陽高等学校	北海道大学	平成17年10月1日 ~ 平成18年3月31日	6ヶ月	
			北海道旭川西高等学校	北海道大学	平成17年5月1日 ~ 平成18年3月31日	11ヶ月	
2	青森県	1	青森県立三本木農業高等学校	日本大学	平成17年9月1日 ~ 平成17年11月30日	3ヶ月	
3	岩手県	1	岩手県西磐井郡花泉町立花泉北中学校	岩手大学	平成17年9月1日 ~ 平成17年11月30日	3ヶ月	
4	宮城県	4	宮城県農業高等学校	東北大学院	平成17年9月1日 ~ 平成18年2月28日	6ヶ月	
			宮城県古川工業高等学校	東北大学院	平成17年9月1日 ~ 平成18年2月28日	6ヶ月	
			宮城県塩竈市立第二中学校	東北大学	平成17年9月1日 ~ 平成18年2月28日	6ヶ月	
			宮城県宮城郡七ヶ浜町立七ヶ浜中学校	東北大学院	平成17年9月1日 ~ 平成18年2月28日	6ヶ月	
5	秋田県	2	秋田県男鹿市立潟西中学校	秋田大学	平成17年5月1日 ~ 平成17年7月31日	3ヶ月	
			秋田県秋田市立日新小学校	秋田大学	平成17年7月1日 ~ 平成17年12月31日	6ヶ月	
6	山形県	2	山形県立山形工業高等学校	山形県立産業技術短期大学校	平成17年7月1日 ~ 平成17年9月30日	3ヶ月	
			山形県立東根工業高等学校	専門学校仙台台カレッジオブデザイン	平成17年4月1日 ~ 平成17年9月30日	6ヶ月	
7	福島県	5	福島県立相馬農業高等学校	独立行政法人食品総合研究所	平成17年4月1日 ~ 平成18年3月31日	12ヶ月	
			福島県立勿来工業高等学校	東京工業大学	平成17年4月1日 ~ 平成18年3月31日	12ヶ月	
			福島県立会津高等学校	福島大学	平成17年7月1日 ~ 平成17年12月27日	6ヶ月	
			福島県立岩瀬農業高等学校	福島大学	平成17年7月1日 ~ 平成17年12月27日	6ヶ月	
			福島県郡山市立大槻中学校	福島大学	平成17年7月1日 ~ 平成17年12月27日	6ヶ月	
10	群馬県	1	群馬県立桐生高等学校	群馬社会福祉大学	平成17年4月1日 ~ 平成18年3月31日	12ヶ月	
11	埼玉県	1	埼玉県立常盤高等学校	精神医学研究所附属東京武蔵野病院	平成17年4月1日 ~ 平成17年9月30日	6ヶ月	
13	東京都	1	東京都立足立養護学校	横河ファウンドリー株式会社	平成17年4月1日 ~ 平成17年9月30日	6ヶ月	
14	神奈川県	7	神奈川県立商工高等学校	一橋大学	平成17年4月1日 ~ 平成18年3月31日	12ヶ月	
			神奈川県立横須賀工業高等学校	東京工業大学	平成17年4月1日 ~ 平成18年3月31日	12ヶ月	
			神奈川県立瀬谷西高等学校	横浜国立大学	平成17年5月1日 ~ 平成17年12月11日	8ヶ月	
			神奈川県立希望ヶ丘高等学校	横浜国立大学	平成17年5月1日 ~ 平成17年12月11日	8ヶ月	
			神奈川県立希望ヶ丘高等学校	横浜国立大学	平成17年5月1日 ~ 平成17年12月11日	8ヶ月	
			神奈川県立川崎高等学校	横浜国立大学	平成17年5月1日 ~ 平成17年12月11日	8ヶ月	
			神奈川県津久井郡藤野町立藤野小学校	横浜国立大学	平成17年5月1日 ~ 平成17年12月11日	8ヶ月	
16	富山県	2	富山県立富山北部高等学校	富山大学	平成17年6月1日 ~ 平成17年11月30日	6ヶ月	
			富山県立富山南高等学校	お茶の水女子大学	平成17年10月1日 ~ 平成17年12月31日	3ヶ月	
17	石川県	3	石川県立小松商業高等学校	金沢星陵大学	平成17年4月1日 ~ 平成18年3月31日	12ヶ月	
			石川県立中島高等学校	金沢大学	平成17年4月1日 ~ 平成18年3月31日	12ヶ月	
			石川県白山市立白峰小学校	金沢大学	平成17年4月1日 ~ 平成18年3月31日	12ヶ月	
19	山梨県	4	山梨県立身延高等学校	山梨大学	平成17年4月1日 ~ 平成18年3月31日	12ヶ月	
			山梨県甲府市立南中学校	山梨大学	平成17年4月1日 ~ 平成18年3月31日	12ヶ月	
			山梨県立甲府西高等学校	山梨大学	平成17年4月1日 ~ 平成18年3月31日	12ヶ月	
			山梨県甲府市立北西中学校	山梨大学	平成17年4月1日 ~ 平成18年3月31日	12ヶ月	

No	都道府県	派遣人数	派遣元		派遣先		期間
			所 属	所 属	派 遣 先	派 遣 時 期	
20	長野県	6	長野県長野工業高等学校	信州大学	信州大学	平成17年5月1日～平成18年3月31日	11ヶ月
			長野県木曾高等学校	信州大学	信州大学	平成17年5月1日～平成18年3月31日	11ヶ月
			長野県松本工業高等学校	信州大学	信州大学	平成17年8月1日～平成18年3月31日	8ヶ月
			長野県松本工業高等学校	信州大学	信州大学	平成17年5月1日～平成18年3月31日	11ヶ月
			長野県松本筑摩高等学校	信州大学	信州大学	平成17年5月1日～平成18年3月31日	11ヶ月
			長野県上田市立川西小学校	信州大学	信州大学	平成17年5月1日～平成18年3月31日	11ヶ月
21	岐阜県	1	岐阜県立明智商業高等学校	明智町商工会	明智町商工会	平成17年11月1日～平成18年1月31日	3ヶ月
22	静岡県	4	静岡県立沼津工業高等学校	武蔵工業大学	武蔵工業大学	平成17年10月1日～平成18年3月31日	6ヶ月
			静岡県浜松市立曳馬中学校	静岡大学	静岡大学	平成17年4月1日～平成17年9月30日	6ヶ月
			静岡県三島市立山田中学校	静岡大学	静岡大学	平成17年10月1日～平成18年3月31日	6ヶ月
			島田学園高等学校	独立行政法人雇用・能力開発機構 東海職業能力開発大学校附属浜松職業能力開発短期大学校	独立行政法人雇用・能力開発機構 東海職業能力開発大学校附属浜松職業能力開発短期大学校	平成17年4月7日～平成18年3月17日	12ヶ月
23	愛知県	2	愛知県立岡崎東高等学校	名古屋大学	名古屋大学	平成17年7月19日～平成17年12月28日	6ヶ月
			愛知県立知立高等学校	愛知教育大学	愛知教育大学	平成17年6月1日～平成17年11月30日	6ヶ月
25	滋賀県	1	滋賀県立彦根工業高等学校	滋賀県立大学	滋賀県立大学	平成17年5月1日～平成18年3月31日	11ヶ月
26	京都府	2	京都府立立田辺高等学校	京都大学	京都大学	平成17年4月1日～平成18年3月31日	12ヶ月
			京都府亀岡市立東輝中学校	京都大学	京都大学	平成17年4月1日～平成18年3月31日	12ヶ月
27	大阪府	1	大阪府立淀川工業高等学校	松下電池工業株式会社	松下電池工業株式会社	平成17年4月1日～平成18年3月31日	12ヶ月
29	奈良県	3	奈良県香芝市真美ヶ丘東小学校	奈良教育大学	奈良教育大学	平成17年6月1日～平成18年3月31日	10ヶ月
			奈良県吉野郡下市町立下市中学校	奈良教育大学	奈良教育大学	平成17年6月1日～平成18年3月31日	10ヶ月
			奈良県奈良市立一条高等学校	奈良女子大学	奈良女子大学	平成17年4月1日～平成18年3月31日	12ヶ月
30	和歌山県	1	和歌山県立紀北農芸高等学校	独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構	独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構	平成17年4月1日～平成18年3月31日	12ヶ月
32	島根県	2	島根県立松江工業高等学校	島根大学	島根大学	平成17年4月1日～平成18年3月31日	12ヶ月
			島根県立松江農林高等学校	南九州大学	南九州大学	平成17年4月1日～平成18年3月31日	12ヶ月
33	岡山県	2	岡山県立興陽高等学校	岡山大学	岡山大学	平成17年4月1日～平成18年3月31日	12ヶ月
			岡山県立東岡山工業高等学校	岡山大学	岡山大学	平成17年4月1日～平成18年3月31日	12ヶ月
34	広島県	1	広島県立河内高等学校	広島酔水調理師専門学校	広島酔水調理師専門学校	平成17年4月1日～平成18年3月31日	12ヶ月
35	山口県	4	山口県立宇部西高等学校	㈱アーバンデザインコンサルタント	㈱アーバンデザインコンサルタント	平成17年7月1日～平成17年9月30日	3ヶ月
			山口県立南陽工業高等学校	東ソー株式会社周南事業所	東ソー株式会社周南事業所	平成17年7月1日～平成17年9月30日	3ヶ月
			宇部市立桃山中学校	山口大学	山口大学	平成17年12月1日～平成18年2月28日	3ヶ月
			山口県立熊毛南高等学校	山口大学	山口大学	平成17年9月1日～平成17年11月30日	3ヶ月
36	徳島県	2	徳島県立富岡東高等学校	徳島大学	徳島大学	平成17年12月1日～平成18年1月31日	2ヶ月
			徳島県立小松島西高等学校	学校法人平成学園平成調理師専門学校	学校法人平成学園平成調理師専門学校	平成17年4月1日～平成18年3月31日	12ヶ月
37	香川県	2	香川県立多度津工業高等学校	四国職業能力開発大学校	四国職業能力開発大学校	平成17年7月1日～平成17年9月30日	3ヶ月
			香川県立観音寺中央高等学校	学校法人北川学園 キッス調理技術専門学校	学校法人北川学園 キッス調理技術専門学校	平成17年4月1日～平成18年3月31日	12ヶ月

No	都道府県	派遣人数	派遣元		派遣先		期間
			所 属	所 属	派 遣 先	派 遣 時 期	
39	高知県	6	高知県立幡多農業高等学校	東京農業大学	平成17年4月1日～平成17年9月30日	6ヶ月	
			高知県立高知工業高等学校	宮地電気株式会社	平成17年4月1日～平成17年9月30日	6ヶ月	
			高知県立高知工業高等学校	株式会社隆芸	平成17年4月1日～平成17年9月30日	6ヶ月	
			高知県立伊野商業高等学校	高知情報ビジネス専門学校	平成17年10月1日～平成18年3月31日	6ヶ月	
			高知県立高知東高等学校	高知女子大学	平成17年4月1日～平成17年9月30日	6ヶ月	
			高知県立高知東高等学校	高知女子大学	平成17年10月1日～平成18年3月31日	6ヶ月	
40	福岡県	2	福岡県立門司商業高等学校	九州大学	平成17年4月1日～平成18年3月31日	12ヶ月	
			福岡県立山門高等学校	熊本大学	平成17年4月1日～平成18年3月31日	12ヶ月	
41	佐賀県	9	佐賀県立牛津高等学校	中村調理製菓専門学校	平成17年4月1日～平成18年3月31日	12ヶ月	
			佐賀県立嬉野高等学校	大原簿記情報専門学校	平成17年4月1日～平成17年9月30日	6ヶ月	
			佐賀県立鳥栖商業高等学校	大原簿記情報専門学校	平成17年4月1日～平成17年9月30日	6ヶ月	
			佐賀県立佐賀農業高等学校	大高測量設計有限会社	平成17年9月1日～平成18年2月28日	6ヶ月	
			佐賀県立唐津工業高等学校	学校法人コア学園 唐津コンピュータ専門学校	平成17年4月1日～平成17年9月30日	6ヶ月	
			佐賀県立鹿島実業工業高等学校	香蘭女子短期大学	平成17年4月1日～平成17年9月30日	6ヶ月	
			佐賀県立伊万里商業高等学校	石井物産株式会社	平成17年4月1日～平成17年9月30日	6ヶ月	
			佐賀県西松浦郡西有田町立西有田中学校	佐賀大学	平成17年10月1日～平成18年3月1日	6ヶ月	
			佐賀県多久市立東部中学校	佐賀大学	平成17年10月1日～平成17年12月31日	3ヶ月	
43	熊本県	6	熊本県熊本市立帯山中学校	熊本大学	平成17年4月1日～平成18年3月31日	12ヶ月	
			熊本県西合志町立西合志南中学校	熊本大学	平成17年4月1日～平成18年3月31日	12ヶ月	
			熊本県八代市立第二中学校	熊本大学	平成17年4月1日～平成18年3月31日	12ヶ月	
			熊本県立菊池高等学校	熊本県立教育センター	平成17年10月1日～平成18年3月31日	6ヶ月	
			熊本県立御船高等学校	熊本大学	平成17年4月1日～平成18年3月31日	12ヶ月	
			熊本県立八代工業高等学校	熊本県立技術短期大学校	平成17年4月1日～平成17年9月30日	6ヶ月	
44	大分県	7	大分県立情報科学高等学校	大分大学	平成17年4月1日～平成18年3月31日	12ヶ月	
			大分県立大分工業高等学校	大分大学	平成17年4月1日～平成18年3月31日	12ヶ月	
			大分県立三重農業高等学校	大分県温泉熱花き研究指導センター	平成17年4月1日～平成18年3月31日	12ヶ月	
			大分県中津市立小楠小学校	九州工業大学	平成17年4月1日～平成18年3月31日	12ヶ月	
			大分県臼杵市立上浦小学校	大分大学	平成17年4月1日～平成18年3月31日	12ヶ月	
			大分県立大分東高等学校	大分大学	平成17年4月1日～平成18年3月1日	12ヶ月	
			大分県立舞鶴高等学校	琉球大学	平成17年4月1日～平成18年3月31日	12ヶ月	
45	宮崎県	1	宮崎県立日南工業高等学校	宮崎大学	平成17年10月1日～平成17年12月28日	3ヶ月	
1	札幌市	3	北海道札幌平岸高等学校	北海道大学	平成17年5月1日～平成17年12月31日	8ヶ月	
			北海道札幌清田高等学校	北海道大学	平成17年5月1日～平成18年2月28日	10ヶ月	
			北海道札幌旭丘高等学校	北海道大学	平成17年5月1日～平成18年3月31日	11ヶ月	

No	都道府県	派遣人数	派遣元	派遣先		期間
			所属	派遣先	派遣時期	
6	横浜市	7	神奈川県横浜市立中田中学校	横浜国立大学	平成17年5月1日～平成17年12月11日	8ヶ月
			神奈川県横浜市立大綱中学校	横浜国立大学	平成17年5月1日～平成17年12月11日	8ヶ月
			神奈川県横浜市立南瀬谷中学校	横浜国立大学	平成17年5月1日～平成17年12月11日	8ヶ月
			神奈川県横浜市立中和田中学校	横浜国立大学	平成17年5月1日～平成17年12月11日	8ヶ月
			神奈川県横浜市立金沢高等学校	横浜国立大学	平成17年5月1日～平成17年12月11日	8ヶ月
			神奈川県横浜市立戸塚高等学校	横浜国立大学	平成17年5月1日～平成17年12月11日	8ヶ月
			神奈川県横浜市立戸部小学校	横浜国立大学	平成17年5月1日～平成17年12月11日	8ヶ月
9	大阪市	1	大阪府大阪市立天王寺商業高等学校	大阪府立大学	平成17年4月1日～平成18年3月31日	12ヶ月
38	奈良女子大学	1	奈良女子大学附属中等教育学校	奈良女子大学	平成17年4月1日～平成18年3月31日	12ヶ月
合計		113				

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修 (新産業技術等指導者養成講習) 高等学校農業 (A-1)		
担 当 課 係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係		
研 修 目 的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。		
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭		
開 催 期 日	平成17年 8月 1日 (月) ~平成17年 8月 5日 (金)	5日間	
受 講 人 数	計画人数	30 人	受講者数 13 人 参加率 43.3%
開 催 場 所	専門学校東京テクニカルカレッジ		

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	10 76.9	3 23.1	0 0.0	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・第一線で活躍されている諸先生方のなまの講義を受けることができたのはとても刺激的だった。 ・体験することは理解しやすいとあらためて感じた。 ・「植物バイオ」の教科書にも遺伝子組換えの項目があるが、授業・実験では座学中心であり、実験もDNAの抽出にとどまっていた。今回の研修で学校でももう一步踏み込んだ授業や実験を展開していきたいと思う。 ・生物担当教員が受講出来れば、授業の幅が広がりさらによいと思う。 <p>現在の日本の先端技術や内容を体験できたり、聞いたりできて、自分自身を高めることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次のステップとして動物バイオ、微生物バイオそれぞれの分野での研修があるとありがたいと思います。 ・1日目の講義ですが、内容に重複した部分が多く、難解であった。1講師、1時間30分ぐらいで農業に関する分野をもっと含んで欲しかった。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・実施経費の派遣者負担を導入した。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修 (新産業技術等指導者養成講習) 高等学校農業 (A-2)					
担 当 課 係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係					
研 修 目 的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭					
開 催 期 日	平成17年 8月 8日 (月) ~平成17年 8月12日 (金)	5日間				
受 講 人 数	計画人数	30 人	受講者数	28 人	参加率	93.3%
開 催 場 所	東京農業大学					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答
人数 (人)	割合 (%)	18; 69.2	8; 30.8	0; 0.0	0; 0.0	2;

2. 研修内容に関する主な意見

- ・プログラミング演習が特に勉強になった。
- ・今まで行ってきた交流活動の価値を再認識し、新たな可能性を探り、今後も生物活用に取り組む場合の礎になった研修だと思う。
- ・各講義の内容はとても素晴らしいが1日の授業量が多く、記録が十分にとれなかった。
- ・療法的な活用について多くの時間を割いての講義ありがたく思います。
- ・研修の9割程度が「園芸療法」についてであり、教科の中の1つの単元にこだわりすぎていたように思う。もっと全体をとおした内容であれば生物活用の教科に関する研修であると認識できたように思う。
- ・実際に園芸療法をとり入れている施設等の研修ができれば、と思いました。
- ・実際に、園芸福祉を行う対象としている施設など、ふだん行く事ができないので見学もしたい。
- ・現場実習等があれば、研修の効果も更に深まるのではないかと思います。

III 研修内容・方法の見直し等

- ・実施経費の派遣者負担を導入した。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

(教科名・農業、研修番号・A-2)

団体名 全国農業高等学校長協会

日	時	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
8月8日(月)	9:00	受付・集合	開校式・オリエンテーション	生物活用の動向と新学習指導要領における学習展開	生物活用の学習・園芸療法と園芸福祉	生物活用の学習・園芸療法と園芸福祉	自己紹介・活動紹介	自己紹介・活動紹介	
8月9日(火)	9:00	交流活動のいろいろ	交流活動の進め方		交流活動の実際	高齢者の心理、身体状況、予防介護		幼児・児童の心理、活動	
8月10日(水)	9:00	園芸の療法的な活用・対象の事前評価と目標設定	植物の選択	作業の分析と効果	プログラミング演習		評価方法		
8月11日(木)	9:00	生徒の評価・観測点別評価・園芸療法士資格制度の動向	園芸福祉士の資格取得導入		大学・短大における園芸療法・園芸福祉に関する教育			専門学校における園芸療法に関する教育	専門学校における園芸療法に関する教育
8月12日(金)	9:00	養護学校における園芸と交流活動	生物活用・新しい授業展開の可能性		生物活用の展望・ディスカッション	閉校式			

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修 (新産業技術等指導者養成講習) 高等学校工業 (B-1)		
担 当 課 係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係		
研 修 目 的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。		
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭		
開 催 期 日	平成17年 8月22日 (月) ~ 平成17年 8月26日 (金)	5日間	
受 講 人 数	計画人数	30 人	受講者数 36 人 参加率 120.0%
開 催 場 所	ものづくり大学		

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	13 36.1	22 61.1	1 2.8	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

・ 全体的にもものづくりに関する最新の技術を広く浅く学び知る事ができた。資料もたくさん頂き大変有意義な研修であった。

・ 内容としては期待以上のものがあり、各分野の最先端の内容を知ることができ有意義だった。

・ 製造学科、建設学科の先生方の講義、実習により、工業全体の科目を学習させて頂き、幅広い知識が身についたと思います。

・ 1日目の学長の講演は感銘を受けました。

・ 他分野の最先端の産業技術に触れて、見て、感じる事ができたことも、自分にとって大きな財産になりました。

・ 自分の専門でない分野があるので、できれば事前にテキスト、参考文献の紹介、インターネットの参考考URL等を配布するか、お知らせいただけると、もっと理解度が増すと思いました。

・ 今回の研修では、機械系・土木建築系の2つがテーマであったが、どちらかに絞って行なった方がよかったのではないかと。他科の先生や講義を聞くことはよいと思うが、専門用語などの点で問題があり、講師の先生もお困りの様子ではないでしょうか。

・ 各都道府県の現状をディスカッションしても良いのでは。

・ 施設、設備が整っているのが、実技・実習の時間がもう少し多くても良かったと思います。(その場合はもう少し専門性が問われるが)

III 研修内容・方法の見直し等

・ 実施経費の派遣者負担を導入した。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成 17 年度 産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

教科名・研修番号【工業：B-1】

団体名 ものつくり大学

	9:30	10:00	10:30	11:00	12:00	13:00	15:00	17:00	17:30	19:30
8月22日(月)	受付	開講式	講演「工業教育の現状と課題」 文科省	休憩 12時30分	「新時代のものづくり人材」 講演(野村学長)	「新産業技術に求められる人物の育成」 講義 (宮本)	休憩	懇親会		
8月23日(火)	製造学科施設見学 (市川・藤沢・高橋)	「先端製造技術の概論」 講義 (神谷学部長)		休憩	「創造プロジェクト」 授業の狙いと成果 講義 (東江)	同左 学生発表				
8月24日(水)	①ものづくりのためのCAE技術及び演習(野村) ②最新CAD/CAMの理論と実習(藤沢) ③高度計測理論及び実習(高橋) ④数値制御プログラミングの基礎と炭酸ガスレーザー加工演習(東江)	休憩	⑤最近の制御理論及び実習(ピチャイ) ⑥塑性加工の理論及び実習(市川)	休憩	同左					
8月25日(木)	建設学科施設見学 (飛内・坂口・中田)	「建築物の新しい構工法」 講義 (坂口)		休憩	高強度・高流動コンクリートの技術 講義・実習 (中田・澤本)					
8月26日(金)	「歴史的建造物の保存・技術」 講義 (横山)	休憩	「建設先端材料の利用技術」 講義 (北條)	閉講式						

11:00~11:10 12:40~13:10

* 24日については、午前と午後のコースを希望により組み合わせさせてクラスわけを行い実施する。

研修実施場所 埼玉県行田市前谷 333
ものつくり大学

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修 (新産業技術等指導者養成講習) 高等学校工業 (B-2)		
担 当 課 係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係		
研 修 目 的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。		
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭		
開 催 期 日	平成17年 8月15日 (月) ~平成17年 8月19日 (金)	5日間	
受 講 人 数	計画人数	30 人	受講者数 21 人 参加率 70.0%
開 催 場 所	富士ソフトABC株式会社 東京オフィス2F		

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	9 42.9	12 57.1	0 0.0	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段、高校で生徒に教えている内容としては、高度なレベルの研修だったと思いますが、自分自身の知識を高めていく上で大変有意義なものであったと思います。 ・ 講義、実習とも非常に厳選されており、最新の情報を提供して頂き、大変感謝しております。高校生にも、この様な情報を提供し、意識の向上につとめたいと思います。 ・ 民間の業界の最近の動向や技術動向を知ることができて良かった。自分が学校で生徒に教える内容が、どのような発展的用途があるかという視野を持つことができました。 ・ 技術内容について受講者のレベルを考えた方がよいと思います。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施経費の派遣者負担を導入した。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

(工業：B-2) 貴団体名 富士ソフトABC株式会社

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
8月15日 (月)					受付	開校式	(講演) 文部科学省 池守調査官	(講義) 情報産業最新動 向について	
8月16日 (火)	(講義) CAE概論			昼休み	(講義) CAE概論				
8月17日 (水)	(講義/実習) 数式処理Maple			昼休み	(講義/実習) 有限要素法ソフトウェアANSYS				
8月18日 (木)	(講義) プログラミング概要 JAVAプログラムから学ぶ言語			昼休み	(実習) プログラミング実習 初心者向けJAVAプログラミング実習				
8月19日 (金)	(見学) ソフトウェア開発現場視察 (横浜桜木町本社ビル)		閉校式						

研修実施場所： 富士ソフトABC東京ビル
富士ソフトABC本社ビル

(注) 別紙記入例を参考に、なるべくワープロにより記入くださるようお願いいたします。

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修 (新産業技術等指導者養成講習) 高等学校商業 (C-1)					
担 当 課 係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係					
研 修 目 的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭					
開 催 期 日	平成17年 7月25日 (月) ~平成17年 7月29日 (金)	5日間				
受 講 人 数	計画人数	20 人	受講者数	14 人	参加率	70.0%
開 催 場 所	千葉商科大学					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	2 14.3	11 78.6	0 0.0	1 7.1	0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員として研修になったことも多いが、1人の社会人として保険や証券の講義は、とても興味深く聞かせていただきました。 ・ 実習は学校で生徒に実際に行わせてみたいものばかりで、2学期に授業をするのがとても楽しみに感じました。 ・ 商品に関する実習はとても勉強になりました。 ・ ディスカッションの場面があってもいいと思います。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施経費の派遣者負担を導入した。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

(商業、C-1)

受託団体名 全国商業高等学校長協会

月日	午後	午前	午後
(曜日)	9:00 9:30	10:00 12:00	13:00 14:00 15:00 16:00 17:00
7月25日 (月)		開 講 式 (講義) 「変革の時代におけるビジネス教育」	(講義) 「流通業界の新たな変革と今後の方向」 (大学内見学) 懇親会
7月26日 (火)	(講義) 「サッカー」リーグはなぜ成功したか		(実習) 「商品に関する実習」 ①商品のソフト化と消費技術 ②商品に関する実習の実験実習の利用
7月27日 (水)	(企業・マーケティング実務見学) (ららぽーと船橋・三井不動産) ＜見学と講義・質疑応答＞		移動 (見学) 貨幣博物館 見学 日銀見学と講義
7月28日 (木)	(講義) 「証券の基礎知識」		(講義) 「我が国の信託業務の現状と信託銀行の役割」 (講義) 「損害保険の基礎知識」
7月29日 (金)	(講義) 「生命保険の基礎知識」		(講義) 「商品開発のケーススタディ」 閉講式

実施場所 千葉商科大学

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修 (新産業技術等指導者養成講習) 高等学校商業 (C-2)		
担 当 課 係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係		
研 修 目 的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。		
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭		
開 催 期 日	平成17年 8月 1日 (月) ~平成17年 8月 5日 (金)	5日間	
受 講 人 数	計画人数	40 人	受講者数 36 人 参加率 90.0%
開 催 場 所	一橋大学		

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	22 66.7	11 33.3	0 0.0	0 0.0	3

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・商業の各分野の先端的な説明が聞けて大変に勉強になりました。それと同時に様々な機会を利用して勉強していくということも改めて認識させられました。 ・MBAコースの授業スタイルで、とても楽しく、自分の考えも発言させて頂き大変よい企画であると思いました。 ・全般的に最先端の講義内容であり、本研修に参加して大変よかったです。たくさんの資料をご用意頂きありがとうございました。事務局の皆様にも感謝いたします。 ・2年続けて参加しているが、約半分が昨年と同じような内容・講師である。同じ講義を2度拝聴することにより知識が定着する利点はあるが、最先端の研究を拝聴する機会はなかなかないので内容を事前に公開していただくなどの配慮がほしかった。 ・非常に内容が充実していた。特に企業に勤務されていた先生方のお話は、事例も豊富で大変ためになりました。授業で生徒に伝えられたらと考えています。当たり前のように使っていた言葉の意味の真意やなぜそうなのかを深く追求することの大切さを先生方の講義より改めて実感させられました。研修をとおして、各県の高校の先生方と知り合えたことも今後の教育活動に生かしていきたいです。 ・大変感謝しております。担当された教授・助教授の方の経歴をお聞きすると、理工系出身の方がおられる事には驚きました。それだけ商学の分野が多岐に渡り、それぞれに高い専門性が必要とされていることの表れであると思います。各講義とも、大変高度な内容であり、一見すると商業高校生とが学んでいる内容とはかけ離れているように感じられますが、高校で学んでいる学習項目を基礎に発展させた内容であり高校生が商業科専門科目を学ぶ意義を再認識することができました。今回の研修内容は、授業において教材として用いることのできるものも多く、大変有意義でありました。今後は高校生向けの教材にできるよう研究していきたいと思っております。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・実施経費の派遣者負担を導入した。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

(商業, C-2)

一橋大学

日時	9:30	10:00	10:30	12:30	13:30	16:30
8/1(月)	受付	開講式	講義 I 「Business の新しい研究・教育について」 一橋大学大学院商学研究科長・教授 山内 弘隆		講義 II 「オブジェクト指向原価計算」 一橋大学大学院商学研究科教授 尾畑 裕	
8/2(火)			講話 「商業教育の課題と動向」 文部科学省初等中等局視学官 吉野 弘一	屋休み	講義 III 「マーケティングのケースメソッド」 一橋大学大学院商学研究科助教授 松井 剛	
8/3(水)			講義 IV 「金融技術について」 一橋大学大学院商学研究科助教授 高岡 浩一郎		講義 V 「企業統治と経営者の役割」 一橋大学大学院商学研究科助教授 田中 一弘	
8/4(木)			講義 VI 「情報技術の進展とビジネス環境」 一橋大学大学院商学研究科教授 山本 秀男		講義 VII 「IT革命とeコマース経営」 一橋大学大学院商学研究科教授 八幡 和彦	
8/5(金)			講義 VIII 「知的財産とイノベーション」 一橋大学イノベーション研究センター長・教授 長岡 貞男	12:00 閉講式		

一橋大学 東キャンパス マーキュリータワー2階

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修 (新産業技術等指導者養成講習) 高等学校水産 (D-1)		
担 当 課 係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係		
研 修 目 的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。		
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭		
開 催 期 日	平成17年 8月 1日 (月) ~平成17年 8月 5日 (金)	5日間	
受 講 人 数	計画人数	15 人	受講者数 11 人 参加率 73.3%
開 催 場 所	独立行政法人 水産総合研修センター 水産工学研究所		

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だ った	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	2 18.2	9 81.8	0 0.0	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・熱意をもって研究に取り組んでおられる方達に何人もお会いできた。研究者と教育者という職種の違いはあっても、仕事に対する姿勢は同じであって学ぶべき点が多かった。又、講義に際しては、行き届いた準備と分かり易い説明が本当に有難かった。生徒に対する指導という面では大変参考になった。</p> <p>・全体を通じてたいへん役に立ちました。内容によっては、高度すぎて、高校生に対して、そのまま利用できないものもありましたが、何らかの形で還元できたらと考えます。他校のいろいろな先生方と交流でき、素晴らしい研修だったと思います。今後も継続して行って欲しいです。</p>

III 研修内容・方法の見直し等

<p>・実施経費の派遣者負担を導入した。</p>

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

(水産, D-1)

貴団体名 独立行政法人 水産総合研究センター

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
8月1日 (月)						受 付	閉 講 式 (講義) 水産政策の変遷と環境研究の動 向		
8月2日 (火)	(講義) 波浪・漂砂・流動お よび低次生産モデル	(講義) 藻場造成・磯焼け対 策・環境調和技術	(講義) 底 層の選 択	昼休み	(見学・実習) 波崎海洋研究施設見学および海洋環境計測実習				
8月3日 (水)	(講義) 漁船 の現 状と 展 望	(講義) 漁網の選 択	(講義) 底 層の選 択	昼休み	(見学) 漁業生産部関係の実験施設見学				
8月4日 (木)	(講義) 音で海を見る	(講義) 魚群行動とその 漁業への影響	(講義) 魚群行動とその 漁業への影響	昼休み	実習(見学) 音響計測(測器電子実験棟)				
8月5日 (金)	(講義) 閉鎖性水域の環境評価手 法	閉 講 式	閉 講 式						

研修実施場所：独立行政法人水産総合研究センター水産工学研究所

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修 (新産業技術等指導者養成講習) 高等学校水産 (D-2)		
担 当 課 係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係		
研 修 目 的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。		
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭		
開 催 期 日	平成17年 8月22日 (月) ~平成17年 8月26日 (金)	5日間	
受 講 人 数	計画人数	15 人	受講者数 8 人 参加率 53.3%
開 催 場 所	茨城県立海洋高等学校		

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	7 87.5	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・この研修を通して日頃なかなか交流を図ることのできない他県の先生方とも交流を図ることができ、各校潜水教育の現状や課題なども聞くことができ大変参考になった。 ・潜水技術を用いた生物調査の実習、潜水障害の実例、具体的な処置の紹介 (図解等) を希望する。</p>

III 研修内容・方法の見直し等

<p>・実施経費の派遣者負担を導入した。</p>

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

(水産, D-2)

全国水産高等学校長協会

日時	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
8月22日 (月)		開講式 和エフエフ 講習会 の説明	休憩	(実習) 心肺蘇生実習	昼休み	(講義・実習) ダイビングにおける水 泳・フィン泳力とスキューバ ダイビングの必要性	休憩	(講義・実習) 潜水計画及び 指導計画 (指導実践)			
23日 (火)		筆記 テスト ①	休憩	(講義) 潜水と身体適応	昼休み	(講義) 潜水物理学	休憩	(実習) 指導実習の 実践			
24日 (水)		筆記 テスト ②	休憩	(講義) 潜水計画と 指導計画 (海況判断)	昼休み	(講義) 潜水医学 減圧症と再圧治療 及びダイビング チェック	休憩	(実習) 個人・集団の 指導及び評価 方法			
25日 (木)		筆記 テスト ③	休憩	(講義) 沿岸漁業調査潜水 の安全確保	昼休み	(講義・実習) 調査潜水実技と 器材 (ビデオ撮影実習)	休憩	(実習) 実技検定① 泳力・スキューバ ダイビング			
26日 (金)		筆記 テスト ④	休憩	(講義・実習) 調査潜水実技 (スチル撮影)	昼休み	(講義) 磯ね潜水調査手法 と生物学 (報告書のまとめ方)	休憩	(実習) 実技検定② スキューバ ダイビング	休憩	閉 講 式	

実施場所：茨城県立海洋高等学校

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修 (新産業技術等指導者養成講習) 高等学校家庭 (E-1)					
担 当 課 係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係					
研 修 目 的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭					
開 催 期 日	平成17年 8月 1日 (月) ~平成17年 8月 5日 (金)	5日間				
受 講 人 数	計画人数	30 人	受講者数	29 人	参加率	96.7%
開 催 場 所	家庭クラブ会館					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だ った	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	17 60.7	10 35.7	1 3.6	0 0.0	1

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・さまざまな分野で大変ご活躍なさってる先生方の講義が受けられ、本当に良い学びとなりました。最先端の、最新の情報を取り入れ、それを生徒に伝えることが、とても大切なことと思いますので、本当に感謝でした。又、全国で頑張っている先生方との交わりを通して、さまざまな情報交換ができ、有意義でした。日々忙しく生徒に指導しておりますが、皆さんから多くのパワーを頂きましたので、地元の先生方にも伝えたいと思います。本当に素晴らしい内容の研修だと思いますので、今後も続いて行われ、多くの先生方を力付けて下さいますよう、期待しております。</p> <p>・来年度はぜひ住分野、ヒューマンサービス (高齢者) 分野を入れていただければ、さらに充実すると思います。</p> <p>・家庭科の専門学科がなくても、専門科目通しての人づくり・ものづくりや教科の中での進路学習として、また、仕事を意識しての専門科目「家庭」を実施してゆくためには参考になりました。しかし、全国的な家庭科を教えている者の現場の状況をリサーチして、より活かせるものにして欲しいです。</p>

III 研修内容・方法の見直し等

<p>・実施経費の派遣者負担を導入した。</p>

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度 産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修

全国高等学校長協会 家庭部会

日 時	9	10	11	12 (12:30)	14 (13:30)	15	16	備考
8月1日 (月) 第1日目	(9:20) 【開講式】 文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 教育課程調査官 望月 昌代	(10:50) (講義) 「『生活産業基礎』の指導方法の工夫」 瑞陵高等学校 教頭 元廣 益枝 「『生活産業基礎』の指導方法の工夫I」 作成と指導方法の工夫I」 (事例発表) 越谷総合技術高等学校 教諭A	(10:50) (講義・演習) 「『生活産業基礎』の指導方法の工夫」 瑞陵高等学校 教頭 元廣 益枝 「『生活産業基礎』の指導方法の工夫I」 作成と指導方法の工夫I」 (事例発表) 越谷総合技術高等学校 教諭A	昼 休 み	(演習・発表・協議) 「『生活産業基礎』の指導計画の作成と指導方法の工夫II」 瑞陵高等学校 教頭 元廣 益枝 (事例発表) 越谷総合技術高等学校 教諭B			
8月2日 (火) 第2日目	(講義) 「社会の変化と産業・職業および雇用の変化」 千葉商科大学 教授 鹿嶋 研之助	(講義) 「インターンシップと進路・履修計画」 千葉商科大学 教授 鹿嶋 研之助	(講義) 「インターンシップと進路・履修計画」 千葉商科大学 教授 鹿嶋 研之助	昼 休 み	(講義・実習・見学) 「一流のサービスタは」 「テーブルマナー、ベッドメイキング」 「正餐のテーブルセッティング」 茂木総支配人、高橋副支配人 近江料理学校 講師 山本 順子			
8月3日 (水) 第3日目	(調理実習) 「西洋料理の基本と新しい料理」 服部栄養専門学校 佐藤 月彦 助手3名	(調理実習) 「西洋料理の基本と新しい料理」 服部栄養専門学校 佐藤 月彦 助手3名	(調理実習) 「西洋料理の基本と新しい料理」 服部栄養専門学校 佐藤 月彦 助手3名	昼 休 み	(講義) 「食育のすすめ」 ～大切なものを失った日本人～ 服部栄養専門学校 服部 幸應			
8月4日 (木) 第4日目	(講義) 「ファッションビジネス業界の仕組み」 文化服装学院 澤谷 目童	(講義) 「7ハ・8ハ・9ハと生産工場」 ～業務内容と仕事の流れ～ 文化服装学院 荒川 佳子 渡井 邦重	(講義) 「7ハ・8ハ・9ハと生産工場」 ～業務内容と仕事の流れ～ 文化服装学院 荒川 佳子 渡井 邦重	昼 休 み	1班 (実習・見学) 「7ハ・8ハ・9ハと生産工場」～工業用設備機器～ 文化服装学院 荒川 佳子 渡井 邦重 澤谷 目童、宇野明美、村上富士子、関間正雄 (講義・施設見学) 「Shop501」, 7アッシュヨリリ-センター等 文化服装学院 澤谷 目童、宇野明美、村上富士子、関間正雄 (実習・見学) 「7ハ・8ハ・9ハと生産工場」～工業用設備機器～ 文化服装学院 荒川 佳子 渡井 邦重			
8月5日 (金) 第5日目	(講義) 「児童家庭福祉と保育にかかわる職業」 上智大学 教授 網野 武博	(講義) 「子育て支援について」 ～いま保育士、幼稚園教諭に求められる資質～ 足立区立おおや幼稚園長 赤坂 榮	(講義) 「子育て支援について」 ～いま保育士、幼稚園教諭に求められる資質～ 足立区立おおや幼稚園長 赤坂 榮	昼 休 み	(講義・協議) 「家庭科における専門性を深めるために」 前岐阜県立大垣桜高等学校長 山本 順子			文部科学省 望月 昌代

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修 (新産業技術等指導者養成講習) 高等学校家庭 (E-2)		
担 当 課 係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係		
研 修 目 的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。		
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭		
開 催 期 日	平成17年 7月25日 (月) ~平成17年 7月29日 (金)	5日間	
受 講 人 数	計画人数	20 人	受講者数 14 人 参加率 70.0%
開 催 場 所	兵庫教育大学大学院神戸サテライト (神戸市)		

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	7 58.3	5 41.7	0 0.0	0 0.0	2

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・ 保育体験学習を数年間授業の中で行っております。その効果は確実に感じておりましたが、今回の研修を受講し、より指導の目的、効果が明確になりました。授業時間数が減る中で体験学習の時間確保も難しい状況にあります。自信をもって更に取り組みたいと思います。</p> <p>・ 保育に関する内容を、改めて整理し、学習できたことが一番自分にとって有意義なことでした。</p> <p>・ 非常に中味の濃い内容を、5日間学ばせていただいたことに感謝しています。自分が学んだこと、感じたこと、保育園で子どもたちからもらったやさしさ、保育士さんのすばらしさを、私のことばと表現で、生徒たち、学校の先生方、他校の家庭科の先生方にお伝えしていこうと思います。</p> <p>・ 他府県の先生方や講師の先生方の熱い思いを知ることが出来充実したものとなった。</p> <p>高校の授業 (保育) の教材とか、指導計画があると…→すぐに役立つものが欲しい。</p>

III 研修内容・方法の見直し等

<p>・ 実施経費の派遣者負担を導入した。</p>

IV 研修日程 (プログラム) 次ページのとおり

平成17年度産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

新産業技術コース 家庭・E-2 (乳幼児理解等に関する知識と技術)

時間 日付	9:30	10:00	10:15	11:00	11:30	12:30	13:30	14:30	15:00	15:30	16:30
7月25日 (月)	受付	開校式	(講義)「乳幼児理解教育の意義」 兵庫教育大学教授 松村京子 ①	(講義)「乳幼児理解」 兵庫教育大学教授 松村京子 ①	(講義)「ことばの発達」 兵庫教育大学助教授 宇野宏幸 ①		(講義)「情緒・社会性の発達」 兵庫教育大学教授 松村京子 ①	(講義)「認知・思考の発達」 兵庫教育大学助手 宮元博章 ①			
7月26日 (火)	(講義)「家庭科の改訂の趣旨と保育に関する指導」 文部科学省初等中等教育局総務課調査官 岡 陽子 ①	(講義)「思春期14歳・17歳の危機：親は、教師は何ができるか」 福島県立医科大学教授 香山雪彦 ①					(講義)「児童虐待」 大阪教育大学教授 岡本正子 ①	(講義)「中教審の動向と今後の保育の課題」 兵庫教育大学学長 梶田敬一 ①			
7月27日 (水)	(講義)「軽度発達障害：ADHD, LD, 自閉症」 兵庫教育大学講師 井澤信三 ①	(演習)「保育学習の教材及び」 兵庫教育大学教授 松村京子 湊川短期大学 教授 (兵庫教育大学 神戸親和女子大学 講師) 兵庫教育大学博士課程研究生1名 兵庫教育大学修士課程研究生1名					乳幼児との交流方法 博士課程院生) 中西利恵 山口香織				
7月28日 (木)	(実習)「乳幼児交流・観察実習」 兵庫教育大学教授 松村京子 湊川短期大学 教授 (兵庫教育大学博士課程院生) 中西利恵 兵庫県立但馬やまびこの郷 指導主事 仲島尚子 神戸親和女子大学 講師 山口香織 京都府立京都すばる高等学校 教諭 中田佳代子 兵庫教育大学博士課程研究生1名 兵庫教育大学修士課程研究生1名										
7月29日 (金)	(演習)「実習分析のためのグループ演習」 兵庫教育大学教授 松村京子 兵庫県立但馬やまびこの郷 指導主事 仲島尚子 神戸親和女子大学 講師 山口香織 兵庫教育大学修士課程研究生1名	(演習)「乳幼児理解」 兵庫教育大学教授 兵庫県立但馬やまびこの郷 神戸親和女子大学 講師					のための学習指導計画」 松村京子 指導主事 仲島尚子 山口香織	閉講式			

(注) ○付き数字は実施場所を示す。①：講義室 ②：コンピュータ教室 ③：神戸市立保育所

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修 (新産業技術等指導者養成講習) 高等学校家庭 (E-3)					
担 当 課 係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係					
研 修 目 的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭					
開 催 期 日	平成17年 8月 8日 (月) ~平成17年 8月11日 (木)	4日間				
受 講 人 数	計画人数	15 人	受講者数	15 人	参加率	100.0%
開 催 場 所	装道礼法きもの学院					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	12 85.7	2 14.3	0 0.0	0 0.0	1

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ 4日間の研修は大変充実しました。これからもっと学び続けてゆきたいです。2年、和裁を学んでいて、着付けは浴衣しかできませんでしたが、この研修を生かし、和服を着る練習を続けていきます。 ・ 四日間、時間の忘れる程集中させていただきました研修となりました。ご指導下さいました先生方が皆様丁寧にやさしく接して下さい感謝しております。研修内容につきましては、被服の分野にとどまらずに、家庭科の授業にすぐに取り入れて行けるなど、大変勉強になりました。ありがとうございました。 ・ 日本の古き良き伝統にしっかりふれさせていただきました。特に着装だけではなく心の修養について私達教員がまずしっかり身につけ、生徒に伝えていかななくてはと思います。本当にありがとうございました。 ・ 私自身がほとんど知らない分野だったので、毎日が新鮮でした。 ・ 望月先生のお話は午前中一杯とってもよかったのではないかと思います。一番新しい情報をまた、直接お話を聞く機会もあまりないので、時間が短かすぎたように思いました。 ・ 男性の着装についても勉強したいです。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施経費の派遣者負担を導入した。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

(家庭、E-3)

日 時	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
8月8日 (月)		開 内 容 講 説 明 式 ※	(講義) 家庭教育の動向	(講義) (1)着装の基本 裾履(和服)の履き、胸 (体型矯正、裾、股、着法)	昼 食	昼 食	(2)裾 外装及び裾用に適する裾履(和服)		
8月9日 (火)		(講義) 和装の精神美学	昼 食	昼 食	(講義) 衣の生活文化 裾(和服)の変遷が通肩線等	(着装) (3)裾 着崩、目的に応じた裾履 留袖の着法と帯結び(二重太鼓)			※①連絡事項
8月10日 (水)		着 装 (復習)	(1)礼法 裾を選んで美しい基本 となる起振袖等	昼 食	(着装) (4)講 和服の着用及び目的に応じたTPO ①総衣の帯結び(半帯) ②袴の着法				
8月11日 (木)		(2)礼法 衣生活に関するマナー (社会生活上のマナー)	(講義) 裾履(和服)に関する 衣生活について (保管法、染め直し、その他Q&A)	昼 食	(総仕上げ) 裾履(和服)文化、 着崩、仕立	記 念 撮 影	座 談 会	閉 講 式	

装道礼法きもの学院 東京本校

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修 (新産業技術等指導者養成講習) 高等学校看護 (F-1)		
担 当 課 係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係		
研 修 目 的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。		
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭		
開 催 期 日	平成17年 8月 1日 (月) ~平成17年 8月 5日 (金)	5日間	
受 講 人 数	計画人数	30 人	受講者数 17 人 参加率 56.7%
開 催 場 所	熊本中央高等学校		

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だ った	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	11 64.7	5 29.4	1 5.9	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・看護・教育における各分野の最前線にいらっしゃる先生方の講義・演習を受けることができ、変動する現代社会・医療になかなか追いつけない私にとって大きな収穫となり、またさらに「このままではいけない」という危機感を実感しました。 ・今、話題となっている問題を中心に研修内容が設定されており、今後の教授活動において大変勉強になりました。 ・他の学校の状況と自分の学校の現状を比較する期会となり、良い所も改善点もお互いの思っている事をぶつけあい話し合う楽しさも知った。 ・久しぶりに研修に参加し、新鮮な刺激をいただきました。年々、幼なくなっていると感じていた生徒の実態…これでいいのかと自分達のやっていることに自信を失くすことも多くなった今日この頃。多くの学校の先生方と情報交換する中で、生徒の実態が本校にかぎってのことではなく、また、指導上抱えている問題・課題も、他の学校でも同じであるということを知り、これからも奮闘していく勇気をもらいました。 ・期間が長くともよいのですが、講座科目を選択できたりする方法もあると思います。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・実施経費の派遣者負担を導入した。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

(看護, F-1)

団体名 全国看護高等学校長協会

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
8月1日 (月)		開講式	(研究協議) 助言 大橋素久先生 高等教育および看護教育の現状と課題	助言 大橋素久先生 木原信市教授	昼休み	(講義) 森田 敏子教授 基礎看護学の授業展開			
8月2日 (火)		(講義) 東 清巳助教授 高齢化社会の保健医療福祉の現状と援助法(I)			昼休み	(講義) 花田 妙子教授 看護教育技法			
8月3日 (水)		(講義) 上田 公代教授 臨地実習のインシデント・アクシデント対策			昼休み	(演習) 谷口まり子助教授 木子莉瑛 梅木彰子 臨地実習の教育技法			
8月4日 (木)		(講義) 宇佐美しおり教授 臨地実習の評価法について			昼休み	(講義) 永田 千鶴助教授 高齢化社会の保健医療福祉の現状と援助法(II)			
8月5日 (金)		(講義) 宮里 邦子教授 変動する現代社会における看護職の役割			閉講式				

研修実施場所: 熊本中央高等学校

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修 (新産業技術等指導者養成講習) 高等学校看護 (F-2)					
担 当 課 係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係					
研 修 目 的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭					
開 催 期 日	平成17年 8月 8日 (月) ~平成17年 8月12日 (金)	5日間				
受 講 人 数	計画人数	10 人	受講者数	4 人	参加率	40.0%
開 催 場 所	群馬県立精神医療センター					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・スタッフの関わりが参考になった。(生徒指導をしていくうえでも) 全体の感想としては、最先端の精神医療、日本又は研修病院の現状を通し、いろいろな発見、学習ができ参考になりました。病院全体が一貫した治療、看護方法に基づいて、患者個々にあった患者一人一人個別に考え、細かい看護がいきとどいており、非常に参考になりました。今後、学生の指導にあたり、精神看護実習にもとめられるもの、看護の原点となる人間対人間の関わり等学びの多い研修となりました。</p>

III 研修内容・方法の見直し等

<p>・実施経費の派遣者負担を導入した。</p>

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成 17 年度産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

看護 F-2

精神医療センター

日時	9	10	11	12	13:30	14:30	16:30
8/8 月	開 講 式	(講義) 精神科医療の動向・現状 と問題点・今後の展望		昼 休 み	(講義) 精神科看護の 動向・看護の実際・精 神保健福祉法と看護		(実習) 老人病棟・A
8/9 火		(実習) 重症治療病棟・B		昼 休 み	(講義) 学校と病院の 連携について		(実習) リハビリ病棟・C
8/10 水	(実習) 援護寮 はばたき		(講義) 精神疾患各論	昼 休 み			(実習) 訪問看護
8/11 木		(実習) 急性・救急病棟・E		昼 休 み			(実習) 急性期病棟・G
8/12 金	(実習) ストレスケア病棟・F		終了時ミーティング		閉 講 式		

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修 (新産業技術等指導者養成講習) 高等学校看護 (F-3)					
担 当 課 係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係					
研 修 目 的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭					
開 催 期 日	平成17年 8月 3日 (水) ~平成17年 8月 9日 (火)	5日間				
受 講 人 数	計画人数	25 人	受講者数	20 人	参加率	80.0%
開 催 場 所	北里大学看護学部					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	8 : 57.1	6 : 42.9	0 : 0.0	0 : 0.0	6 :

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ 久しぶりに「教育」の本来の姿にたちかえる事が出来たと思います。もう少し、時間をかけて、ゆっくりと受講できれば、完全消化できたかとも感じております。 ・ 分野によって自己の理解の不足している部分もあるため事前に研修内容等もう少し詳しくわかれば事前学習しておけばよかったと思いました。 ・ 大学系の実践内容がよく把握でき、自分自身の学びともなりました。現状、そして今後の看護に求められる人材の教育に取り組んでいきたいと思っております。 ・ 可能であれば期間をもう2-3日長期にさせていただき、専門領域の病棟実習 (体験・見学程度となると思うが) もと思っております。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施経費の派遣者負担を導入した。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

1日目 8月3日 (水)	9:30 受付 10:00 開講式 10:30 講義 I 高校教育及び看護教育の動向 国立教育政策研究所教育課程センター 研究開発部教育課程調査官 大橋 泰久 先生	11:00 12:30	13:30 15:00 16:30
2日目 8月4日 (木)	講義 III 看護の動向 北里大学東病院 看護部長 田中 彰子 先生	講義 IV-① 看護研究 (タココントロール) 北里大学看護学部 助教授 嶺岸 秀子 先生	講義 V キャリア開発支援のあり方 北里大学病院看護科長 野地 金子 先生
3日目 8月5日 (金)	講義 VI 精神看護実習指導の実際 北里大学看護学部 助教授 小林 信 先生	講義 VII 在宅看護 北里大学看護学部 助教授 藤田 美江 先生	講義 VIII 看護診断: NANDA-NIC-NOC 北里大学看護学部教授 黒田 裕子 先生
4日目 8月8日 (月)	講義 IX 看護技術教育 北里大学看護学部 教授 岡崎 寿美子 先生	講義 X 学生の倫理 北里大学看護学部 講師 綿貫 恵美子 先生	施設見学 (13:00 ~ 17:00) 北里大学病院救命センター 北里大学東病院総合相談部 北里大学病院教育科長 猪又 克子 先生 北里大学東病院教育科長 石井 か代 先生
5日目 8月9日 (火)	講義 XI 看護教育評価 北里大学看護学部教授 戸田 肇 先生	講義 IV-② 看護研究 (看護政策) 北里大学看護学部 講師 田中 幸子 先生	閉講式

(8/9のみ 12:00 13:00 14:30 15:00)

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修 (新産業技術等指導者養成講習) 高等学校情報 (G-1)		
担 当 課 係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係		
研 修 目 的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。		
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭		
開 催 期 日	平成17年8月17日 (水) ~平成17年8月30日 (火)	10日間	
受 講 人 数	計画人数	20 人	受講者数 10 人 参加率 50.0%
開 催 場 所	株式会社内田洋行 潮見オフィス		

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だ った	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	8 80.0	2 20.0	0 0.0	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・短時間の中で濃厚な…正直、ついていってませんが、色々なソフトに触れ、楽しく学びました。ありがとうございます。改めて日々学ぶ、学び続けることの大切さを感じました。しかし、ソフトは高価で辛い。</p> <p>・今回の研修ではコンプティアの話、画像処理など役に立つ事が多かった。独学でやるとなるとかなり時間がかかるポイントをとりえてわかりやすくご指導いただきました。</p> <p>・なかなか高性能なソフトウェアで、扱いには苦労したが、自分一人では体験出来ないことを勉強出来たことが良かった。</p>

III 研修内容・方法の見直し等

<p>・実施経費の派遣者負担を導入した。</p>

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

月日	曜日	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
8月17日	水				受付	(講義) 文部科学省	(講義) 将来の社会を見据えた情報基礎、情報通信基礎等				
8月18日	木		(実習)レンダリング・モデリング・アニメーションの作成		昼休み	(実習)レンダリング・モデリング・アニメーションの作成					
8月19日	金		(実習)デジタル画像の編集、グラフィックの作成		昼休み	(実習)デジタル画像の編集、グラフィックの作成					
8月20日	土										
8月21日	日										
8月22日	月		(実習) デジタルビデオデータの編集		昼休み	(実習) デジタルビデオデータの編集					
8月23日	火		(実習) デジタルビデオデータの編集		昼休み	(実習) DVDオーサリングツールによるDVD作成					
8月24日	水		(実習)アニメーション、サウンド、ビデオなどを含んだリッチメディアの作成(1)		昼休み	(実習)アニメーション、サウンド、ビデオなどを含んだリッチメディアの作成(1)					
8月25日	木		(実習)アニメーション、サウンド、ビデオなどを含んだリッチメディアの作成(2)		昼休み	(実習)アニメーション、サウンド、ビデオなどを含んだリッチメディアの作成(2)					
8月26日	金		(見学)最新施設見学		昼休み	(見学)最新施設見学					
8月27日	土										
8月28日	日										
8月29日	月		(実習)課題研究 プレゼンテーション準備		昼休み	(実習)課題研究 プレゼンテーション準備					
8月30日	火		(研究協議)課題発表		昼休み	閉講式					

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修 (新産業技術等指導者養成講習) 高等学校情報 (G-2)		
担 当 課 係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係		
研 修 目 的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。		
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭		
開 催 期 日	平成17年 7月25日 (月) ~平成17年 8月 5日 (金)	10日間	
受 講 人 数	計画人数	15 人	受講者数 10 人 参加率 66.7%
開 催 場 所	千葉商科大学		

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	6 60.0	4 40.0	0 0.0	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

- ・実務(校務)に生かせる内容が多く、とても勉強になった。
- ・様々な先進的な学校の取組みなど聞けて大変参考になった。
- ・全てではなく、ある程度、しばって講習を受けたかったと考えます。多種類なので、大変でした。

III 研修内容・方法の見直し等

- ・実施経費の派遣者負担を導入した。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

講習テーマ [ソフトウェアの活用とマルチメディア]

(情報：G-2)

		午前(9:30~12:30)		午後(13:30~16:30)	
		内容	形態	内容	形態
7/25(月)		開講式		データベース①	講義 実習
7/26(火)		データベース②	講義 実習	データベース③	講義 実習
7/27(水)		7/30*リス*Aとプロ*ラシク*① (VBとVB.netアラカルト)	講義 実習	7/30*リス*Aとプロ*ラシク*② (VBとVB.netアラカルト)	講義 実習
7/28(木)		プレゼン ①	講義 実習	プレゼン ②	講義 実習
7/29(金)		表計算ソフトの活用①	講義 実習	表計算ソフトの活用②	講義 実習
7/30(土)					
7/31(日)					
8/01(月)		ネットワーク①	講義 実習	ネットワーク②	講義 実習
8/02(火)		デザイン①(Web)	講義 実習	デザイン②(Web)	講義 実習
8/03(水)		デザイン③(CG)	講義 実習	新しい検定指導(実践報告等) ペンダ主催の検定を旨指して	講義 実習
8/04(木)		シミュレーション①	講義 実習	シミュレーション②	講義 実習
8/05(金)		コンピュータ教育の指導 ①	講義	コンピュータ教育の指導 ② 閉講式	講義

研修実施場所：千葉商科大学

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修 (新産業技術等指導者養成講習) 高等学校情報 (G-3)		
担 当 課 係	教育課題研修課語学・産業教育研修係		
研 修 目 的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。		
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭		
開 催 期 日	平成17年 7月25日 (月) ~平成17年 8月 5日 (金)	10日間	
受 講 人 数	計画人数	15 人	受講者数 14 人 参加率 93.3%
開 催 場 所	千葉商科大学		

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	2 14.3	9 64.3	2 14.3	1 7.1	0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・情報の講座であり講座のテーマから期待をして参加させて頂きましたが内容が易し過ぎるので驚きました。システム開発を核とする講座であるならば、ある程度受講資格を開発言語経験者又はVBA等の経験者にし実用的な(ネットワーク、Web)アプリケーション開発ができるような講座にして頂きたい。 ・ネットワーク等、あらかじめ指導される先生はきちんと確認しきちんと研修が受けられるようにしておいてほしい。 ・全体として、意識の高い人間が集まって、レベルの高いことをしていたので良い刺激となった。 ・教育界を第三者の立場から意見される人の話は刺激を強く受けました。 ・情報教育や商業教育を企業経営者の立場から大学側から、提案をいただくような場面がもっとあればよかった。 ・講義の中では、情報社会における様々な問題点や今後の展望など有益な話題も多く、大変参考になった。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・実施経費の派遣者負担を導入した。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

講習テーマ ネットワークの活用とシステム開発

(情報：G-3)

		午前(9:30~12:30)		午後(13:30~16:30)	
		内容		内容	
			形態		形態
7/25(月)	開講式			Excel-VBAアラカルト	講義 実習
7/26(火)	VB.netアラカルト		講義 実習	Accessアラカルト	講義 実習
7/27(水)	システム開発演習ガイド (システム開発全般についての説明 グループ分け等)		講義	システム開発演習 ①	実習
7/28(木)	ネットワーク管理とネットワーク技法		講義 実習	ネットワーク管理とネットワーク技法	講義 実習
7/29(金)	システム開発演習 ②		実習	システム開発演習 ③	実習
7/30(土)					
7/31(日)					
8/01(月)	ネットワーク①		講義 実習	ネットワーク②	講義 実習
8/02(火)	システム開発演習 予備 ネットワークセキュリティ		講義 講義	IT事業の展望	講義
8/03(水)	システム開発演習 ④		実習	システム開発演習 ⑤	実習
8/04(木)	システム開発 結果発表 ①		実習	システム開発 結果発表 ②	実習
8/05(金)	コンピュータ教育の指導 ①		講義	コンピュータ教育の指導 ② 閉講式	講義

研修実施場所：千葉商科大学

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修 (新産業技術等指導者養成講習) 高等学校福祉 (H-1)					
担 当 課 係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係					
研 修 目 的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭					
開 催 期 日	平成17年 7月25日 (月) ~平成17年 7月30日 (土)	6日間				
受 講 人 数	計画人数	20 人	受講者数	32 人	参加率	160.0%
開 催 場 所	京都女子大学					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	23 76.7	7 23.3	0 0.0	0 0.0	1

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義は日々新しい発見で、十分消化できていないところもありますが、「福祉」に対して、「介護」に対して原点に立ちかえて教えていただき、大変勉強になりました。素晴らしい講師陣の方々に教えていただき、とても光栄なことだと思っています。 ・ 介護技術の根拠を学ぶことができたことと、これまでの自分の介護に対する考え方が浅いことに気づくことができてとてもよかったです。今後は、もう一度基礎から学び、技術を高めて福祉の人材育成に努めていきたいと思っています。 ・ 研修は介護の基礎、忘れてはいけないところを認識させてくれました。 ・ 多くの他県の先生方とお話しでき、福祉の大変さ、重要さ、福祉教育のおもしろさをおしえていただくことができました。 ・ 講師の先生のアドバイスを受けることができるまたとない機会なのでもう少し時間をとって教えて頂きたかったです。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施経費の派遣者負担を導入した。 ・ 研修内容を精選するとともに、専門性の高い講義内容とした。 ・ 演習を増やすことに伴い、講師数を拡大し、きめ細かい研修を実施した。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

(教科名：福祉 講習番号：H-1)

委託団体名：全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校校長会

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
7月25日 (月)		閉 講 式	講 義 「介護過程の展開Ⅰ」 ～介護における目標等の講義～			講 義 と 演 習 ～事例に基づく介護過程に関する講義と演習～	「介護過程の展開Ⅱ」 ～事例に関する講義と演習～		
26日 (火)		講 義 と 演 習 「コミュニケーション技術」 ～コミュニケーションの技法に関する講義と演習～				講 義 と 演 習 ～社会生活維持拡大への技法に関する講義と演習～	「移動の介護等Ⅰ」 ～社会生活維持拡大への技法に関する講義と演習～		
27日 (水)		講 義 と 演 習 ～安楽と安寧の介護に関する講義と演習～			星 休 み		「排泄の介護」 ～排泄の介護に関する講義と演習～		
28日 (木)		講 義 と 演 習 ～衣服の着脱の介護に関する講義と演習～					「食事の介護」 ～食事の介護に関する講義と演習～		
29日 (金)		講 義 と 演 習 ～入浴の介護に関する講義と演習～					「入浴の介護等Ⅱ」 ～身体の清潔の介護に関する講義と演習～		
30日 (土)		講 義 と 演 習 ～全講習内容の修得に係る評価～				演 習 「研修の振り返り」	講 義 「高校福祉教 育について」	閉 講 式	

実施場所：京都女子大学

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修 (新産業技術等指導者養成講習) 高等学校福祉 (H-2)		
担 当 課 係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係		
研 修 目 的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。		
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭		
開 催 期 日	平成17年 7月25日 (月) ~平成17年 7月29日 (金)	5日間	
受 講 人 数	計画人数	20 人	受講者数 13 人 参加率 65.0%
開 催 場 所	ルーテル学院大学		

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だ った	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	11 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・抽象的概念の理解にも方法論があるということ、効果を上げる方法に具体的な手法がある（カンファレンスの方法）こと等々、全てを演習を盛り込んだものでした。少人数で人間のかかわりも感じられる、一味違う研修でした。 ・ロールプレイなどによりいくつかの「感覚」をつかむことができました。これからの勉強の進め方についてのヒントを与えられたように思います。今までのやり方についての検証が必要と感じました。 ・その他の教科にも応用できそうなので、実践していきたいです。 ・理論を実際につなげていこうとする姿勢と講習会全体を通してのテーマが明確であり、今後にかしていこうとする意欲がわいてきた。 ・今回のような、知識伝達型ではない講習の方が教員の質を上げるのにはよいのではないか、と思います。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・実施経費の派遣者負担を導入した。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

(教科名：福祉 講習番号：H-2)

委託団体名：全国高等学校校長協会家庭部会福祉科高等学校校長会

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
7月25日 (月)		開 講 式 講 義 「社会福祉援助技術の必要性について」 ～人の理解と人の尊厳～			休 休 休 休 休 休 休 休 休 休	講 義 「社会福祉援助活動のイメージ」 ～援助場面のシミュレーション～			
26日 (火)		講義と演習 「個別的な援助・人を観察することと理解すること」 ～観察のツール、事実を見ること、理解の枠組み～				講義と演習 「個別的な援助・リスクマネジメント」 ～緊急性把握と人権尊重～			
27日 (水)		講義と演習 「家族および集団への援助Ⅰ」 ～家族・集団の構成要素と機能～				講義と演習 「家族および集団への援助Ⅱ」 ～家族の理解と支援の枠組み～			
28日 (木)		講義と演習 「地域を基盤とした援助」 ～地域文化と地域ニーズの把握～				講義と演習 「カンファレンスの考え方」 ～協働とパートナーシップ～			
29日 (金)		講義と演習 「コミュニケーション技法について」 ～コミュニケーションの機能と必要性～				講義と演習 「授業計画作成について」	演習 「研修の振り返り」	講義 「高校教育に ついて」	閉 講 式

実施場所：ルーテル学院大学

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修 (新産業技術等指導者養成講習) 中学校技術 (I-1-1)							
担 当 課 係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係							
研 修 目 的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭							
開 催 期 日	平成17年 8月 1日 (月) ~平成17年 8月 5日 (金)				5日間			
受 講 人 数	計画人数	30	人	受講者数	25	人	参加率	83.3%
開 催 場 所	茨城大学教育学部							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	22 88.0	3 12.0	0 0.0	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段、授業をしていると、学習内容や指導法の研修一偏到となりがちだが、ものづくりの基本スキルや理論的裏付けを研修でき、とても身になったと思う。 ・ 新たな題材づくりにたいへん参考になりました。特にプラスチックの活用は、おおいに役立ちます。 ・ 講義だけでなく、その内容がすぐ実習によって習得、体験的に学ぶことができた点がよかったです。 ・ 学校現場で毎日忙しい学校事務におわれていると、自分の専門教科のスキルアップの時間がとれない現状があります。久しぶりに専門教科の研修を受け、20年前との違い、現在の技術・家庭科の動向等、勉強になることが数多くありました。今後は、この5日間で学んだことを土台にスキルアップに向けた教材研究にも取り組みたいと思います。 ・ ものづくりは人づくりとも言われるように、このものづくりの研修は情報に比べ、他県の先生との交流も多くなり、生き方についての勉強にもなりました。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施経費の派遣者負担を導入した。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成 17 年度産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

(技術, 1-1-1)

委託団体名 茨城大学

日 時	9	9:30	10	11	12	13	14	15	16	17
8月1日 (月)	受付	開講式	(講義) これからの技 術・家庭科の教育	(講義) 木工具の調整法	昼休み	(講義) かなな刃口の機 能と調整法	(実習) かなな刃口の調整 (埋め木溝加工) (埋め木製作及び接着)			
	8月2日 (火)	(講義) 新しい栽培の展開について	(実習) 刃口の仕上げ	昼休み	(講義) かなな身・裏金 の研磨法	(実習) かなな身・裏金 の研磨法				
8月3日 (水)	(講義) エネルギー変換 教材の製作技術	(実習) エネルギー変換教材の製作	昼休み	(実習) エネルギー変換教材の製作	(講義) エネルギー変換 教材の活用	(講義) エネルギー変換 教材の活用				
	8月4日 (木)	(実習) プラスチックの性質実験	(講義) プラスチックの 加工法	昼休み	(講義) プラスチックの加工法	(講義) プラスチックによる立体模型製作技術				
8月5日 (金)	(講義) CR回路の基礎	(実習) Cの充電、放電実験 (時間制御回路への応用)	昼休み	(実習) ボール紙による立体模型の製作	閉講式					

研修実施場所：茨城大学教育学部

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修 (新産業技術等指導者養成講習) 中学校技術 (I-1-2)					
担 当 課 係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係					
研 修 目 的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭					
開 催 期 日	平成17年 8月 1日 (月) ~平成17年 8月 5日 (金)	5日間				
受 講 人 数	計画人数	20 人	受講者数	18 人	参加率	90.0%
開 催 場 所	島根大学教育学部					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	17 94.4	1 5.6	0 0.0	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・こんなに実習を体験させてくれる研修は今まで受けたことがなく、大変勉強になった。技術室の改善など、参考になる事が多くありました。(アクリル材、道具の管理、工作機械) 学校に戻り次第、授業に生かしたいヒントを実行したいと思います。</p> <p>・技術の免許を持ち、学校現場で教えているにも関わらず、知らないことも多く、今回の研修は大変役に立ちました。また、現場に帰り、今回の内容を生かしていきたいと思います。</p> <p>・とても役に立つ研修会でした。自分の技術について、確認することもでき、新ためて技術科を担当する教員として、今後いろいろな事を頑張らねばならないと強く感じました。</p> <p>・他県の先生と情報交換ができたことが有意義であった。</p>

III 研修内容・方法の見直し等

<p>・実施経費の派遣者負担を導入した。</p>

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

(教科名, 研修番号) 技術, 1-1-2

委託団体名: 国立大学法人 島根大学

日	時	9	10	11	12	13	14	15	16
8/1 (月)		受付	開講式 及び ガイダンス	(講義・実習) *2枚刃かんな・おいれのみの調整(1)	昼休み	(講義・実習) *2枚刃かんな・おいれのみの調整 (2)		(講義・実習) *のこぎりびき・かんなけずりによる 部品加工(1)	
8/2 (火)		(講義・実習) *のこぎりびき・かんな けずりによる部品加工(2)	(講義・実習) *教育用小型木工機械の 整備及び安全な使用法		昼休み	(講義・実習) *教育用小型木工機械を使用した木製品の製作実習			
8/3 (水)		(講義・実習) *プラスチックによる木材のこぎりびき用治具の製作実習 1) プラスチックののこぎりびき加工			昼休み	(講義・実習) *プラスチックによる木材のこぎりびき用治具の製作実習 2) プラスチックの面接着加工			
8/4 (木)		(講義・実習) *プラスチックによる木材のこぎりびき用治具の製作実習 3) プラスチックの研削・研磨加工			昼休み	(講義・実習) *プラスチックによる木材のこぎりびき用治具の製作実習 4) プラスチックの穴開け加工・ねじ切り加工・組み立て加工			
8/5 (金)		(講義) *新技術室の設備・備品と実習授業の 展開	(講義・実習) *木工技能の診断 と観点別絶対評価 (1)		昼休み	(講義・実習) *木工技能の診断と観点別 絶対評価(2)	(講義) *本講 座の活 用注	(講義) *学習指導要領をふまえた 指導法	閉講式

実施場所: 教育学部木材加工実習室

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修 (新産業技術等指導者養成講習) 中学校技術 (I-2-1)					
担 当 課 係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係					
研 修 目 的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭					
開 催 期 日	平成18年 2月27日 (月) ~平成18年 3月 3日 (金)	5日間				
受 講 人 数	計画人数	30 人	受講者数	22 人	参加率	73.3%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	17 77.3	5 22.7	0 0.0	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段、自分の学校では専科が一名のため、いろいろな刺激を受けにくいですが、今回このような研修の場で具体的な教材の活用の仕方や模擬授業の形式でペーパーの上で終わらない研修となり、大変有意義であったと思います。 ・ 研修内容について、分かりやすい資料や実習に伴う材料の準備等、細部にわたり御配慮下さった講師の先生方やお手伝い頂いた学生さん達にとっても感謝しています。 ・ 特にこれからの技術・家庭科がどうあるべきかについて、その役割を考えさせられ、本当に生き残りをかける想いで「○○○をしています！」と言える実践をしたいです。そういう姿勢が大切であると教えて頂いたと思います。改めて、自分の専門的力量的なさについて、知らされました。 ・ 自分にとって、まずブラックボックスの中味を知り、それを生徒にどう分かりやすく、何を理解させ、どんな力をつけるか本当の意味での方向性を示してもらいました。 ・ 研修時間が5時までなので、せっかく泊まりで実施しているのだから5時以降も自主研修として時間があれば、また研修室を使わせてもらえたらもっと良かったと思います。しかし担当の先生方に負担になるので仕方がないかと思いました。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施経費の派遣者負担を導入した。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成 17 年度産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

(技術, I-2-1)

日 時	9	9:30	10	11	12	13	14	15	16	17
2月 27日 (月)	受付	開講式	講義 教育の情報化と技術・家庭科	昼休み	講義 情報通信技術の 理解としくみ	演習 情報通信技術の実験と指導法				
2月 28日 (火)	講義 コンピュータの 機能の理解	演習 コンピュータ構成部品の理解と自 作教材資料の作成	昼休み	演習 コンピュータの組立, BIOS 設定, OS インストール手順の理解, 及び自 作教材資料の作成						
3月 1日 (水)	講義 情報システムを構築する 力を育成する指導法	講義 ネットワークと WEB サ ーバ, ファイルサーバ	昼休み	演習 WEB サーバ, ファイルサーバの理解と構築・管理のしかた						
3月 2日 (木)	講義 モータ制御の基 礎知識	実習 ステッピング・モータ制御の理解と インタフェースの製作	昼休み	実習 P I C (周辺機器接続制御用 IC) によるライントレース制御の理解と製作						
3月 3日 (金)	講義 プログラミング の基礎知識	演習 自動制御とプログラミングの実際	昼休み	講義 これからの技術・家庭科教育 式						

実施場所：独立行政法人教員研修センター

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修 (新産業技術等指導者養成講習) 中学校技術 (I-2-2)		
担 当 課 係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係		
研 修 目 的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。		
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭		
開 催 期 日	平成17年 9月26日 (月) ~平成17年 9月30日 (金)	5日間	
受 講 人 数	計画人数	20 人	受講者数 16 人 参加率 80.0%
開 催 場 所	宮城教育大学教育学部		

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だ った	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	13 86.7	2 13.3	0 0.0	0 0.0	1

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・技術科とし、ものづくりを重視した授業をしていかなければと実感しました。パソコン操作だけの技能を身につけさせるだけではなく、パソコンを利用して思考させ、そして、基本的なものを作り動かすといった、本来の技術科の目的に向け、自分自身、もっと勉強していかなければならないと思いました。</p> <p>・現場では、勉強できないことがこの研修を通して勉強できたと感じています。実際、なかなかすんなり頭で理解できなかった部分もありましたが、「こんなこともできるんだ」と気づいたことが今後の教科指導で役立つと思っています。</p> <p>・講習会後のサポートもしていただけるという点は大変ありがたく思います。</p>

III 研修内容・方法の見直し等

<p>・実施経費の派遣者負担を導入した。</p>

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

(技術, 1-2-2)

貴団体名 宮城教育大学

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
9月26日 (月)		閉講式	(講義(実習含)) コンピュータの基礎1(ソフトウェア活用環境の整備)	(講義(実習含)) コンピュータの基礎2(周辺装置の活用)	昼休み	(講義) コンピュータの構造1(ワンチップマイコンから学ぶコンピュータの仕組み)	(実習) コンピュータの構造2(ワンチップマイコンから学ぶコンピュータの仕組み)		
9月27日 (火)	(講義) コンパイラ	コンパイラ	(実習) コンパイラ	コンパイラ	昼休み	(講義) マルチメディアコンテンツの作成1(もの作り支援としてのデジタルコンテンツの活用)	(実習) マルチメディアコンテンツの作成2(もの作り支援としてのデジタルコンテンツの活用)		
9月28日 (水)	(講義) LANによるネットワークのしくみ	LANによるネットワークのしくみ	(実習) LANによるネットワークのしくみ	LANによるネットワークのしくみ	昼休み	(講義) 著作権の基礎	(講義) 教育現場における情報モラル		
9月29日 (木)	(講義(実習含)) LANによるネットワークの活用	LANによるネットワークの活用	(講義) サイバー犯罪の現状と対策	(講義(実習含)) サイバー犯罪の現状と対策	昼休み	(講義(実習含)) インターネットの活用1(ネットワークセキュリティ)	(講義(実習含)) インターネット制御1(コンピュータ技術とロボット制御)		
9月30日 (金)	(講義・実習) コンピュータ制御2(ロボットとセンサ)	コンピュータ制御2(ロボットとセンサ)	(講義(実習含)) コンピュータ制御3(ロボットの製作と授業での活用)	(講義(実習含)) コンピュータ制御3(ロボットの製作と授業での活用)	昼休み	(講義(実習含)) インターネットの活用2(新しい情報発信の方法)	閉講式		

研修実施場所：宮城教育大学

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修 (新産業技術等指導者養成講習) 中学校技術 (I-2-3)		
担 当 課 係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係		
研 修 目 的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。		
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭		
開 催 期 日	平成18年 2月27日 (月) ~平成18年 3月 3日 (金)	5日間	
受 講 人 数	計画人数	30 人	受講者数 15 人 参加率 50.0%
開 催 場 所	滋賀大学教育学部		

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だ った	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	10 71.4	4 28.6	0 0.0	0 0.0	1

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・技術家庭科のこれからの方向性や内容ごとの様々な実践を示してもらえてとても参考になりました。自分自身がやってきたことに対する反省点や改善点を多く気づかせていただきました。この研修で学んだことを持ち帰り、自分自身の実践に活かせることができればと思っています。また、研修会等で他の先生方にも伝達していきたいと思えます。本当にありがとうございました。</p> <p>・これからの技術科教育の方向性や今日的課題、そして「B情報とコンピュータ」における先進的な実践及びネットワークについての基礎的な理論及び実習などについて研修をさせていただきました。これからの自分の実践に大変役立つ研修であったと思います。</p>

III 研修内容・方法の見直し等

<p>・実施経費の派遣者負担を導入した。</p>

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

(技術, I-2-3)

団体名 国立大学法人 滋賀大学

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16
2/27 (月)	(受付) (開講式)	(講義) 本研修 の概要	(講義) 学習指導要領をふまえた 指導法	昼休み	(講義・実習) 基本実習1	(講義・実習) 基本実習2	(講義・実習) 基本実習2	(まとめ) 質疑応答1
2/28 (火)	(講義・実習) ネットワーク1	(講義・実習) ネットワーク2	(講義・実習) ネットワーク2	昼休み	(講義・実習) ネットワーク3	(講義・実習) ネットワーク4	(講義・実習) ネットワーク4	(まとめ) 質疑応答2
3/1 (水)	(講義・実習) マルチメディア1	(講義・実習) マルチメディア2	(講義・実習) マルチメディア2	昼休み	(講義・実習) 計測と制御1	(講義・実習) 計測と制御2	(講義・実習) 計測と制御2	(まとめ) 質疑応答3
3/2 (木)	(講義) デジタル社会の情報教育	(講義・演習) デジタル環境とメディア	(講義・演習) デジタル環境とメディア	昼休み	(講義・実習) 情報モラルの指導1	(講義・実習) 情報モラルの指導2	(講義・実習) 情報モラルの指導2	(まとめ) 質疑応答4
3/3 (金)	(講義・演習) 小学校から中学校への効果的な接続1	(講義・演習) 小学校から中学校への効果的な接続2	(講義・演習) 小学校から中学校への効果的な接続2	昼休み	(講義) 中学校から高等学校への効果的な接続	(研究協議) 小学校・中学校・高等学校の円滑な接続に向けて	(研究協議) 小学校・中学校・高等学校の円滑な接続に向けて	(閉講式)

実施場所：教育学部 第2情報演習室, 環境教育実習室

I 研修概要

研 修 名	産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修 (新産業技術等指導者養成講習) 中学校技術 (I-2-4)		
担 当 課 係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係		
研 修 目 的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。		
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭		
開 催 期 日	平成17年12月19日 (月) ~平成17年12月23日 (金)	5日間	
受 講 人 数	計画人数	20 人	受講者数 8 人 参加率 40.0%
開 催 場 所	鳴門教育大学		

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だ った	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	2 25.0	5 62.5	1 12.5	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・すぐに現場で活用できる教材もあり、将来に向けて知っておくべき高度な内容もあり参考になりました。 ・高度な研修内容であり難しさを感じましたが、今後の研修の必要性和使命感を感じました。 ・理論的研究と実習とバランスよく計画されていました。ただ時間的にやや消化不良の内容もあったように思います。 ・各地の技術科関係の先生方と意見交換できる貴重な場をご提供いただき、大変有意義な5日間であったと思います。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・実施経費の派遣者負担を導入した。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

(技術, I-2-4)

委託団体名 鳴門教育大学

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
平成17年 12月19日(月)		開 講 式	技術「情 報とコン ピュータ 」概説	高度情報 社会と情 報モラル	昼休み	計算機器の変遷	計算機器の変遷	計算機器の開発	
12月20日(火)	マルチメディア と情報技術教育		マルチメディア と情報技術 教育	昼休み	Web環境とソフト ウェア利用	Web環境とソフト ウェア利用	Web環境とソフト ウェア利用		
12月21日(水)	計測と制御		計測と制御	昼休み	計測と制御	計測と制御	計測と制御		
12月22日(木)	コンピュータ システムとネ ットワーク		コンピュータ システムとネ ットワーク	昼休み	コンピュータシ ステムとネッ トワーク	コンピュータシ ステムとネッ トワーク	コンピュータシ ステムとネッ トワーク		
12月23日(金)	情報技術教育 の捕らえ方		「情報とコン ピュータ」デ ィスカッショ ン	昼休み	「情報とコンピ ュータ」ディス ィスカッショ ン	閉 講 式			

実施場所 高度情報研究教育センター他

(注) 別紙記入例を参考に, なるべくワークプロにより記入くださるようお願いいたします。

I 研修概要

研 修 名	産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修 (新産業技術等指導者養成講習) 中学校家庭 (J-1)		
担 当 課 係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係		
研 修 目 的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。		
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭		
開 催 期 日	平成17年 8月 1日 (月) ~平成17年 8月 5日 (金)	5日間	
受 講 人 数	計画人数	50 人	受講者数 42 人 参加率 84.0%
開 催 場 所	女子栄養大学		

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だ った	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	29: 74.4	10: 25.6	0: 0.0	0: 0.0	2: /

2. 研修内容に関する主な意見

・実習・実験・演習では、基本的なことから新鮮な内容、日常はできない専門的なことも、体験的にも学べて大変よかった。グループ活動をしなが、子どもと同じ目線に立ち、改めて、指導の方法を考えてみました。

・説明が長く実習時間が少ない時もありましたので、作業時間を多くしていただき（作業中失敗もあるので）その後で失敗した原因や補足説明を充実させていただいた方がたすかります。

・実習を多く実施して頂いたおかげで、ふだん実習を指導する立場としては、生徒の立場としての気づきをたくさん発見することができ、これからの実践に役立てられる点が十分にありました。「忙しい」「時間がない」で、教具や教材研究がついおろそかになっている現状に、ふと立ちどまり、更なる研究を重ねるきっかけづくりになりました。

・座学でも、自分の知っていることに加え、最新の知識や多方面からみた食についての考えなどを知ることができてよかったです。最後の講義ではディスカッションを行い、他の先生方が考えていることがわかりました。課題解決するために、いろいろな手立てがあると改めて思いました。

・いろいろな地域の特徴（地域、家庭、学校、生徒の実態）などがわかりそれを踏まえた指導方法についての情報交換ができる時間があるとよかった。

III 研修内容・方法の見直し等

・実施経費の派遣者負担を導入した。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度 産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

真団体名 学校法人香川栄養学園

家庭：J-1

時間	9:00	9:30	10:00	10:30	12:00	13:00	14:30	15:00	16:00
8月1日 (月)		受付	閉講式 ガイダンス	「講義」 「技術・家庭科の指導と評価」 (担当) 岡陽子 (文部科学省初等中等教育局教科調査官) (会場) 2201教室		「講義」 「中学校技術・家庭の食に関する指導の充実」 (担当) 榎井純子 (女子栄養大学教授) (報告) 「技術・家庭における食に関する指導の実践事例」 (担当) 出井玲子 (荒川区立諏訪台中学校技術・家庭教諭) (会場) 2201教室			
8月2日 (火)		(実習) 「家族で楽しめる簡単なお菓子づくり」 (担当) 竹澤正喜 (香川栄養専門学校教授) (会場) 1F調理教育実習室				(実習) 「基本的操作を取り入れた調理」調理実習 (担当) 島崎とみ子 (女子栄養大学助教授) (会場) 2F調理実習室 / 1F調理教育実習室・食事室			
8月3日 (水)		(講義) 食の現代的問題 「中高生の肥満とやせ」 (担当) 蒲池桂子 (女子栄養大学講師) (会場) 2201教室		(講義) 食の現代的問題 「朝食欠食と健康問題」 (担当) 香川靖雄 (女子栄養大学教授・副学長) (会場) 2201教室		(講義) 「食事摂取基準について」 (担当) 川端輝江 (女子栄養大学助教授) (会場) 2201教室		(講義) 「食の安全性と環境」 (担当) 森原祥浩 (女子栄養大学教授) (会場) 2201教室	
8月4日 (木)		(実習) 「日常食の調理—食品と調理性」調理実験等 (担当) 安原安代 (女子栄養大学教授) (会場) 2F調理実習室		(実習) 「日常食の調理—食品と調理性」調理実験等 (担当) 柴田圭子 (同専任講師)		(講義・演習) 「実践力を養う技術・家庭科での食に関する指導」 (担当) 岡崎光子 (女子栄養大学教授) (会場) 2201教室			
8月5日 (金)		(実習) 会食のための献立、調理、テーブルセッティング (担当) 高橋敦子 (女子栄養大学教授) (会場) 1F調理教育実習室		(実習) 会食のための献立、調理、テーブルセッティング (担当) 奥嶋佐知子 (同助手)		(ディスカッション) 「実践力を養う技術・家庭科での食に関する指導」指導案発表 (担当) 岡崎光子 (女子栄養大学教授) (会場) 2201教室		閉講式	

研修実施場所：女子栄養大学坂戸校舎

I 研修概要

研 修 名	産業教育に携わる実習助手に対して必要な知識・技術を修得させることを目的とした研修（高等学校産業教育実習助手講習）（農業）		
担 当 課 係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係		
研 修 目 的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。		
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭		
開 催 期 日	平成17年 7月27日（水）～平成17年 8月 3日（水）	7日間	
受 講 人 数	計画人数	30 人	受講者数 28 人 参加率 93.3%
開 催 場 所	東京農工大学農学部		

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	10 35.7	17 60.7	1 3.6	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段見れないことや、考えられない（考えない）ことにふれ良い刺激になりました。後学に生かしたいと思えます。ありがとうございました。 ・ メニューが豊富で、大変充実した時間を過ごすことができました。ありがとうございました。農業科の教員が主ですが、園芸、林業、食品など、専門が多様なので、それぞれの面に役立てられるかと思えます。様々な視点から見た「農業」。農業教育に携る者として、刺激がたくさんありました。単独で授業（特に座学）を持つことはありませんが、高校生と接して行く中で、今回の講習を生かし、「農業」への関心・意識を互いに高めていけたらと思っております。 ・ 普段学ぶことのない内容を勉強できるのは、とっても良かったです。ありがとうございました。 ・ 体験談や実物を見聞きする講義は、楽しく受けることができました。専門的すぎて話が分からない事もありました。 ・ 実習を入れて欲しい。 ・ 講義が多く、実習が少なくて残念でした。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施経費の派遣者負担を導入した。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度産業教育に携わる実習助手に対して必要な知識・技術を修得させることを目的とした研修日程

(農業)

貴大学名 国立大学法人 東京農工大学

日時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
7月27日(水)			開講式・オリエンテーション	有馬農学部長特別講演	昼休み	(講義)3-① 水資源とその有効利用 (講義・実習)1-① 動物を用いた実験実習指導の実際1		(講義)2-① 産業昆虫の生物学	
7月28日(木)	(講義)3-② 自然保護・再生・持続的開発：特に農林業展望	休憩	(講義)2-② 海洋付着生物に関する科学	休憩	昼休み	(講義)1-⑤ 農業科教育法I 農と教育	休憩	(講義・実習)1-② 動物を用いた実験実習指導の実際2	
7月29日(金)	(講義)1-③ 世界の食料・農業事情と教育 その1	休憩	(講義)1-④ 世界の食料・農業事情と教育 その2	休憩	昼休み	(講義)2-④ タンパク質の立体構造解析概論	休憩	(講義)1-⑥ 農業科教育法II 農業高校教育の課題	
7月30日(土)	(講義)2-③ 植物のバイオテクノロジー	休憩	(講義)3-③ 生態系に調和した水田の整備	休憩	昼休み		休憩	(講義・実習)2-⑤ 植物組織培養実験	
7月31日(日)	休 日								
8月1日(月)	(講義)2-⑥ 現代社会と微生物研究	休憩	(講義)3-④ 森林と環境	休憩	昼休み	(講義)2-⑦ 昆虫による花粉媒介	休憩	(講義)2-⑧ 機能性食品としてのコラーゲン	
8月2日(火)	(講義)3-⑤ 農業と情報利用	休憩	(講義)3-⑥ 環境影響評価の制度	休憩	昼休み	(講義)1-⑦ 動物と人は理解しあえるのか? その1	休憩	(講義)1-⑧ 動物と人は理解しあえるのか? その2	
8月3日(水)	(講義)3-⑦ 農業生産と土と水の保全管理	休憩	(講義)3-⑧ チャオプラヤデルタの開発と歴史	休憩	昼休み	(講義)2-⑨ 植物病害防除技術と安全・安心	休憩	(講義・実習)2-⑩ 植物病害防除技術実習	閉講式

教職に関する専門科目(1単位) 1 農業科教育法 1-①~1-⑧

教科に関する専門科目(2単位) 2 現代社会とライフサイエンス 2-①~2-⑩

” 3 地域と環境のマネージメント 3-①~3-⑧

研修実施場所 国立大学法人 東京農工大学

I 研修概要

研 修 名	産業教育に携わる実習助手に対して必要な知識・技術を修得させることを目的とした研修（高等学校産業教育実習助手講習）（工業）					
担 当 課 係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係					
研 修 目 的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭					
開 催 期 日	平成17年8月22日（月）～平成17年8月30日（火）	8日間				
受 講 人 数	計画人数	30 人	受講者数	30 人	参加率	100.0%
開 催 場 所	金沢工業大学					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答
人数(人)	割合(%)	18 62.1	11 37.9	0 0.0	0 0.0	1

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・座学だけでなく色々な実習もあり、1日1日新鮮な気持ちで講義を受ける事ができました。工業安全では止血、タンカの使い方などまで教えていただき参考になりました。 ・専門外の内容についてはなかなか理解できなかった面もありますが、少しずつ他学科の専門内容を理解することができました。所属校に戻ったあと、他科の内容にも今まで以上に興味を持ち、各科で協力していけることを見つけていきたいと思いました。工業科の職員として視野が広がったと思います。 ・講義ではとてもわかりやすく教育現場とリンクしたものとなっており多忙の折講師を務めていただいた先生方にも感謝しております。本研修を通して得た知識や技術を自分の職場にあったものにアレンジし、実践することが恩返しと肝に銘じ職務に励みたいと思います。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・実施経費の派遣者負担を導入した。

IV 研修日程(プログラム) 次ページのとおり

平成17年度産業教育に携わる実習助手に対して必要な知識・技術を修得させることを目的とした研修日程

(工業)

大学名 金沢工業大学

日時	8:40	9:40	9:55	10:55	11:10	12:10	13:00	14:00	14:15	15:15	15:30	16:30	16:45	17:45
8/22 (月)			オリエンテーション 受付・開講式		【講義】工業安全 (1/16) ガイダンス・ 教育機関と関係法令①		【講義】工業安全 (2/16) 教育機関と関係法令②		【講義】工業安全 (3/16) 機械に関する安全①		【講義】工業安全 (4/16) 機械に関する安全②		【講義】工業安全 (5/16) 安全管理に関する 学内施設見学①	
8/23 (火)	【講義】工業安全 (6/16) 化学に関する安全①	【講義】工業安全 (7/16) 化学に関する安全②		【講義】工業安全 (8/16) 電気に関する安全		【講義】工業安全 (9/16) 安全組織	【講義】工業安全 (10/16) 環境整備と安全教育①	【講義】工業安全 (11/16) 環境整備と安全教育②					【講義】工業安全 (12/16) 安全管理に関する 学内施設見学②	
8/24 (水)	【講義】工業安全 (13/16) 環境整備と安全教育③	【講義】工業安全 (14/16) 事例に学ぶ事故未然 防止についての協議①	【講義】工業安全 (15/16) 事例に学ぶ事故未然 防止についての協議②			【講義】工業安全 (16/16) 事故発生時の対応								
8/25 (木)	【講義】制御工学 (3/14) 機械構成②	【講義】制御工学 (4/14) 機械構成③	【講義】制御工学 (5/14) 電気回路①			【講義】制御工学 (6/14) 電気回路②	【講義】制御工学 (7/14) 電気回路③	【講義】制御工学 (8/14) プログラミング①						
8/26 (金)	【講義】制御工学 (9/14) プログラミング②	【講義】制御工学 (10/14) 制御方法①	【講義】制御工学 (11/14) 制御方法②			【講義】制御工学 (12/14) 制御方法③	【講義】制御工学 (13/14) 制御方法④							
8/27 (土)	【講義】工業科教育法 (1/14)	【講義】工業科教育法 (2/14)	【講義】工業科教育法 (3/14)			【講義】工業科教育法 (4/14)	【講義】工業科教育法 (5/14)	【講義】工業科教育法 (6/14)						
8/29 (月)	【講義】工業科教育法 (7/14)	【講義】工業科教育法 (8/14)	【講義】工業科教育法 (9/14)			【講義】工業科教育法 (10/14) 石川県の工業教育	【講義】工業科教育法 (11/14) めざせスペシャリスト について	【講義】工業科教育法 (12/14)						
8/30 (火)	【講義】工業科教育法 (13/14)	【講義】工業科教育法 (14/14)	閉講式											